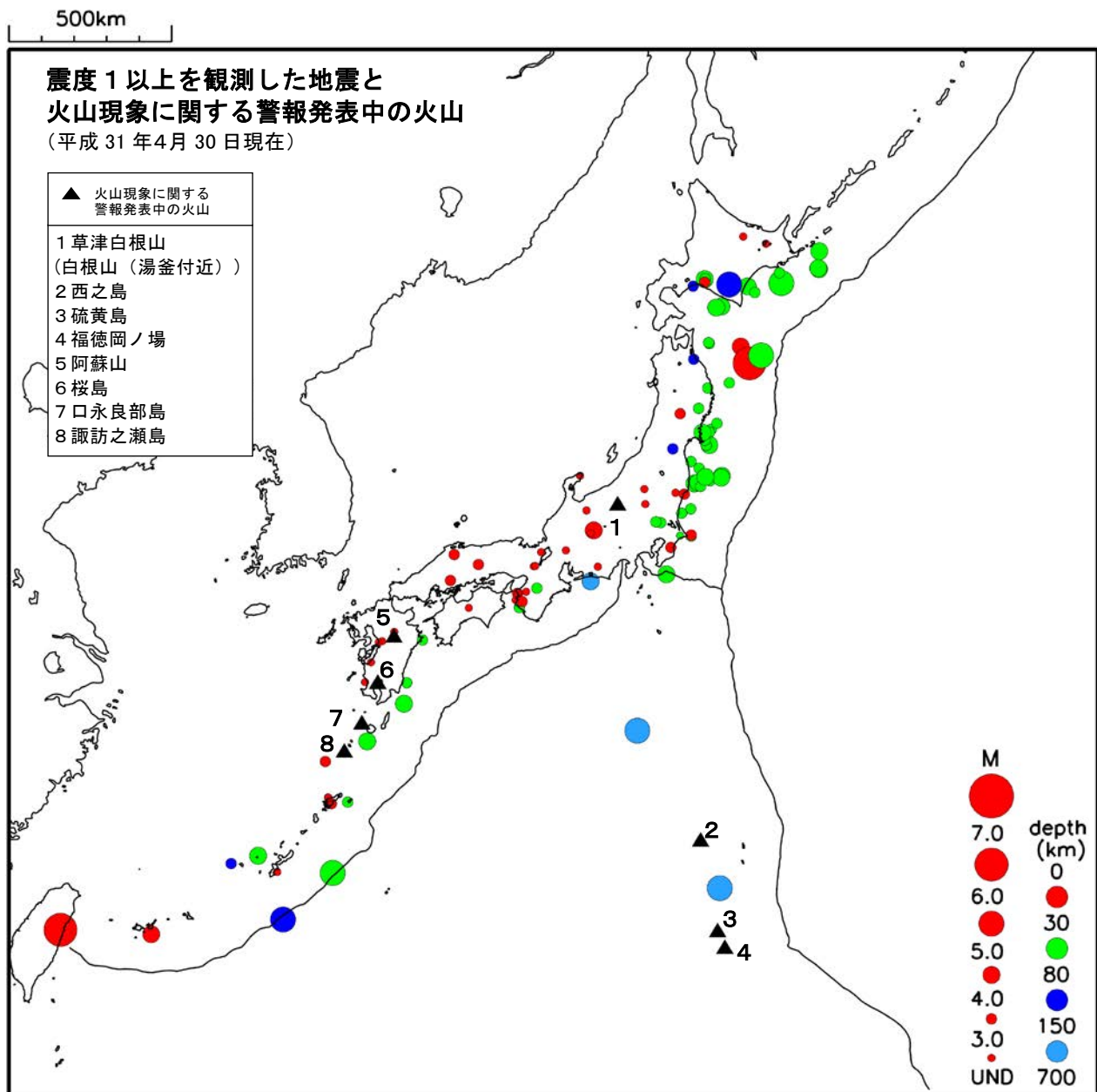


平成 31 年 4 月 地震・火山月報(防災編)

Monthly Report on Earthquakes and Volcanoes in Japan

April 2019



気 象 庁

Japan Meteorological Agency

利用にあたって

本書は、地震・火山に関連した各種防災情報や地震・火山活動に関する分析結果の最新版を防災機関等における効果的な利用に供するため、毎月刊行している。

気象庁では、平成9年(1997年)11月10日より、国・地方公共団体及び住民が一体となった緊急防災対応の迅速かつ円滑な実施に資するため、気象庁の震度計の観測データに合わせて地方公共団体*及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものも震度情報として発表している。

また、気象庁では、地震防災対策特別措置法の趣旨に沿って、平成9年(1997年)10月1日より、大学や国立研究開発法人防災科学技術研究所等の関係機関から地震観測データの提供を受け**、文部科学省と協力してこれを整理し、整理結果等を、同法に基づいて設置された地震調査研究推進本部地震調査委員会に提供するとともに、気象業務の一環として防災情報として適宜発表する等活用している。

本誌で使用している震源位置・マグニチュードは世界測地系 (Japanese Geodetic Datum 2000) に基づいて計算したものである。

注* 平成31年4月30日現在：北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、札幌市（北海道）、仙台市（宮城県）、千葉市（千葉県）、横浜市（神奈川県）、川崎市（神奈川県）、相模原市（神奈川県）、名古屋市（愛知県）、京都市（京都府）の47都道府県、8政令指定都市。

注**平成31年4月30日現在：国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用している。

□本書利用上の注意

・震央分布図中の語句について

M：マグニチュード（通常、揺れの最大振幅から推定した気象庁マグニチュードだが、気象庁 CMT 解のモーメントマグニチュードの場合がある。）

Mw：モーメントマグニチュード（特にことわりがない限り、気象庁 CMT 解のモーメントマグニチュードを表す。）

depth：深さ（km）

UND：マグニチュードの決まらない地震が含まれていることを意味する。

N=xx, yy/ZZ：図中に表示している地震の回数を表す（通常図の右肩上に示してある）。ZZ は回数の総数を表し、xx, yy は期間別に表示色を変更している場合に、期間毎の回数を表す。

・発震機構解について

本書での発震機構解の図は下半球投影である。また、本書での発震機構解は、特にことわりがない限り、初動による発震機構解である。初動発震機構解が求められない場合や、十分な精度が得られない場合には、初動発震機構解に替えて CMT 解を掲載する場合がある。

・発震機構解の図中の語句について

P：P 軸（圧力軸） T：T 軸（張力軸）

N：N 軸（中立軸）

・Global CMT解について

Global CMT解は、米国のコロロンビア大学とハーバード大学で行っている、世界で発生した規模の大きな地震のCMT解を求めるプロジェクト（Global CMT Project）により求められた解である。

・M－T図について

縦軸にマグニチュード（M）、横軸に時間（T）を表示した図であり、地震活動の経過を見るために用いる。

・震央地名について

本書での震央地名は、原則として情報発表時に使用したものをを用いるが、震央を精査した結果等により、情報発表時とは異なる震央地名を用いる場合がある。なお、情報発表時の震央地名及びその領域については、各年の「地震・火山月報（防災編）」1月号の付録「地震・火山月報（防災編）で用いる震央地名」を参照のこと。

・震源と震央について

震源とは地震の発生原因である地球内部の岩石の破壊が開始した点であり、震源の真上の地点を震央という。

・地震の震源要素等について

2016年4月1日以降の震源では、Mの小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。

震源の深さを「CMT 解による」とした場合は、気象庁 CMT 解のセントロイド（破壊の重心）の深さをを用いている。

地震の震源要素、発震機構解、震度データ等は、再調査後、修正することがある。確定した値、算出方法については、地震月報（カタログ編）[気象庁ホームページ：<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/bulletin/index.html>]に掲載する。

・火山の活動解説の火山性地震回数等について

火山性地震や火山性微動の回数等は、再調査後、修正することがある。確定した値については、火山月報（カタログ編）[気象庁ホームページ：https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/bulletin/index_vcatalog.html]に掲載する。

・本書で使用した地図等について

本書中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用した（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。また、震央分布図等に表記した活断層は、地震調査研究推進本部の長期評価による。

・図版作成には一部 GMT (Generic Mapping Tool [Wessel, P., and W. H. F. Smith, New, improved version of Generic Mapping Tools released, *EOS Trans. Amer. Geophys. U.*, vol. 79 (47), pp. 579, 1998]) を使用した。

目次

● 日本及びその周辺での主な地震活動	1
北海道地方の地震活動	5
東北地方の地震活動	8
関東・中部地方の地震活動	10
近畿・中国・四国地方の地震活動	11
九州地方の地震活動	12
沖縄地方の地震活動	13
その他の地域の地震活動	15
● 南海トラフ周辺の地殻活動	16
● 日本の主な火山活動	59
北海道地方の火山活動	69
東北地方の火山活動	71
関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島の火山活動	73
近畿・中国・四国地方の火山活動	77
九州地方の火山活動	78
沖縄地方の火山活動	82
火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報等の発表履歴	83
● 世界の主な地震	85
● 世界の主な火山活動	86
● 付録	
1. 震度1以上を観測した地震の表	87
2. 過去1年間に震度1以上を観測した地震の最大震度別の月別回数	99
3. 日本及びその周辺におけるマグニチュード（M）別の月別地震回数	100
4. 長周期地震動階級1以上を観測した地震	101
5. 緊急地震速報の提供状況	102

●日本及びその周辺での主な地震活動

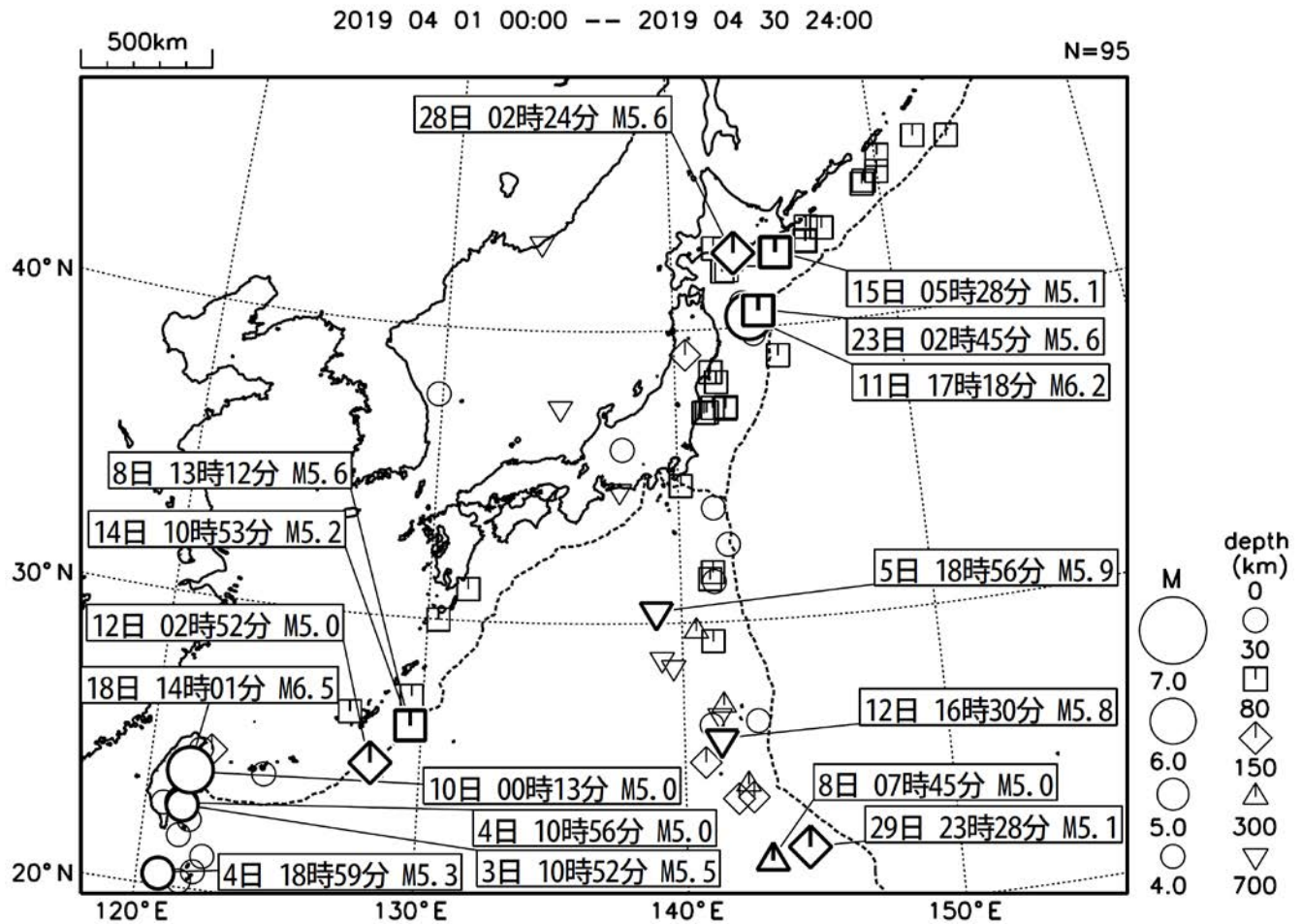


図1 平成31年4月に日本及びその周辺で発生したM4.0以上の地震の震央分布図

（図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。）

平成31年（2019年）4月に日本国内で震度4以上を観測した地震の回数は1回（3月は5回）、日本及びその周辺で発生したM4.0以上の地震の回数は95回（3月は86回）であった（図1）。4月中に発生した主な地震を表1、震度1以上を観測した地震の震央を図2、M4.0以上の地震の震央を図3、震度4以上を観測した地震の震度分布図を図4に示す。4月中に震度5弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はなかった（3月は震度5弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はなかった）。

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

表 1 平成 31 年 4 月に日本及びその周辺で発生した主な地震（注 1）（注 2）（注 3）

No.	震源時 月 日 時 分	震央地名	M	Mw (注 4)	M H S T (注 5)	最大震度・被害状況等 (注 6)	掲載 ページ
1	4 11 17 18	三陸沖	6.2	6.2	M . . .	3：青森県 八戸市南郷＊ 岩手県 普代村銅屋＊ 宮城県 涌谷町新町裏 など 3 県 9 地点	9
2	4 15 5 28	釧路沖	5.1	5.0		3：北海道 浦幌町桜町＊ など 1 道 7 地点	6
3	4 18 14 1	台湾付近	6.5	6.2	M . . .	2：沖縄県 与那国町祖納 与那国町久部良 与那国町役場＊	14
4	4 28 2 24	十勝地方南部	5.6	5.5	. . S .	4：北海道 千歳市支笏湖温泉＊ など 1 道 9 地点	4、7

（注 1）主な地震とは、図 1 の領域内で発生した①M6.0 以上、②震度 4 以上、③内陸 M4.5 以上かつ震度 3、④海域 M5.0 以上かつ震度 3、⑤その他注目した地震を指す。

（注 2）震源時、震央地名、マグニチュードは再調査後、修正することがある。

（注 3）空欄については、複数の地震による活動のため、記載していない場合がある。

（注 4）Mw 欄の「—」は Mw が求められていないことを示す。

（注 5）M H S T の各項目について、M:M6.0 以上の地震、H:被害を伴った地震、S:震度 4 以上を観測した地震、T:津波を観測した地震、として該当項目にそれぞれの記号を記した。

（注 6）最大震度の観測点名にある＊印は地方公共団体もしくは国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点であることを表す。被害状況について出典の記載がないものは総務省消防庁による。

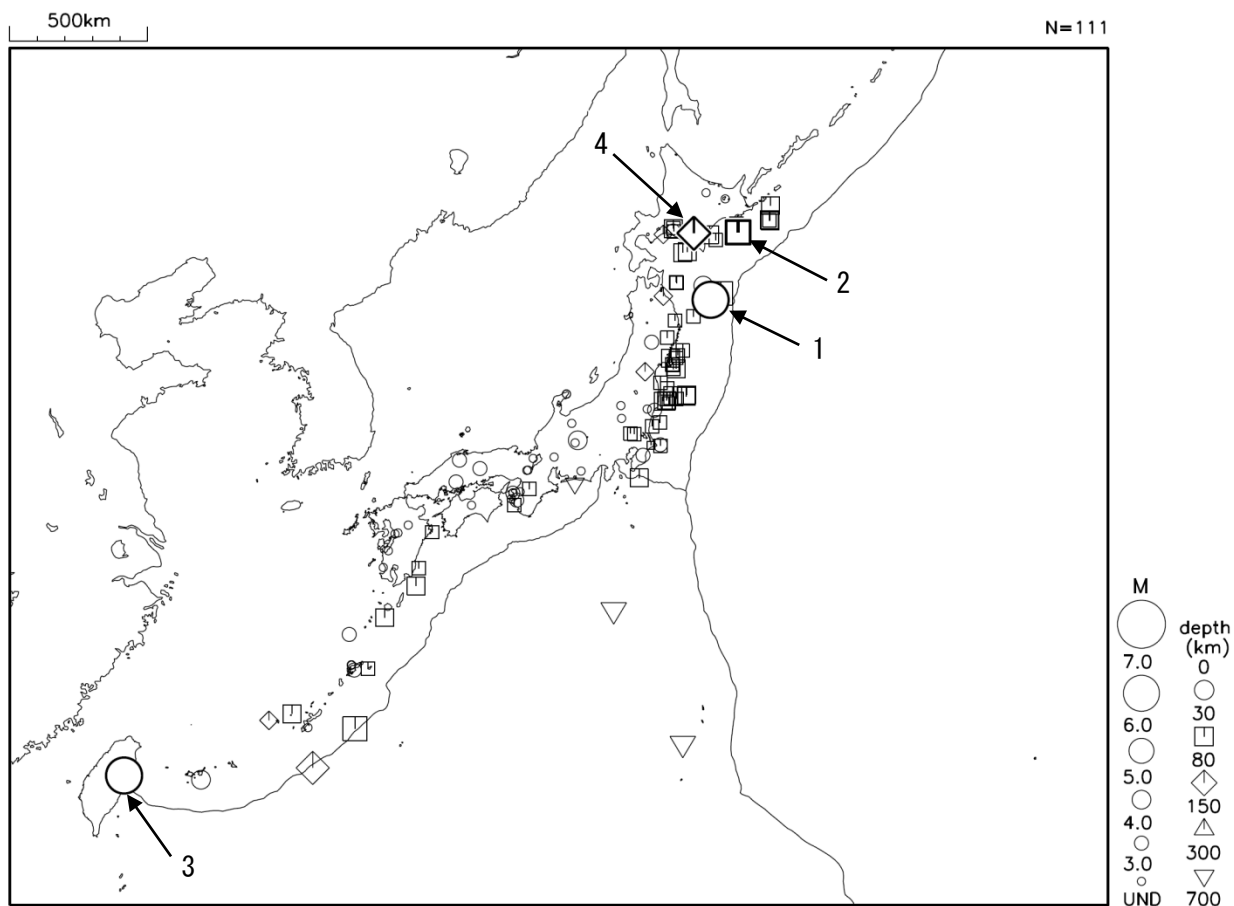


図2 平成31年4月に震度1以上を観測した地震（図中の番号は、表の番号に対応）

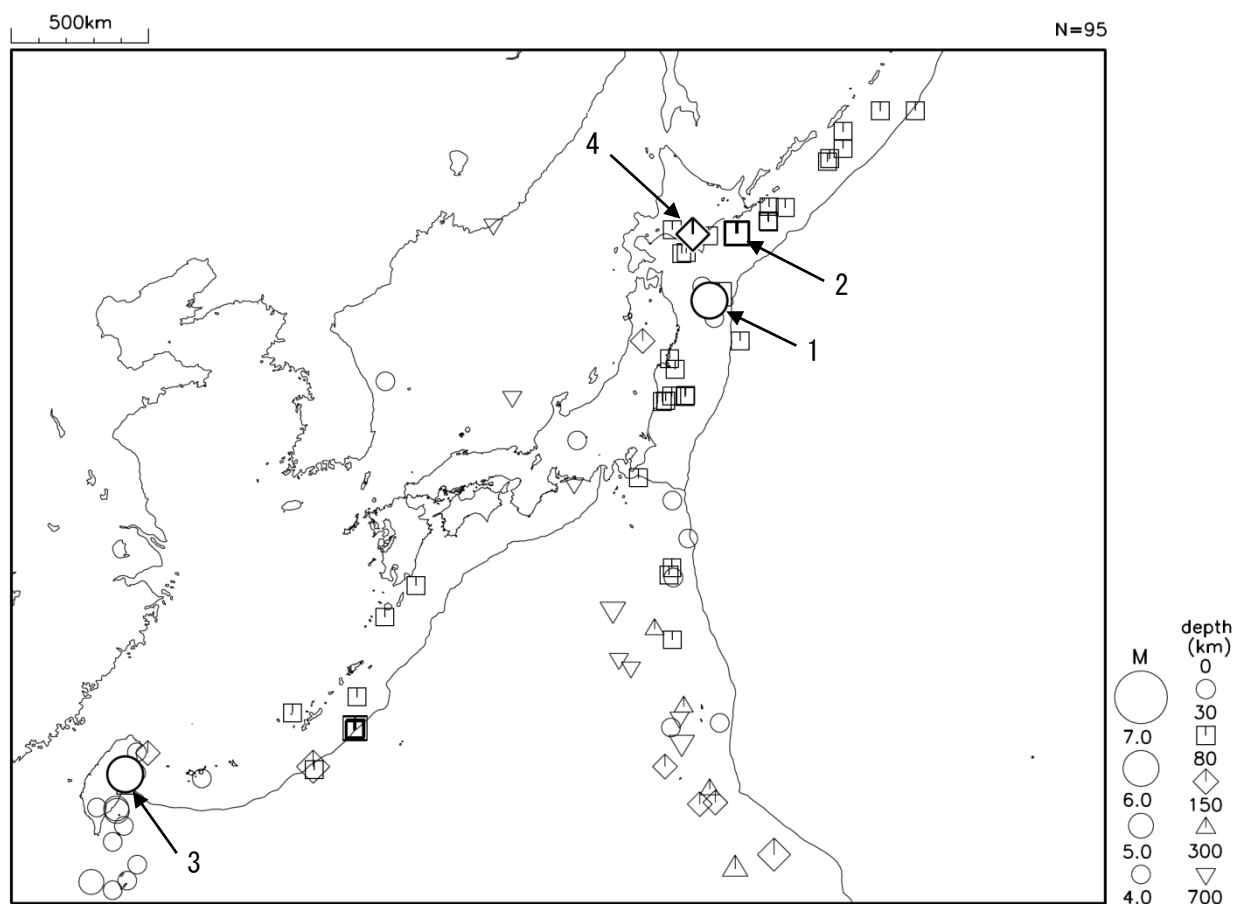


図3 平成31年4月に発生した M4.0 以上の地震（図中の番号は、表の番号に対応）

4 4 月 28 日 02 時 24 分 十勝地方南部
(M5.6、深さ 102km、最大震度 4)

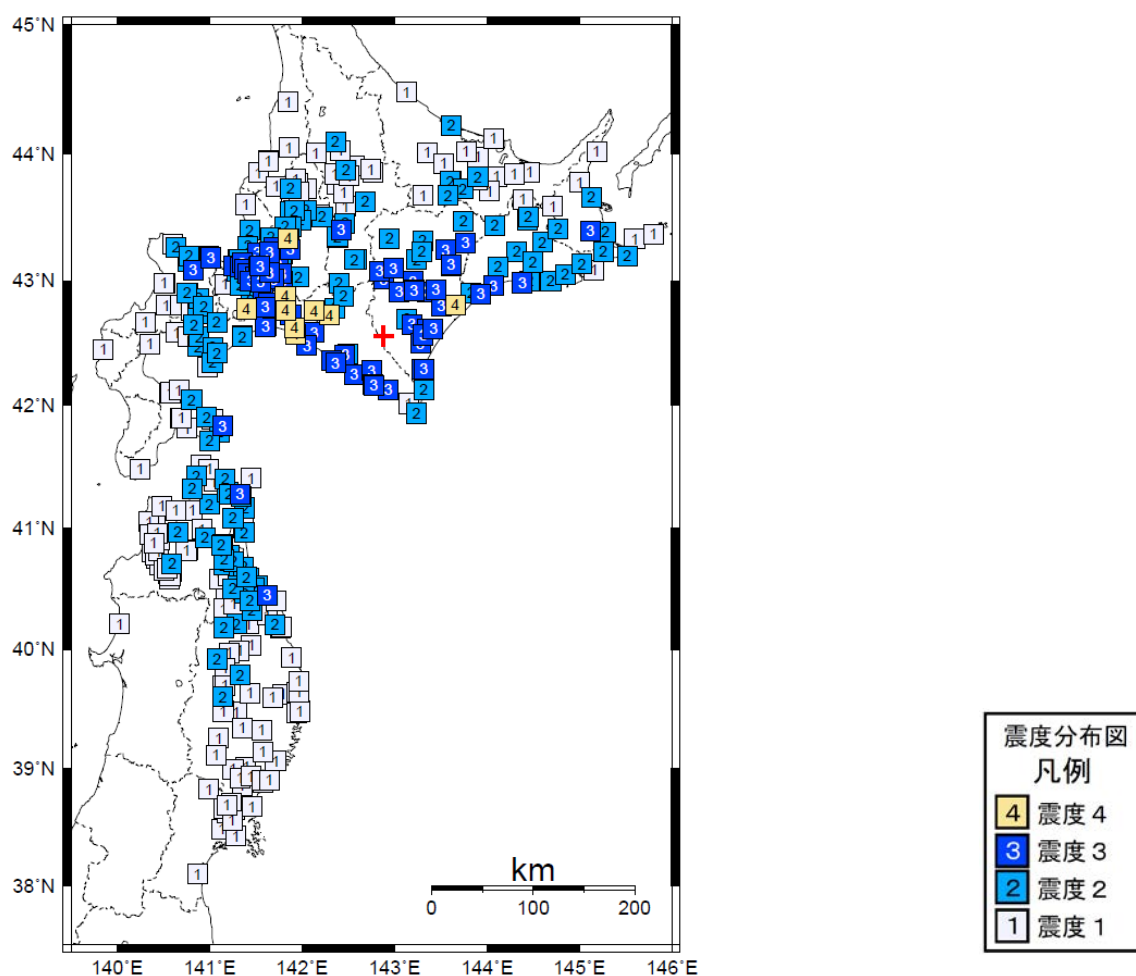


図 4 震度分布図

(各図の左上の数字は表 1、図 2、図 3 の番号に対応する。+印は震央を示す)

※その他の地震の震度分布図については、気象庁 HP の震度データベース

(<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php>) をご覧ください。

○北海道地方の地震活動

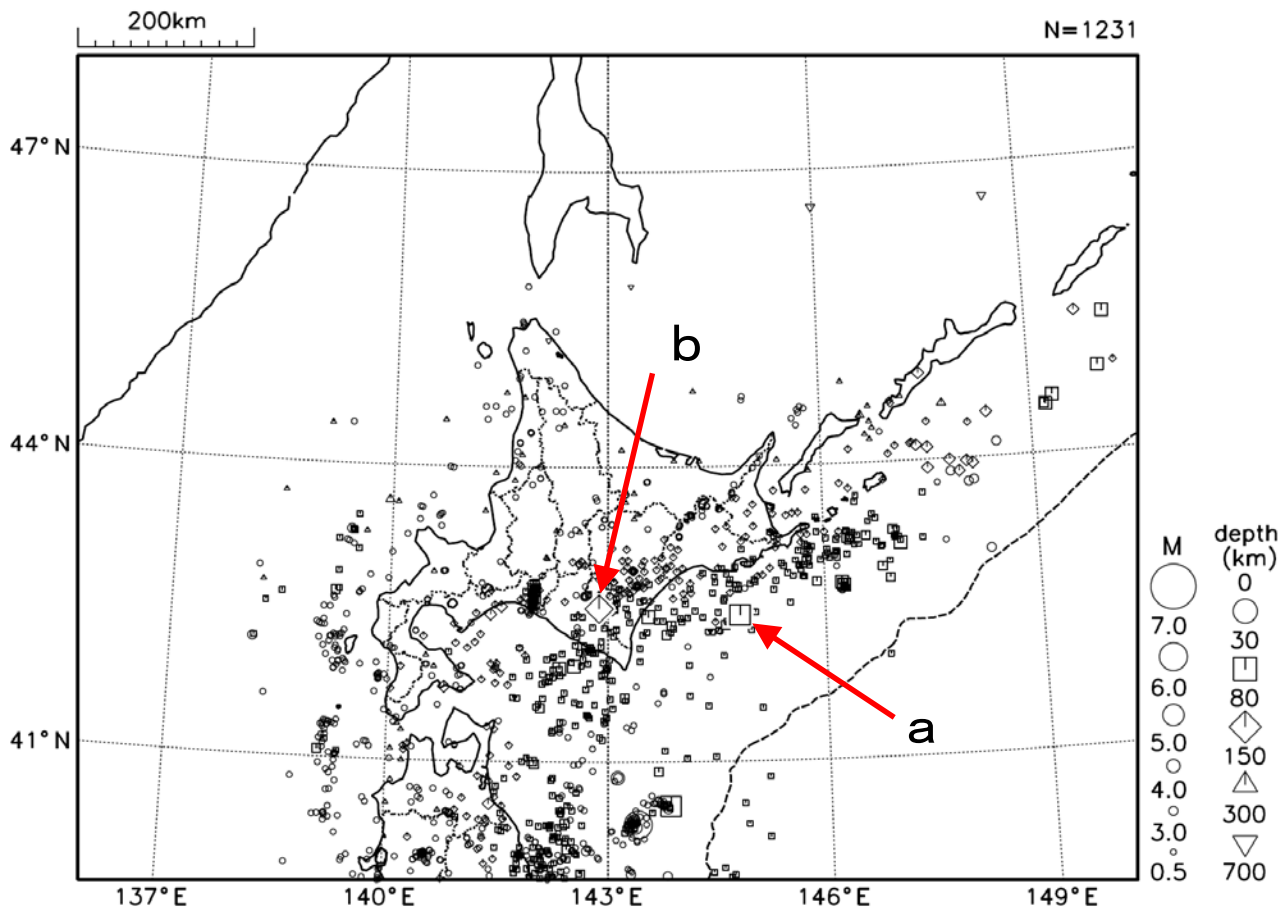


図5 北海道地方の震央分布図（2019年4月1日～4月30日、 $M \geq 0.5$ ）

〔概況〕

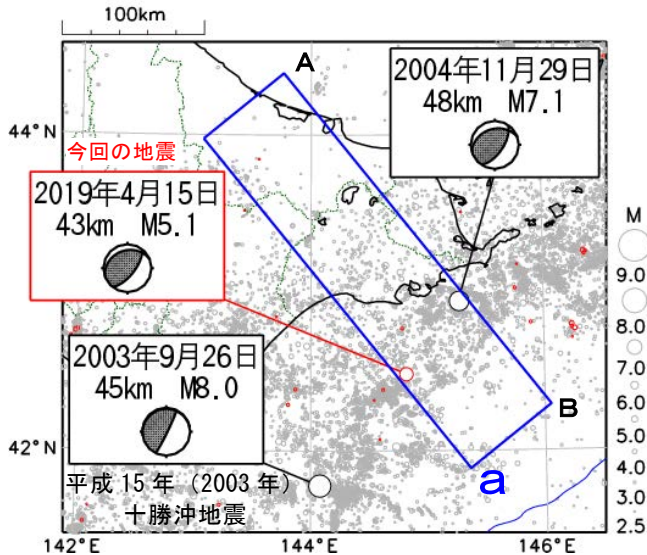
4月に北海道地方で震度1以上を観測した地震は23回（3月は14回）であった。
4月中の主な地震活動は次のとおりである。

15日05時28分に釧路沖の深さ43kmでM5.1の地震（図5中のa）が発生し、北海道釧路・根室・十勝地方で震度3を観測したほか、北海道から岩手県にかけて震度2～1を観測した（p. 6参照）。

28日02時24分に十勝地方南部の深さ102kmでM5.6の地震（図5中のb）が発生し、北海道石狩・空知・胆振・日高・十勝地方で最大震度4を観測したほか、北海道から宮城県にかけて震度3～1を観測した（p. 4、7参照）。

4 月 15 日 釧路沖の地震

震央分布図
(2001 年 10 月 1 日～2019 年 4 月 30 日、
深さ 0～200km、 $M \geq 2.5$)
2019 年 4 月の地震を赤く表示
図中の発震機構は CMT 解

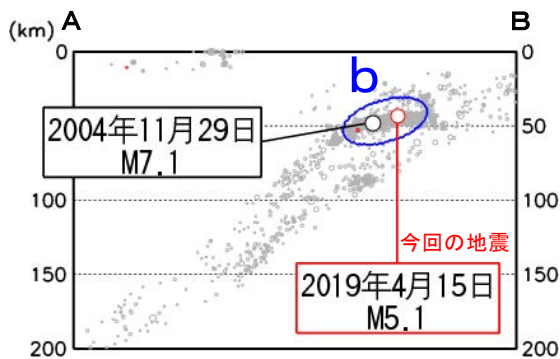


2019年4月15日05時28分に釧路沖の深さ43kmでM5.1の地震（最大震度3）が発生した。この地震は発震機構（CMT解）が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

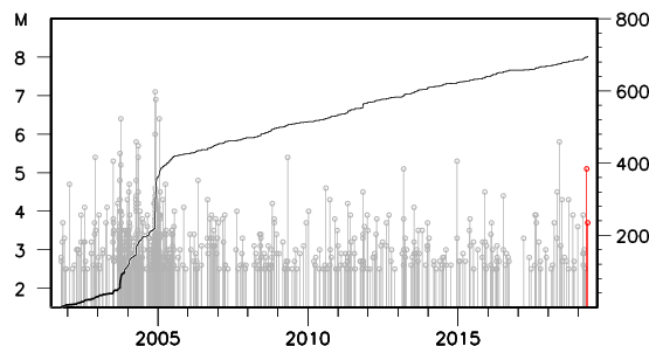
2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M5.0以上の地震が時々発生している。最大規模の地震は2004年11月29日に発生したM7.1の地震（最大震度5強）で、根室市花咲で12cmの津波を観測した。この地震により、負傷者52人、住家被害5棟などの被害が生じた（「日本被害地震総覧」による）。

1922 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0 以上の地震がしばしば発生している。2003 年 9 月 26 日の「平成 15 年（2003 年）十勝沖地震」（M8.0、最大震度6弱）では、十勝港で255cmの津波を観測するなど、北海道から四国の太平洋沿岸で津波を観測した。この地震により、北海道では死者1人、行方不明者1人、負傷者847人、住家被害2,065棟などの被害が生じた（「理科年表」による）。

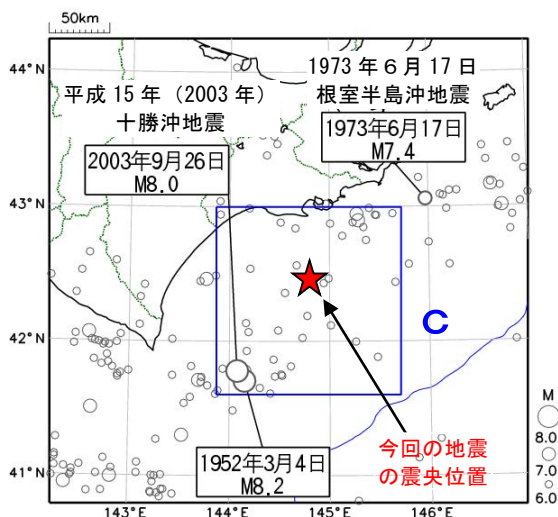
領域 a 内の断面図（A－B 投影）



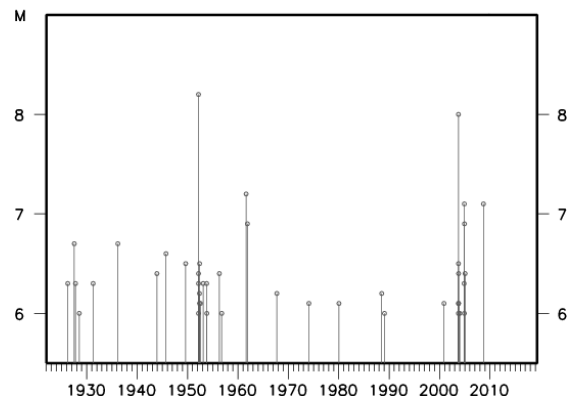
領域 b 内の M－T 図及び回数積算図



震央分布図
(1922 年 1 月 1 日～2019 年 4 月 30 日、
深さ 0～100km、 $M \geq 6.0$)

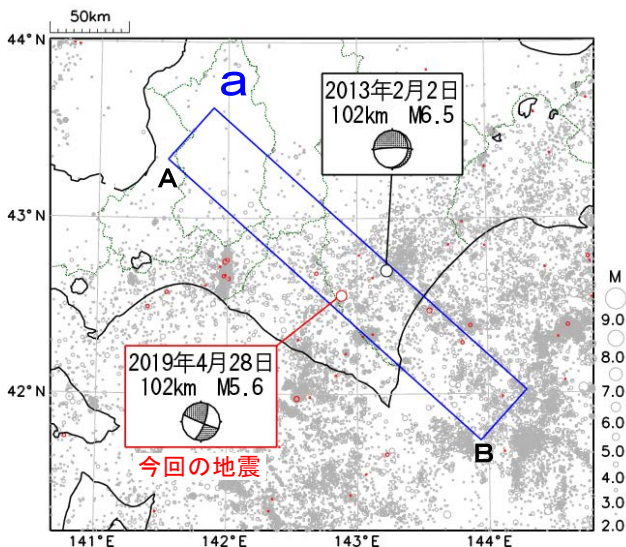


領域 c 内の M－T 図



4 月 28 日 十勝地方南部の地震

震央分布図
(2001 年 10 月 1 日～2019 年 4 月 30 日、
深さ 0～150km、 $M \geq 2.0$)
2019 年 4 月の地震を○で表示

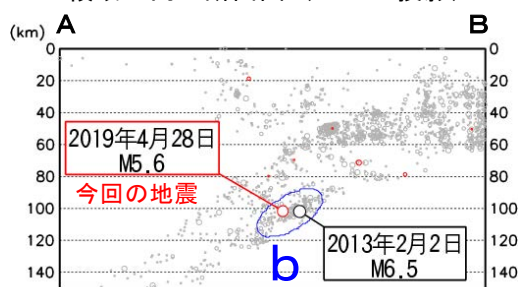


2019 年 4 月 28 日 02 時 24 分に十勝地方南部の深さ 102km で M5.6 の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震は発震機構がプレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した。

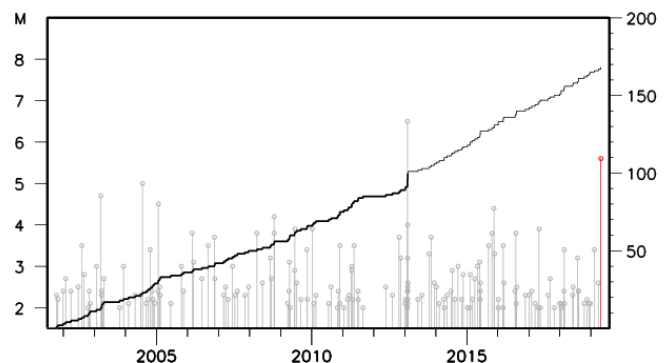
2001 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域 b) では、M5.0 以上の地震が今回の地震を含めて 3 回発生している。2013 年 2 月 2 日には M6.5 の地震 (最大震度 5 強) が発生し、負傷者 14 人、住家一部破損 1 棟の被害が生じた (「総務省消防庁」による)。

1922 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 c) では、M6.0 以上の地震がしばしば発生している。1970 年 1 月 21 日に発生した M6.7 の地震 (最大震度 5) では、負傷者 32 人、住家全壊 2 棟、半壊 7 棟などの被害が生じた (「日本被害地震総覧」による)。

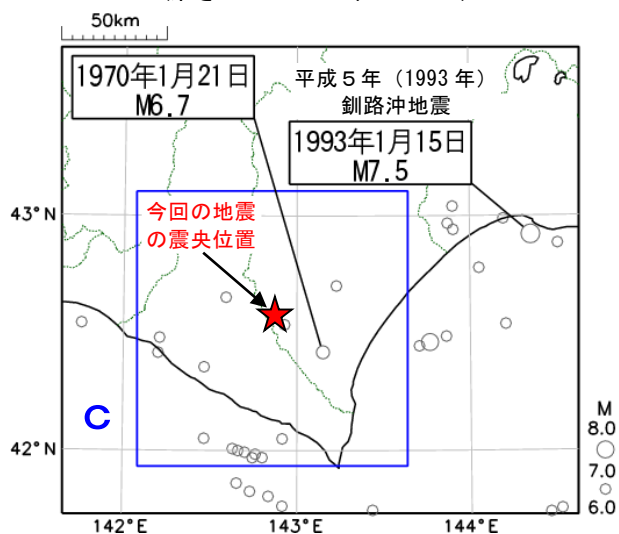
領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



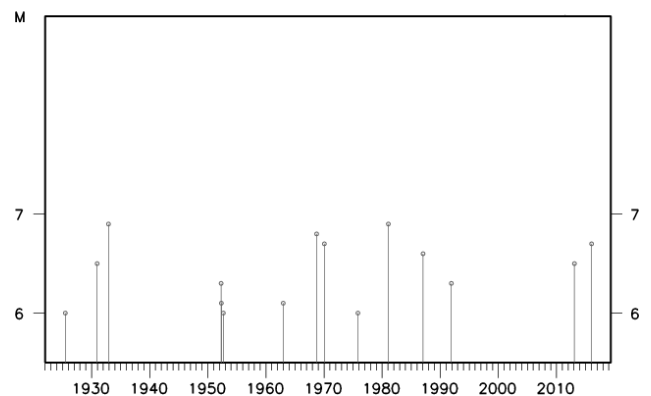
領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



震央分布図
(1922 年 1 月 1 日～2019 年 4 月 30 日、
深さ 50～150km、 $M \geq 6.0$)



領域 c 内の M-T 図



○東北地方の地震活動

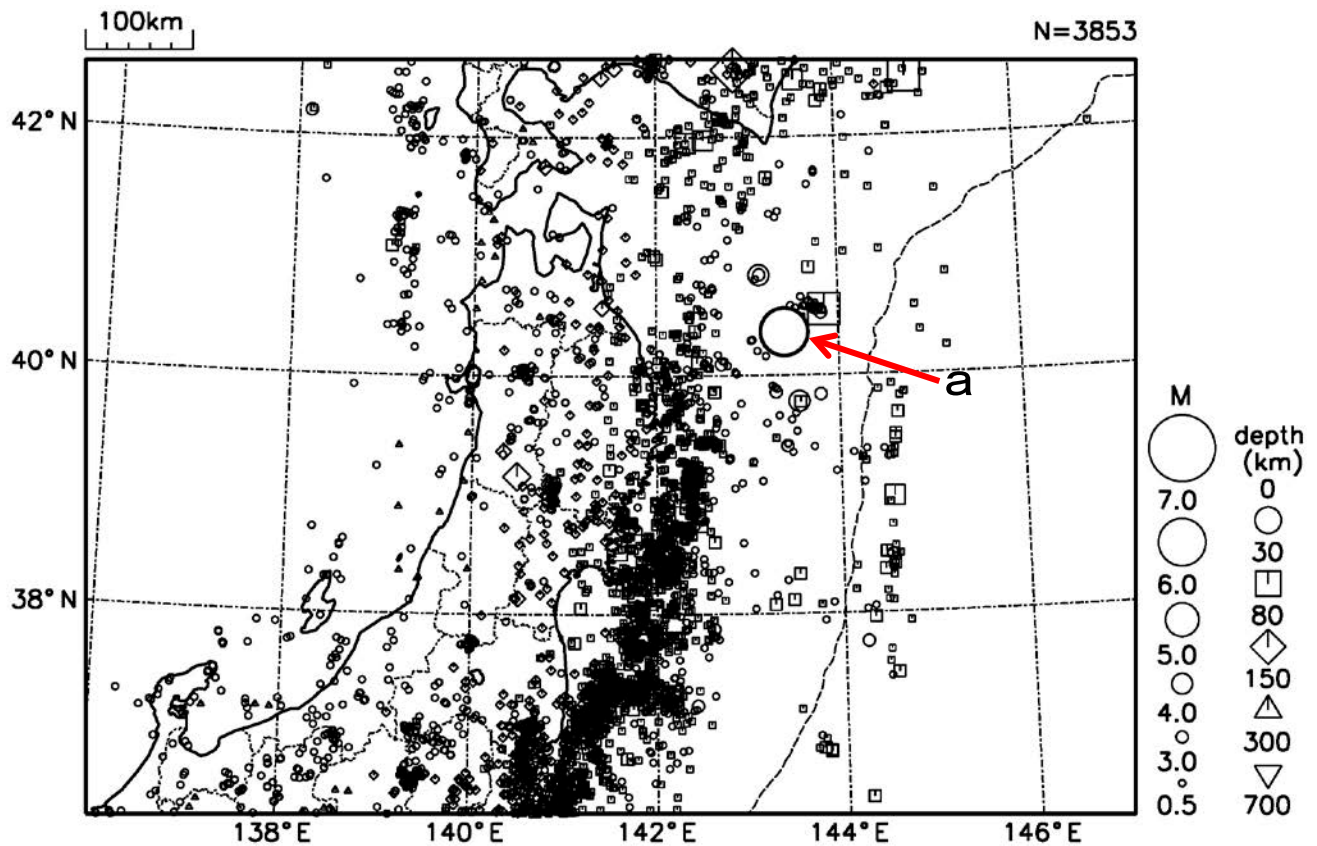


図6 東北地方の震央分布図（2019年4月1日～4月30日、 $M \geq 0.5$ ）

[概況]

4月に東北地方で震度1以上を観測した地震は38回（3月は33回）であった。

4月中の主な活動は次の通りである。

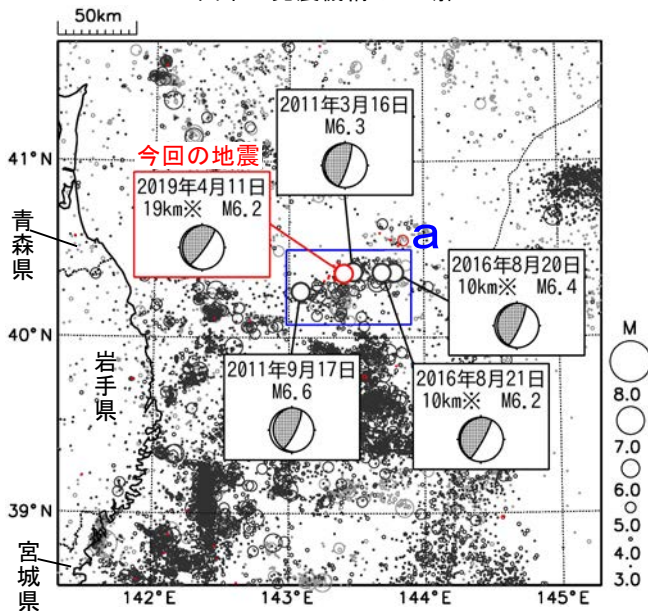
11日17時18分に三陸沖の深さ19km（CMT解による）で $M6.2$ の地震（図6中のa）が発生し、青森県、岩手県、宮城県で震度3を観測したほか、北海道から東北地方及び新潟県で震度2～1を観測した（p. 9参照）。

4 月 11 日 三陸沖の地震

震央分布図

（1997年10月1日～2019年4月30日、
深さ 0 ～ 100km、 $M \geq 3.0$ ）

2011年3月10日以前に発生した地震を○、
2011年3月11日以降に発生した地震を○、
2019年4月に発生した地震を●で表示
図中の発震機構はCMT解

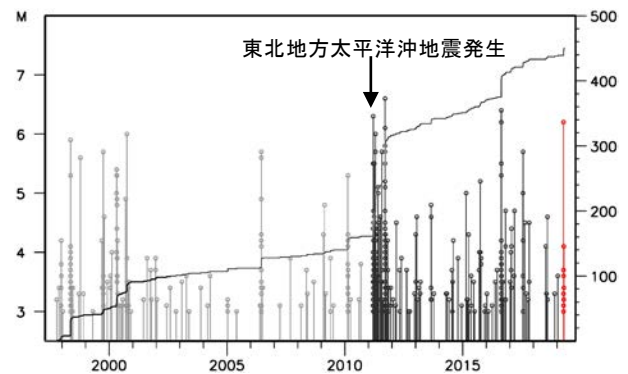


※深さはCMT解による。

2019年4月11日17時18分に三陸沖の深さ19km（CMT解による）でM6.2の地震（最大震度3）が発生した。この地震は発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以降、東北地方太平洋沖地震）の発生以降、M6.0以上の地震がしばしば発生している。

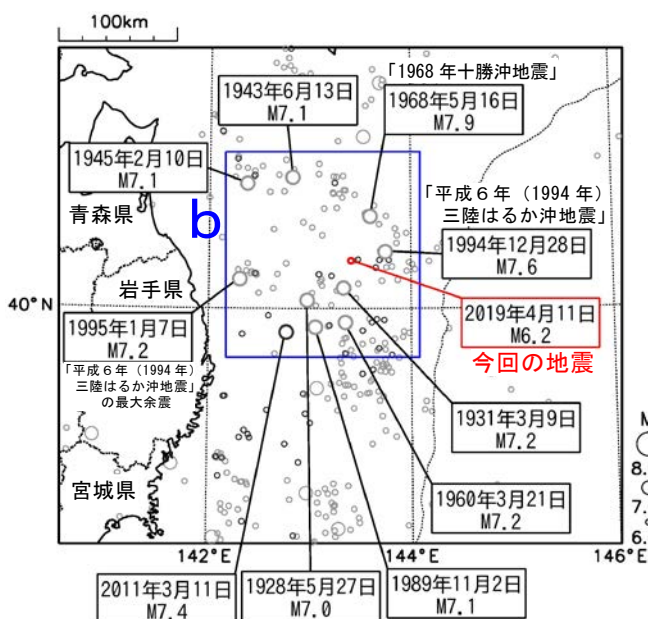
領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



震央分布図

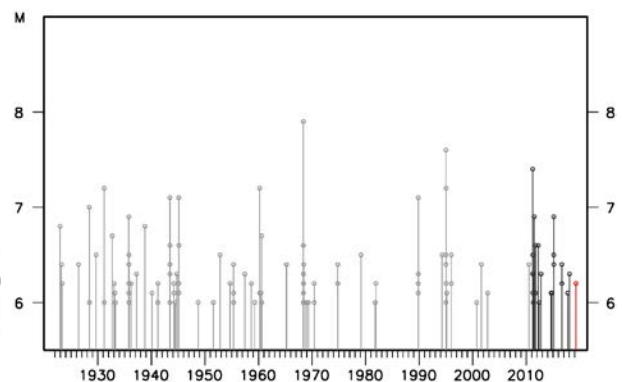
（1922年1月1日～2019年4月30日、
深さ 0 ～ 100km、 $M \geq 6.0$ ）

2011年3月10日以前に発生した地震を○、
2011年3月11日以降に発生した地震を○、
2019年4月に発生した地震を●で表示



1922年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M7.0を超える地震が時々発生している。「1968年十勝沖地震」（M7.9、最大震度5）では、青森県八戸で238cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測した。この地震により、死者52人、負傷者330人、住家全壊673棟などの被害が生じた（「日本地震被害総覧」による）。

領域 b 内の M-T 図



○関東・中部地方の地震活動

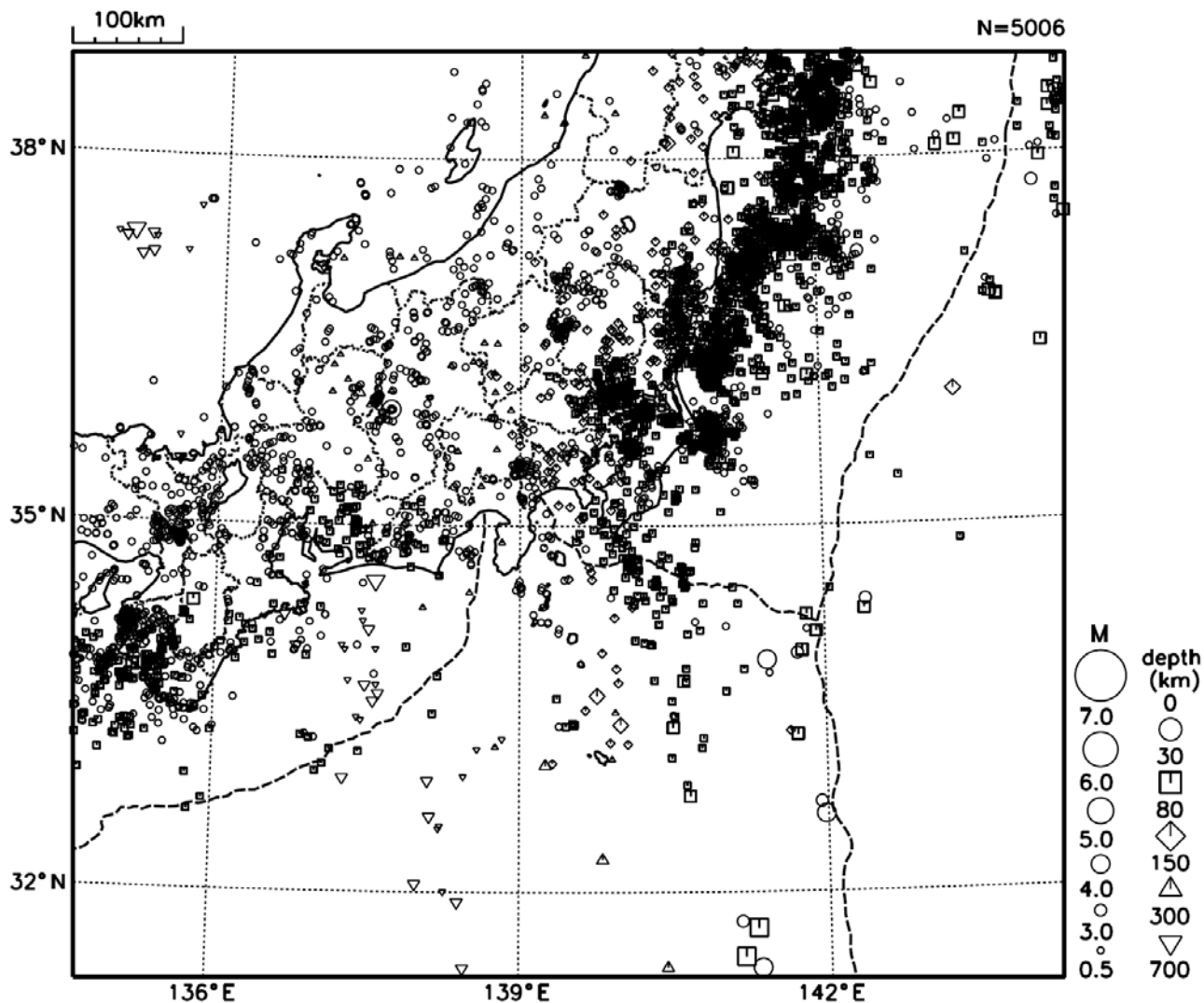


図7 関東・中部地方の震央分布図（2019年4月1日～4月30日、 $M \geq 0.5$ ）

[概況]

4月に関東・中部地方（三重県を含む）で震度1以上を観測した地震は25回（3月は56回）であった。4月中、特に目立った活動はなかった。

○近畿・中国・四国地方の地震活動

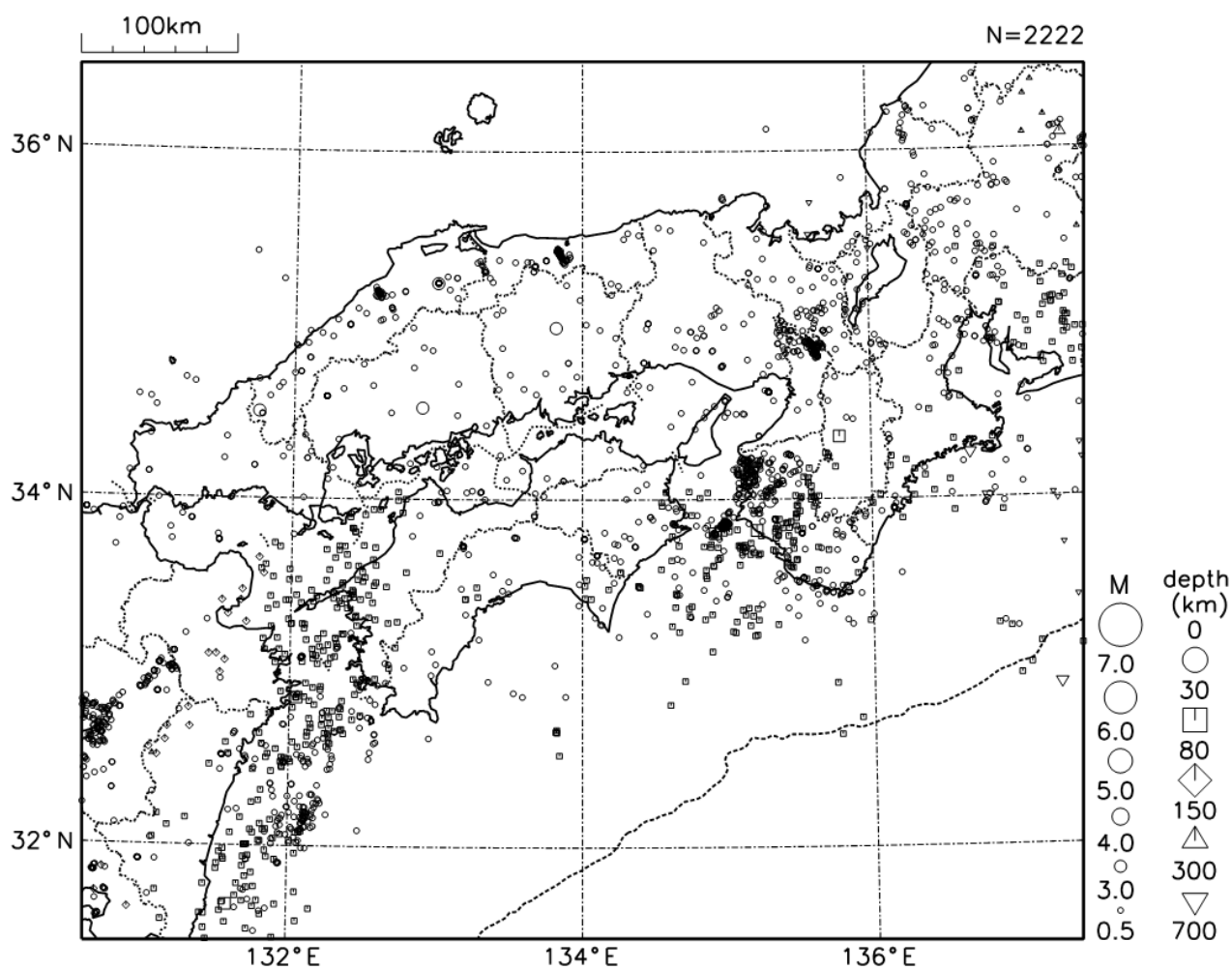


図8 近畿・中国・四国地方の震央分布図（2019年4月1日～4月30日、 $M \geq 0.5$ ）

[概況]

4月に近畿・中国・四国地方で震度1以上を観測した地震は16回（3月は15回）であった。
4月中、特に目立った活動はなかった。

○九州地方の地震活動

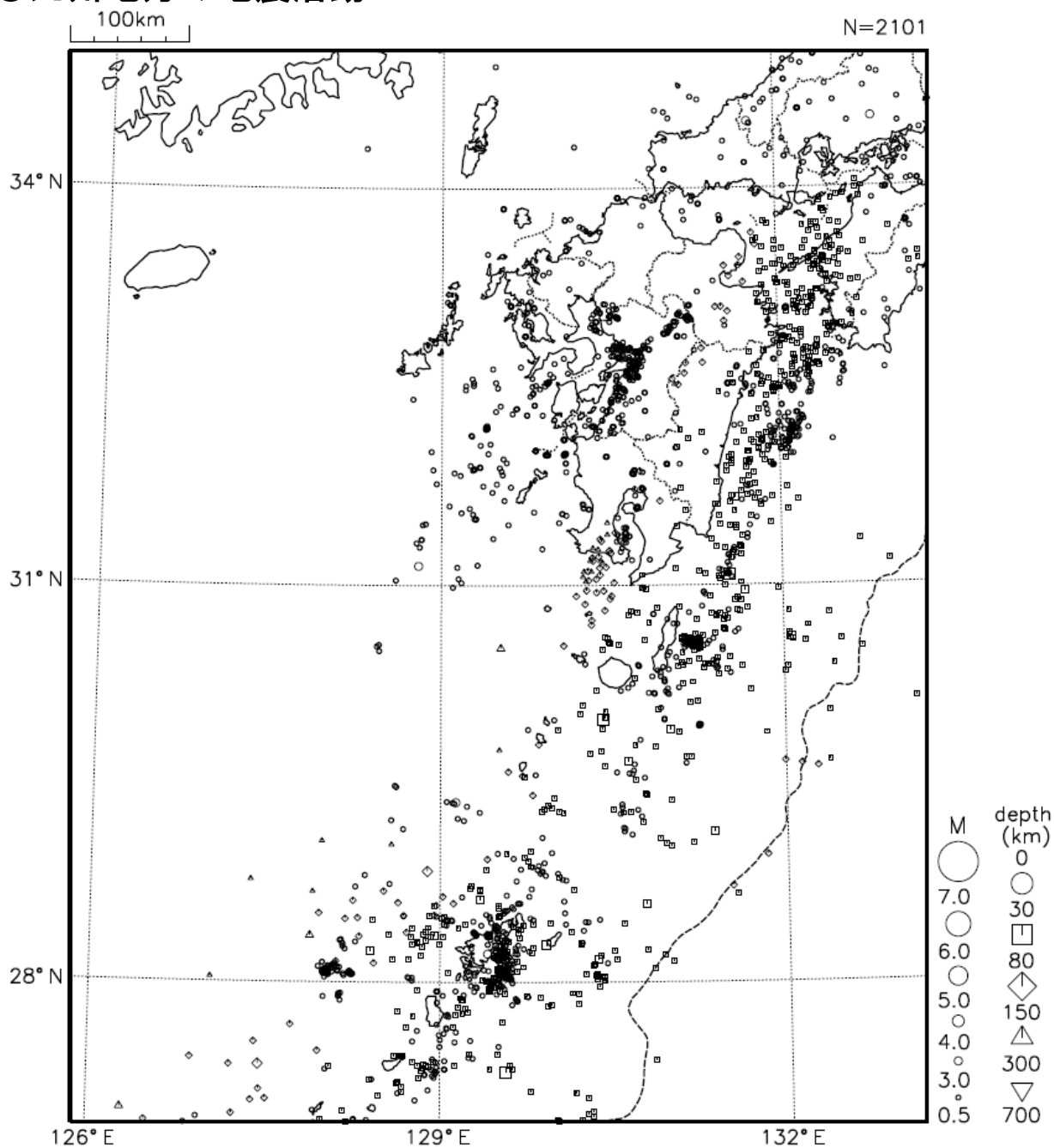


図9 九州地方の震央分布図（2019年4月1日～4月30日、 $M \geq 0.5$ ）

〔概況〕

4月に九州地方で震度1以上を観測した地震は18回（3月は40回）であった。
4月中、特に目立った活動はなかった。

○沖縄地方の地震活動

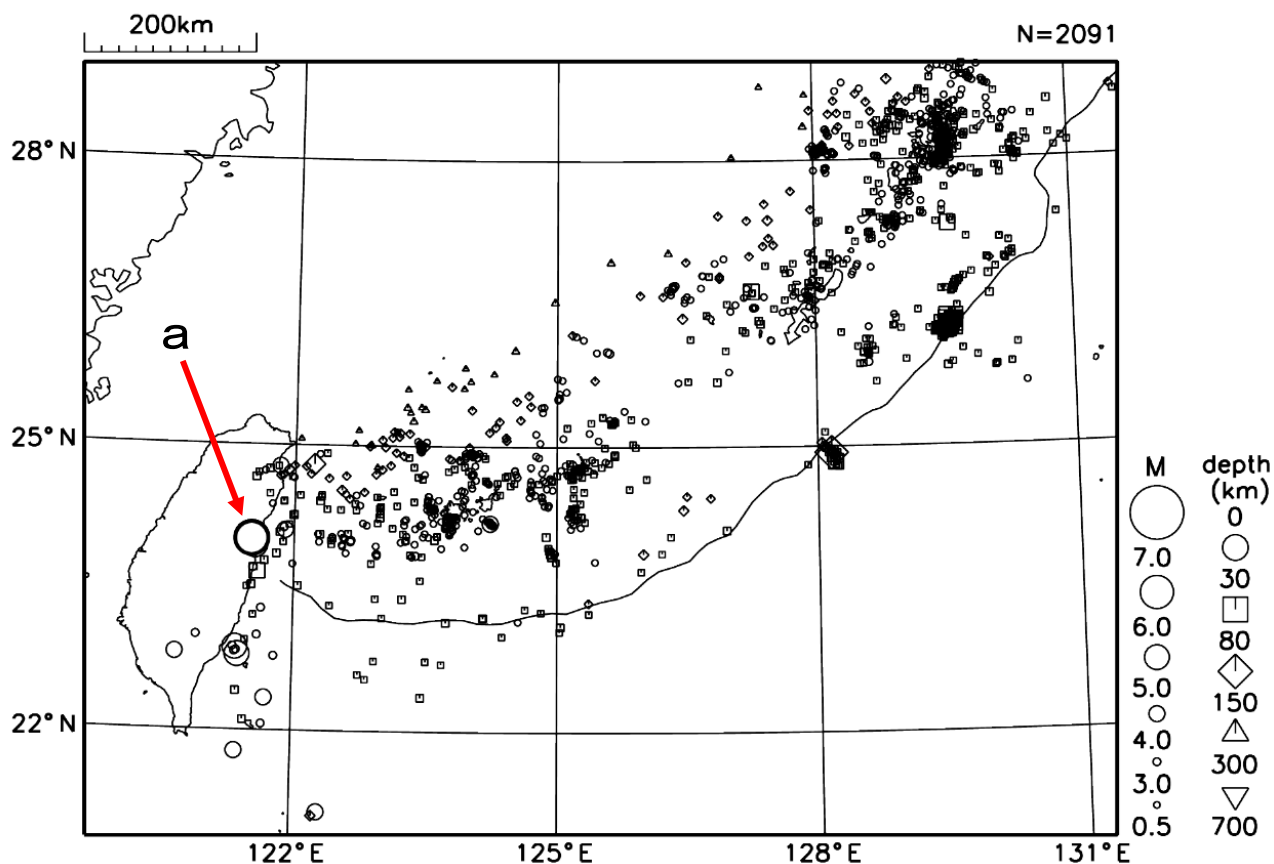


図 10 沖縄地方の震央分布図（2019 年 4 月 1 日～4 月 30 日、 $M \geq 0.5$ ）

[概況]

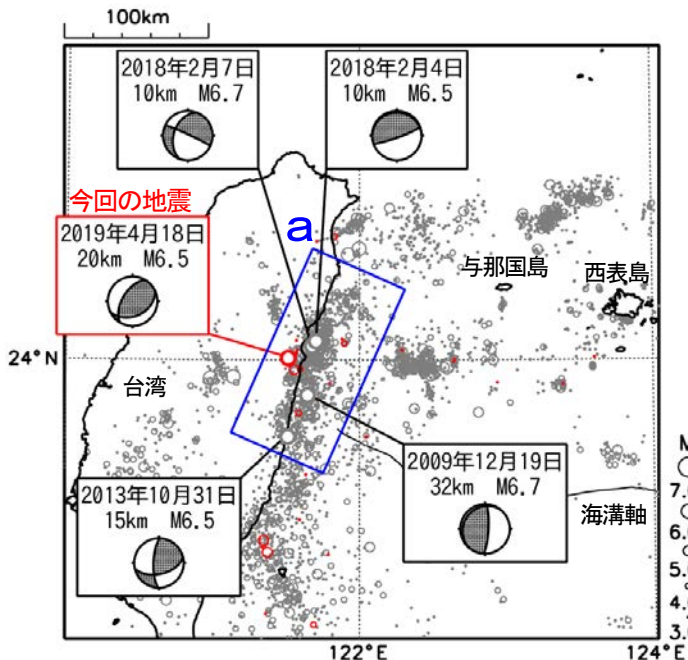
4 月に沖縄地方で震度 1 以上を観測した地震は 7 回（3 月は 2 回）であった。
4 月中の主な活動は次のとおりである。

18 日 14 時 01 分に台湾付近の深さ 20km で $M6.5$ の地震（図 10 中の a）が発生し、沖縄県八重山地方で震度 2 ～ 1 を観測した（p.14 参照）。

4 月 18 日 台湾付近の地震

震央分布図

(2009 年 10 月 1 日～2019 年 4 月 30 日、
深さ 0～50km、 $M \geq 3.0$)
2019 年 4 月の地震を赤く表示
図中の発震機構は CMT 解

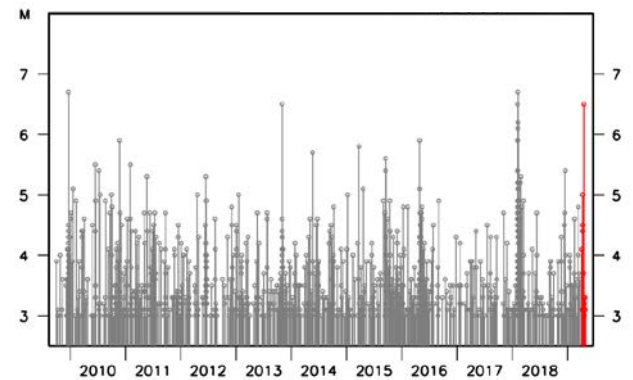


2019年4月18日14時01分に台湾付近の深さ20kmでM6.5の地震（日本国内で最大震度2）が発生した。

この地震の発震機構（CMT解）は、北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

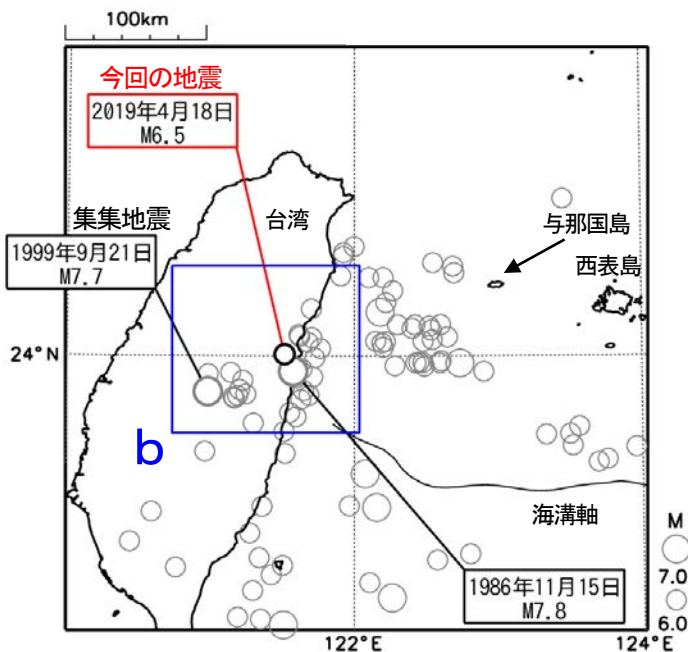
2009年10月以降の活動をみると、この地震の震央周辺（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生しており、2018年2月の地震活動では、2月7日のM6.7の地震を最大規模としてM6.0以上の地震が4回発生した。

領域a内のM-T図



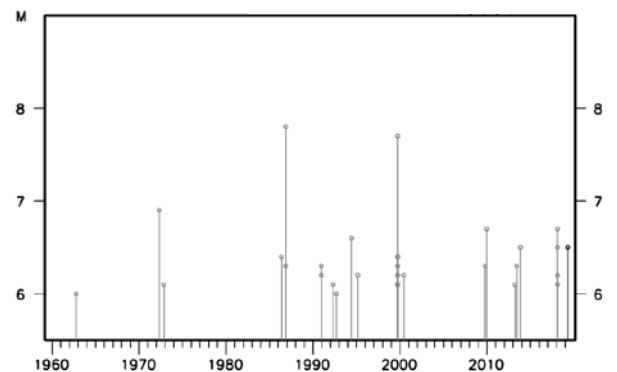
震央分布図

(1960 年 1 月 1 日～2019 年 4 月 30 日、
深さ 0～100km、 $M \geq 6.0$)



1960年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、1986年11月15日にM7.8の地震（日本国内で最大震度3）が発生した。この地震により、宮古島平良で30cmの津波を観測し、台湾では死者13人、負傷者45人の被害が生じた。また、1999年9月21日にM7.7の集集地震（日本国内で最大震度2）が発生し、台湾では死者2,413人、負傷者8,700人の被害が生じた。（被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による）

領域b内のM-T図



○その他の地域の地震活動

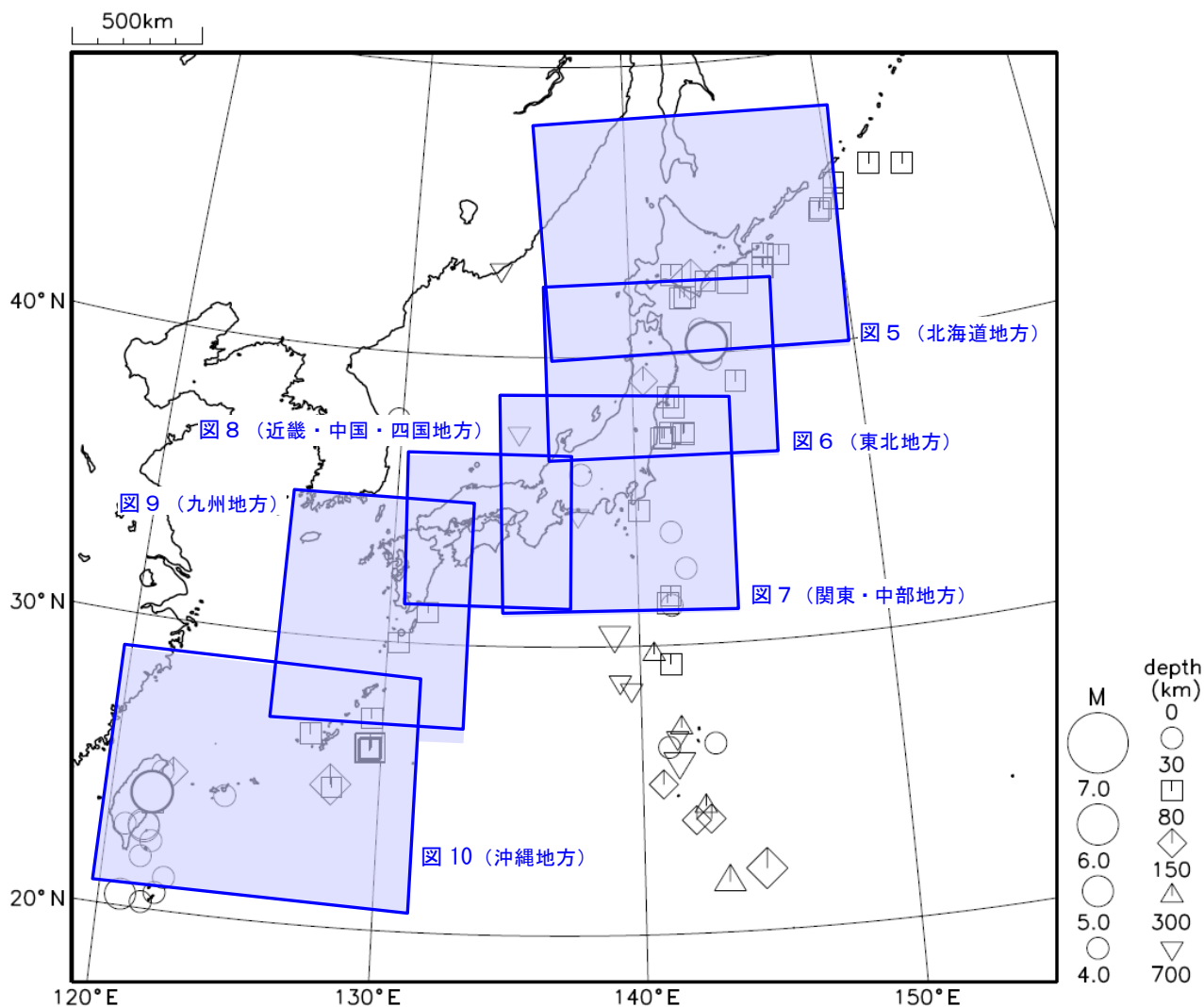


図 11 日本周辺で発生した主な地震の震央分布図（2019 年 4 月 1 日～4 月 30 日、 $M \geq 4.0$ ）

〔概況〕

4 月に日本周辺で発生した $M6.0$ 以上の地震は 2 回であった（3 月は 3 回）。

4 月中に図 5～10 の領域外で特に目立った活動はなかった。

●南海トラフ周辺の地殻活動

令和元年 5 月 13 日に気象庁において第 19 回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第 397 回地震防災対策強化地域判定会（定例）を開催し、気象庁は「最近の南海トラフ周辺の地殻活動」として次の内容の南海トラフ地震に関連する情報（定例）を発表した。これに関連する資料を p. 18～58 に掲載する。

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時^(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

1. 地震の観測状況

5 月 10 日 08 時 48 分に日向灘の深さ 25km を震源とする M6.3 の地震が発生しました。また、この地震発生前の同日 07 時 43 分にほぼ同じ場所で M5.6 の地震が発生しました。これらの地震は、発震機構が西北西・東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生しました。

5 月 11 日 08 時 59 分に、日向灘の深さ 36km を震源とする M5.0 の地震が発生しました。この地震は、発震機構が東西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生しました。

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

- （1） 紀伊半島西部：3 月 29 日から 4 月 2 日まで
- （2） 紀伊半島中部：4 月 1 日から 4 月 7 日まで
- （3） 東海：4 月 6 日から 4 月 7 日まで
- （4） 四国西部：4 月 17 日から 4 月 21 日まで
- （5） 四国中部から東部：5 月 2 日から継続中

2. 地殻変動の観測状況

5 月 10 日の日向灘の地震に伴い、G N S S 観測で小さな地殻変動を観測しています。

上記（1）から（5）の深部低周波地震（微動）とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。また、深部低周波地震（微動）は観測されていませんが、以下の通り、複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。

- （6） 東海：4 月 22 日から 4 月 23 日まで

これらとは別に、5 月 10 日から 12 日にかけて四国西部に設置されているひずみ計でごくわずかな変化を観測しました。

G N S S 観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺ではフィリピン海プレートの沈み込みに伴う長期的な沈降傾向が継続しています。

2018 年春頃から九州北部の G N S S 観測で、また、2018 年秋頃から四国西部の G N S S 観測及びひずみ観測で、それまでの傾向とは異なる地殻変動を観測しています。

3. 地殻活動の評価

5 月 10 日に発生した日向灘の 2 回の地震、5 月 11 日に発生した日向灘の地震は、その規模等から南海トラフ沿いのプレート間の固着状態の特段の変化を示す現象ではないと考えられます。

上記（1）から（5）の深部低周波地震（微動）と地殻変動、及び上記（6）の地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2018 年春頃からの九州北部の地殻変動及び 2018 年秋頃からの四国西部の地殻変動は、日向灘北部及び豊後水道周辺のプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

5 月 10 日から 12 日にかけて四国西部のひずみ計で観測されたごくわずかな変化は、1 観測点のみの変化で、その変化量も小さいことから、この変化の要因を精査するとともに今後の推移を注意深く監視していく必要があります。

その他の今回観測された深部低周波地震（微動）、短期的ゆっくりすべり、および長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは今のところ得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない

と考えられます。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8～M9 クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70～80％であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催して委員の意見提供等を受け、現在の状況を「最近の南海トラフ周辺の地殻活動」として取りまとめ南海トラフ地震に関連する情報（定例）を発表している。

〔「最近の南海トラフ周辺の地殻活動」についての頁で使われる用語〕

・「想定震源域」

南海トラフ沿いの大規模地震発生時に、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界が破壊されると想定される領域。「想定震源域」全体もしくは一部が破壊されると考えられている。

・「クラスタ」、「クラスタ除去」

地震は時間空間的に群（クラスタ：cluster）をなして起きることが多くある。「本震とその後起きる余震」、「群発地震」などが典型的なクラスタで、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。例えば、相互の震央間の距離が3 km 以内で、相互の発生時間差が7 日以内の地震群をクラスタとして扱い、その中の最大の地震をクラスタに含まれる地震の代表とし、地震が1 つ発生したと扱う。

・「長期的ゆっくりすべり（長期的スロースリップ）」

想定震源域の深部で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界が数ヶ月～数年間かけてゆっくりとすべる現象で、数年～十年程度の間隔で繰り返し発生していると考えられている。例えば、東海地域では、前々回は2000 年秋頃～2005 年夏頃にかけて発生し、前回は2013 年はじめ頃から2017 年はじめ頃にかけて発生した。

・「深部低周波地震（微動）」

深さ約30km～40km で発生する、通常の地震より長周期の波が卓越する地震を「深部低周波地震」と言う。長野県南部～日向灘にかけては帯状につながる深部低周波地震の震央分布が見られる。深部低周波微動は、P 波やS 波が明瞭ではなく震動が継続するもので、現象的には深部低周波地震と同じであるが、解析手法に違いがあるため、深部低周波地震が観測されない場合にも観測されることがある。

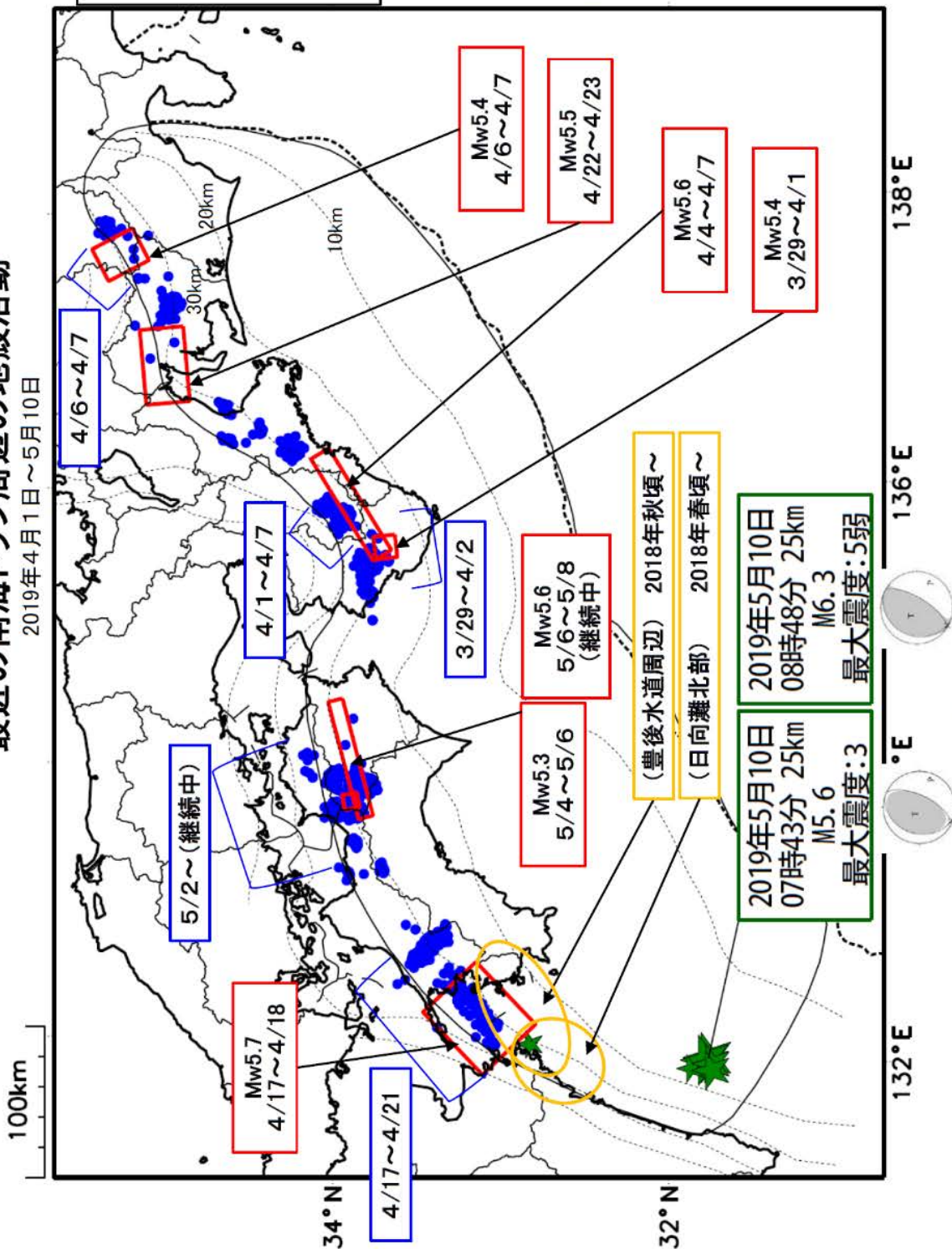
・「短期的ゆっくりすべり（短期的スロースリップ）」

「短期的ゆっくりすべり」は、長期的ゆっくりすべりが発生する領域のさらに深部の、深部低周波地震（微動）の発生領域とほぼ同じ領域でのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界のすべりと考えられている。数日～1 週間程度継続する「短期的ゆっくりすべり（短期的スロースリップ）」が観測されるときは、ほぼ同時に深部低周波地震（微動）活動が観測されることが多い。短期的ゆっくりすべりは、数ヶ月から1 年程度の間隔で繰り返し発生している。

注）地震活動および地殻活動の解析には Hirose et al. (2008)、Baba et al. (2002) によるフィリピン海プレートと陸のプレートの境界データを使用している。

最近の南海トラフ周辺の地殻活動

2019年4月1日～5月10日



通常の地震 (M3.5以上) 気象庁の解析結果による。

深部低周波地震 (微動) (震源データ) 気象庁の解析結果による。 (活動期間) 防災科学技術研究所及び気象庁の解析結果による。

※5月10日の震源は、5月10日16時30分現在で処理済のデータのみ表示している。

5月10日の地震の震源要素、発震機構解は、今後の精査で変更する可能性がある。

短期的ゆっくりすべり 【紀伊半島西部・中部、四国西部・中部・東部】産業技術総合研究所の解析結果による。【東海】気象庁の解析結果による。

長期的ゆっくりすべり 【日向灘北部】国土地理院の解析結果を元におよその場所を表示している。

気象庁作成

平成 31 年 4 月 1 日～令和元年 5 月 13 日 06 時の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度 3 以上を観測した地震もしくは M3.5 以上の地震及びその他の主な地震】

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発生場所
4/17	23:04	豊後水道	42	3.5	1	フィリピン海プレート内部
5/10 ～	5月10日 07:43	日向灘	25	5.6	3	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界
	5月10日 08:48	日向灘	25	6.3	5弱	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界
	・上記の 2 つ地震とほぼ同じ場所で、5 月 10 日 07 時 43 分以降、M3.5 以上の地震が 9 回（上記の 2 つの地震を含む）発生している（5 月 13 日 06 時現在）。					
5/11	08:59	日向灘	36	5.0	4	フィリピン海プレート内部
5/12	15:07	日向灘	37	4.3	3	フィリピン海プレート内部

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。

※5月12日の地震の震源要素は今後の精査で変更する場合がある。

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
■四国東部 4月3日～4日 4月9日、4月14日 4月17日～19日 4月23日 5月1日～2日、 <u>5月4日～（継続中）</u> 注1）・・・（5）	■紀伊半島北部 4月7日、4月13日 4月25日～26日 4月29日～30日 5月8日～9日 5月11日～（継続中） ■紀伊半島中部 <u>4月1日～7日</u> ・・・（2） ■紀伊半島西部 <u>3月29日～4月2日</u> ・・・（1） 4月5日～7日 4月13日～14日 4月17日～18日 4月27日 4月29日～30日 5月9日 5月12日～（継続中）	4月1日～3日 <u>4月6日～7日</u> ・・・（3） 4月9日 4月20日～21日 5月5日～10日 5月12日～（継続中）

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数 2 日以上または活動日数 1 日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。

※地殻変動と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を **赤字** で示す。

※上の表中（1）～（5）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたもの。

注 1）防災科学技術研究所による解析では、5 月 2 日から継続中。

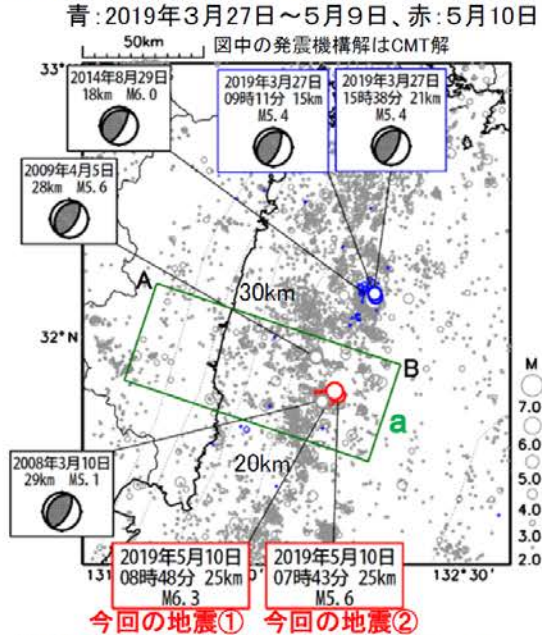
5月10日 日向灘の地震

5月10日08時48分に、日向灘でM6.3の地震（深さ25km、最大震度5弱、今回の地震①）が発生した。この地震の発生前の同日07時43分にほぼ同じ場所でM5.6の地震（深さ25km、最大震度3、今回の地震②）が発生した。これらの地震は、いずれも発震機構（CMT解、速報解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。07時43分の地震発生以降、付近でややまとまった活動となっている。

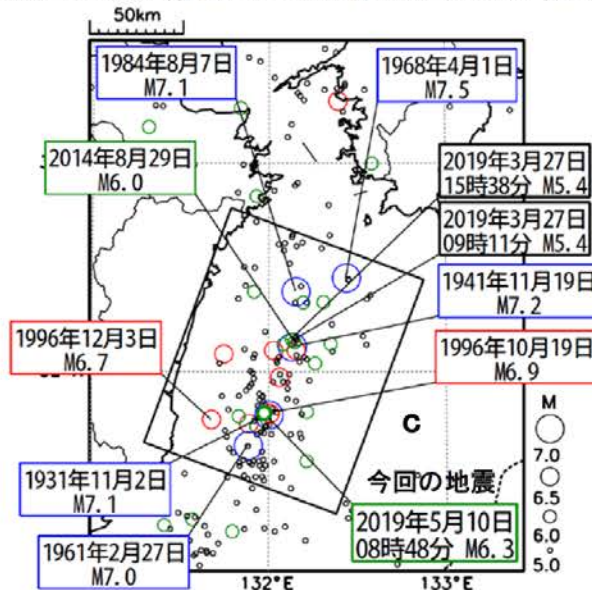
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b内）は、定常的に地震活動が見られ、2009年4月5日にM5.6の地震（最大震度4）が発生した。日向灘では、2019年3月27日にM5.4の地震が2回発生したが、今回の地震は、3月27日の地震とは異なる場所で発生した。

1922年以降の日向灘の地震活動を見ると、M5.0以上の地震はしばしば発生している。M6.5以上の地震も時々発生しているが、1997年以降は発生していない。M6.0以上の地震が発生したのは、2014年8月29日のM6.0の地震（最大震度4）以来であった。

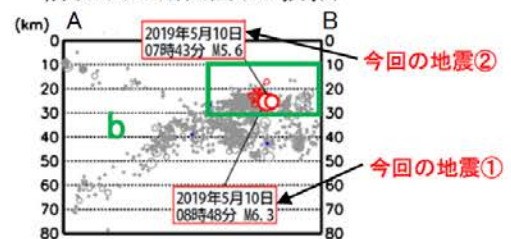
震央分布図
(1997年10月1日～2019年5月10日09時、M $\geq$ 2.0、深さ0～80km)
青：2019年3月27日～5月9日、赤：5月10日



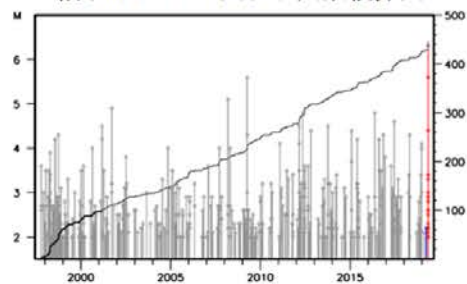
震央分布図
(1922年1月1日～2019年5月10日09時、M $\geq$ 5.0、深さ0～100km)
黒：5.0 $\leq$ M $<$ 6.0、緑：6.0 $\leq$ M $<$ 6.5、赤：6.5 $\leq$ M $<$ 7.0、青：7.0 $\leq$ M



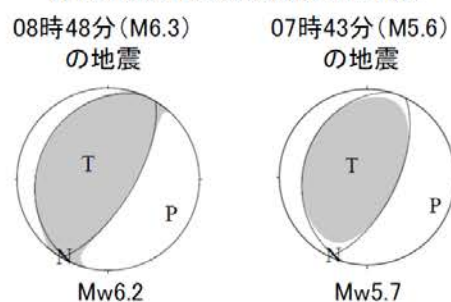
領域a内の断面図(AB投影)



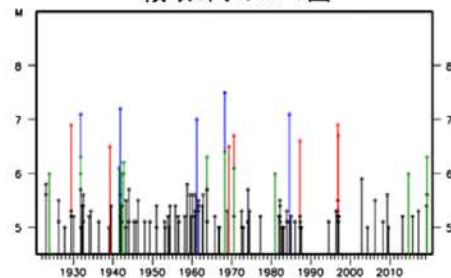
領域b内のM-T図及び回数積算図



今回の地震の発震機構解(CMT解)



領域c内のM-T図



※M7.0以上の地震、1990年以降に発生したM6.0以上の地震、2019年の地震(今回の地震は最大規模の地震)に吹き出しを付加している。

※5月9日以降の地震の震源要素、今回の地震の発震機構解は今後の精査で変更する場合がある。

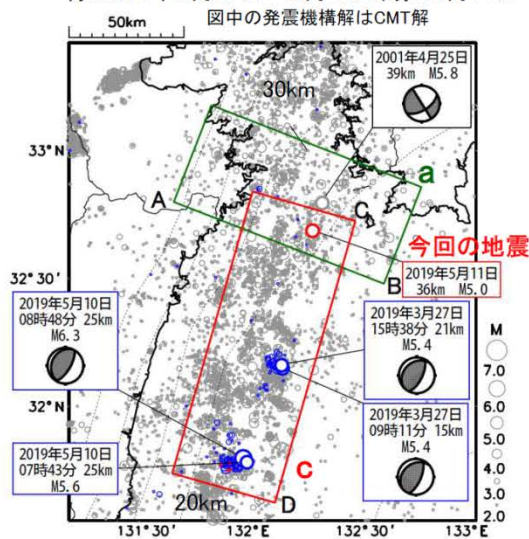
気象庁作成

5月11日 日向灘の地震

5月11日08時59分に、日向灘でM5.0の地震（深さ36km、最大震度4）が発生した。この地震は発震機構が東西方向に張力軸を持つ型でフィリピン海プレート内部で発生した。

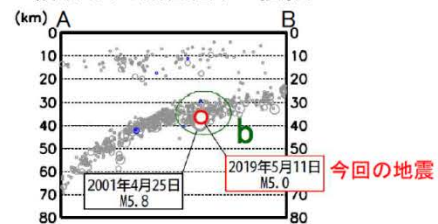
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b内）は、定常的に地震活動が見られ、2001年4月25日にM5.8の地震（最大震度4）が発生した。日向灘では、2019年5月10日にM6.3の地震が発生したが、今回の地震は、5月10日の地震とは北北東に約100km離れた場所で発生した。

震央分布図
(1997年10月1日～2019年5月11日、M $\geq$ 2.0、深さ0～80km)
青：2019年3月27日～5月10日、赤：5月11日

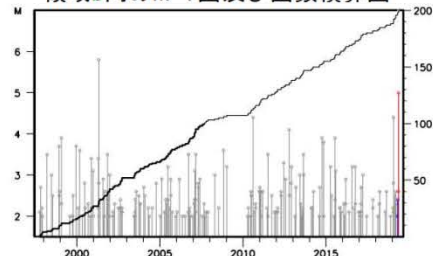


※震央分布図中の点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さを示す。

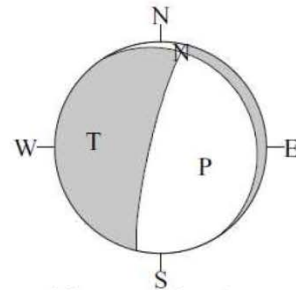
領域a内の断面図 (AB投影)



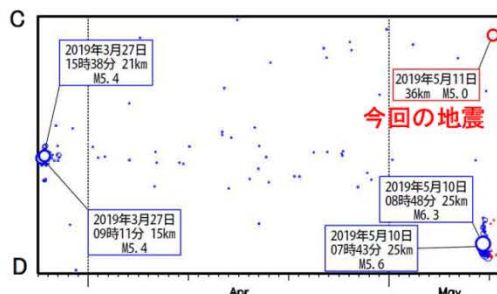
領域b内のM-T図及び回数積算図



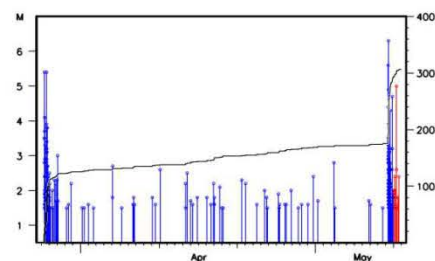
今回の地震の発震機構解 (CMT解)



領域c内の時空間分布図
(2019年3月27日～5月11日、M $\geq$ 1.5)



領域c内のM-T図及び回数積算図
(2019年3月27日～5月11日、M $\geq$ 1.5)



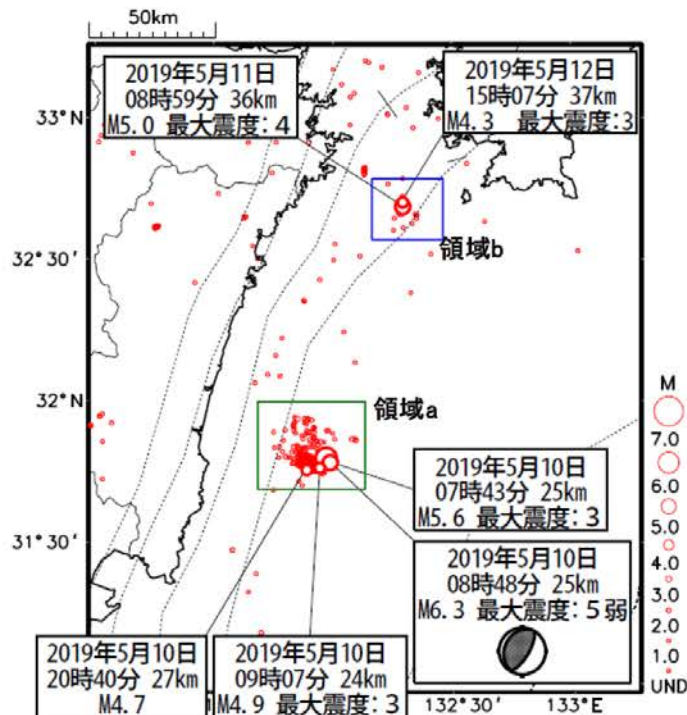
※5月11日以降の地震の震源要素、今回の地震の発震機構解は今後の精査で変更する場合がある。

気象庁作成

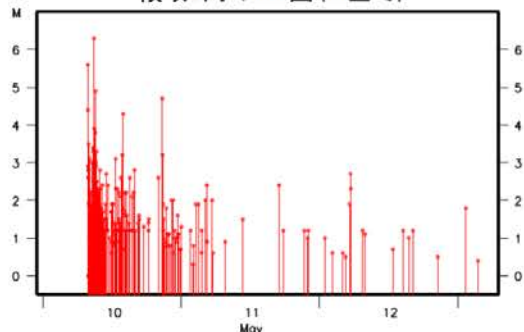
5月10日、5月11日の日向灘の地震発生前後の地震活動の状況

震央分布図

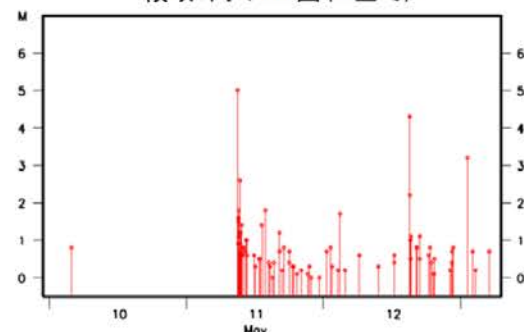
（2019年5月10日00時～2019年5月13日06時、M全て、深さ0～60km）



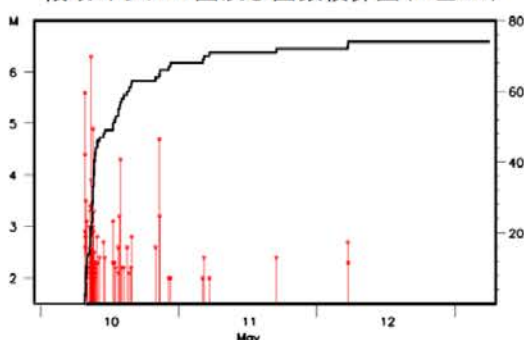
領域a内のMT図(M全て)



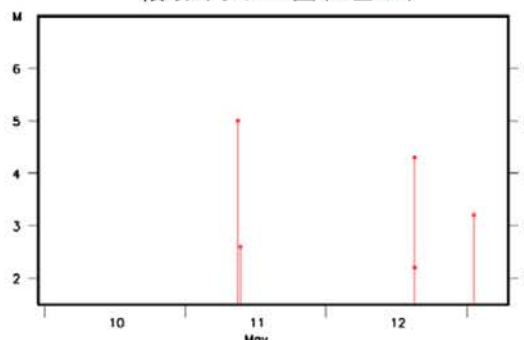
領域b内のMT図(M全て)



領域a内のMT図及び回数積算図(M≥2.0)



領域b内のMT図(M≥2.0)



<資料の利用上の留意点>

- ・表示している震源は、5月13日の震源は、自動処理による結果です。
- ・自動処理の結果には、発破等の地震以外のものや、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。
- ・5月12日以降の地震の震源要素は、今後の精査で変更する場合があります。

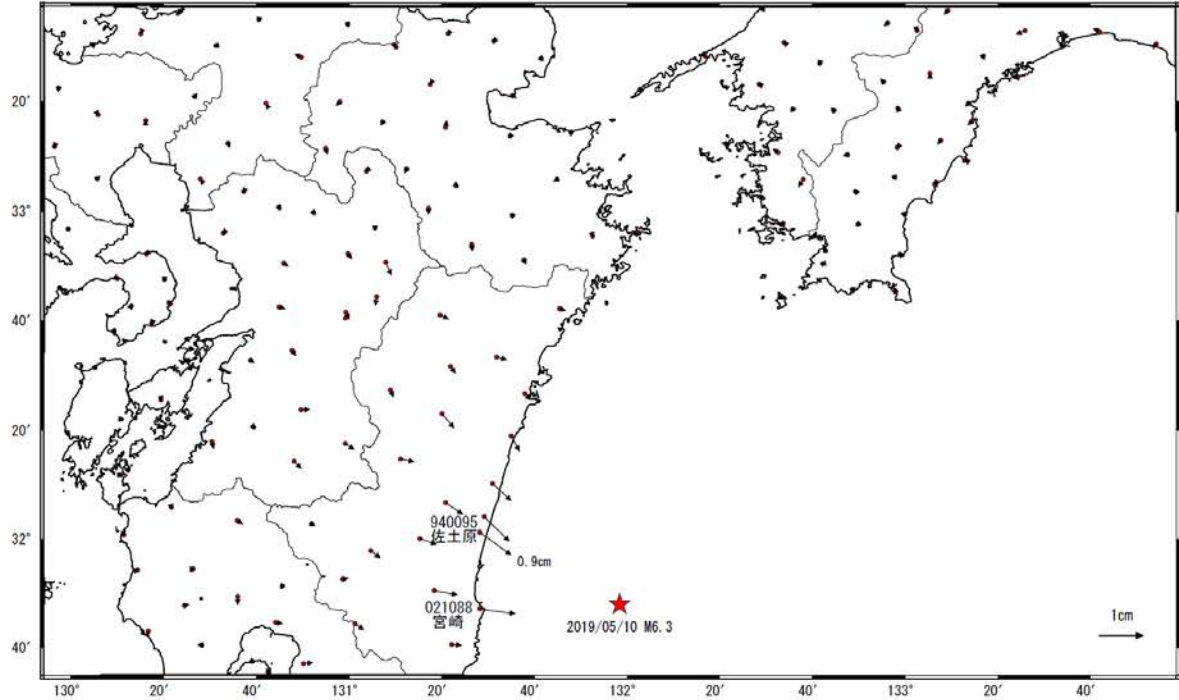
気象庁作成

日向灘の地震(5月10日 M6.3)前後の観測データ（暫定）

この地震に伴い小さな地殻変動が観測された。

地殻変動（水平）

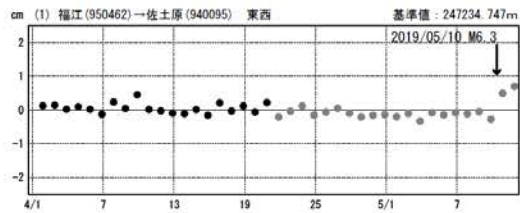
基準期間：2019/05/02～2019/05/08[R3:速報解]
比較期間：2019/05/10～2019/05/11[R3:速報解]



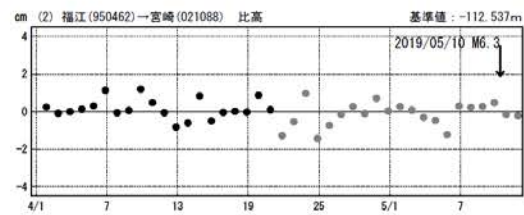
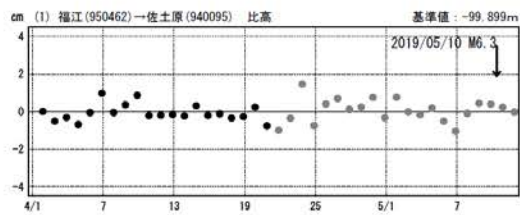
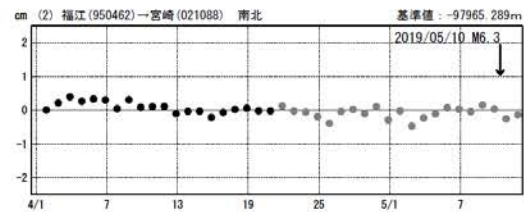
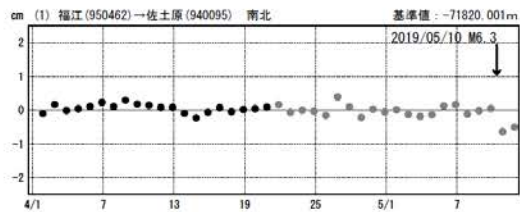
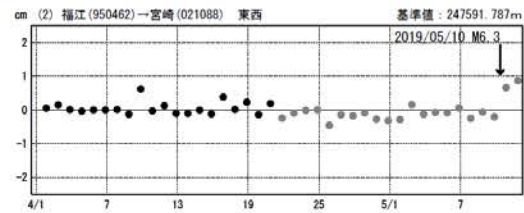
☆ 固定局：福江(950462) ★ 震央

成分変化グラフ

期間：2019/04/01～2019/05/11 JST



期間：2019/04/01～2019/05/11 JST

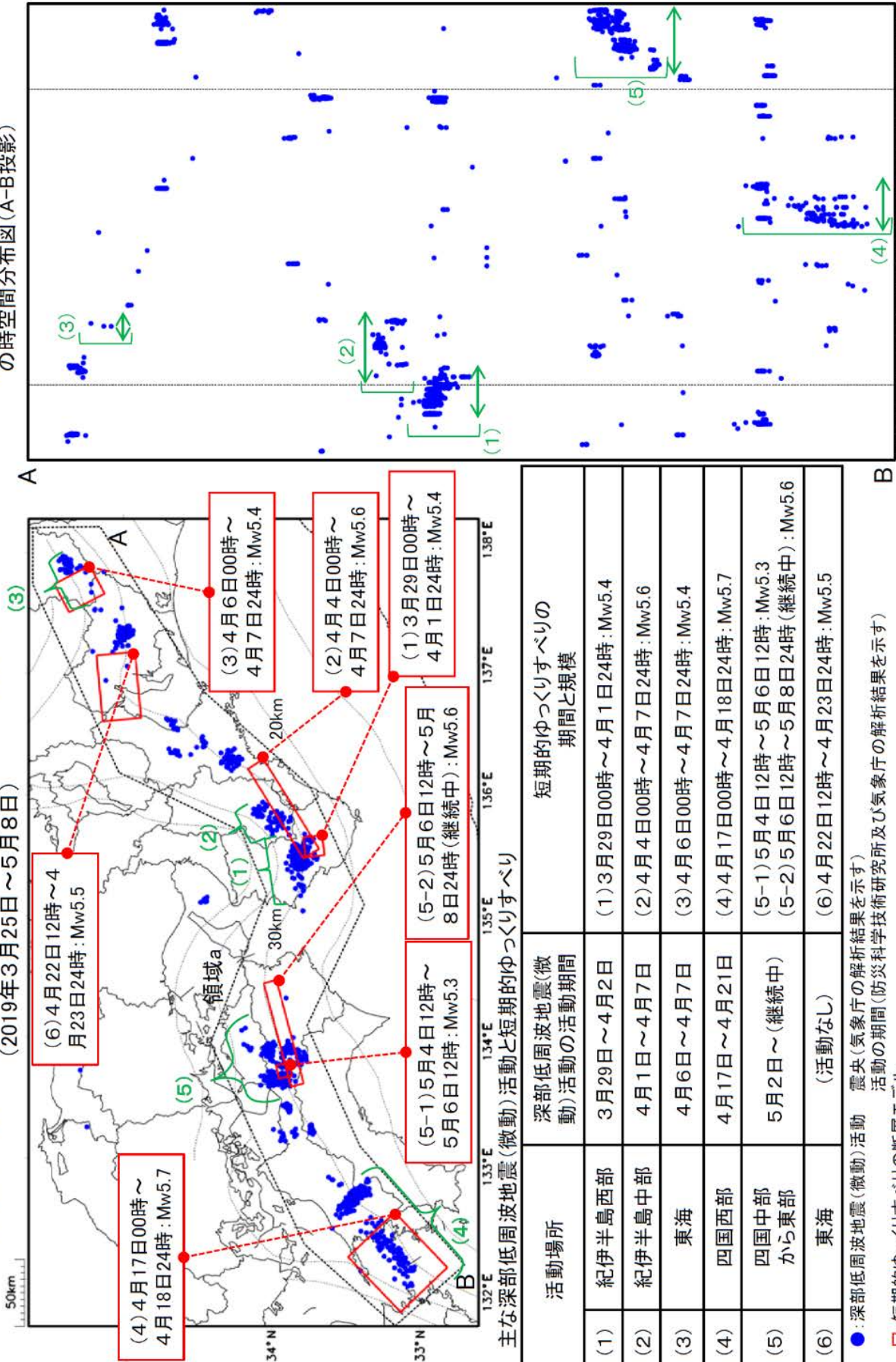


● [F3:最終解] ● [R3:速報解]

国土地理院

深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくすべりの全体概要

深部低周波地震（微動）の震央分布図と短期的ゆっくすべりの断層モデル
領域a（点線領域）内の深部低周波地震（微動）の時空間分布図（A-B投影）



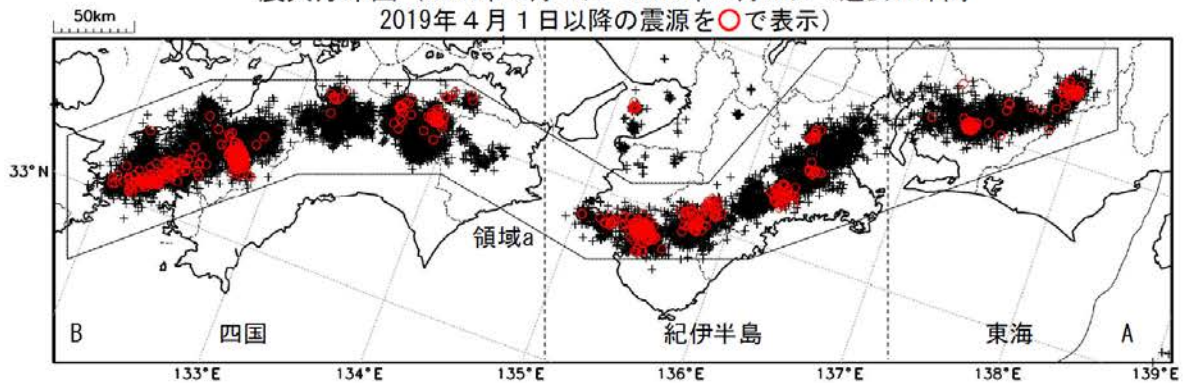
●: 深部低周波地震(微動)活動 震央(気象庁の解析結果を示す)
□: 短期的ゆっくすべりの断層モデル 活動の期間(防災科学技術研究所及び気象庁の解析結果を示す)
(紀伊半島西部・中部、四国西部・東部は産業技術総合研究所、東海は気象庁の解析結果を示す)
点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さ(10kmごとの等深線)を示す。

気象庁作成

深部低周波地震（微動）活動（2009年5月1日～2019年4月30日）

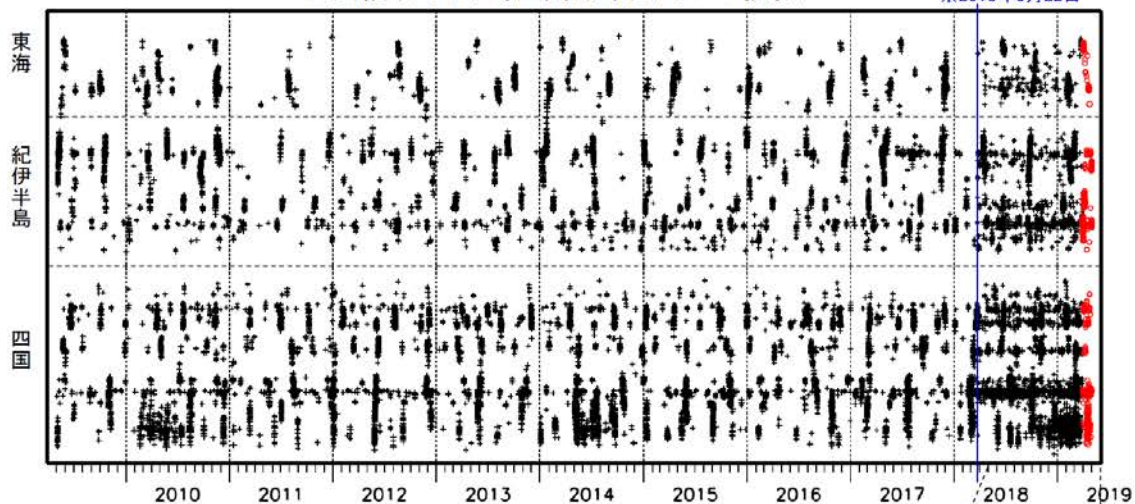
深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

震央分布図（2009年5月1日～2019年4月30日：過去10年間
2019年4月1日以降の震源を○で表示）

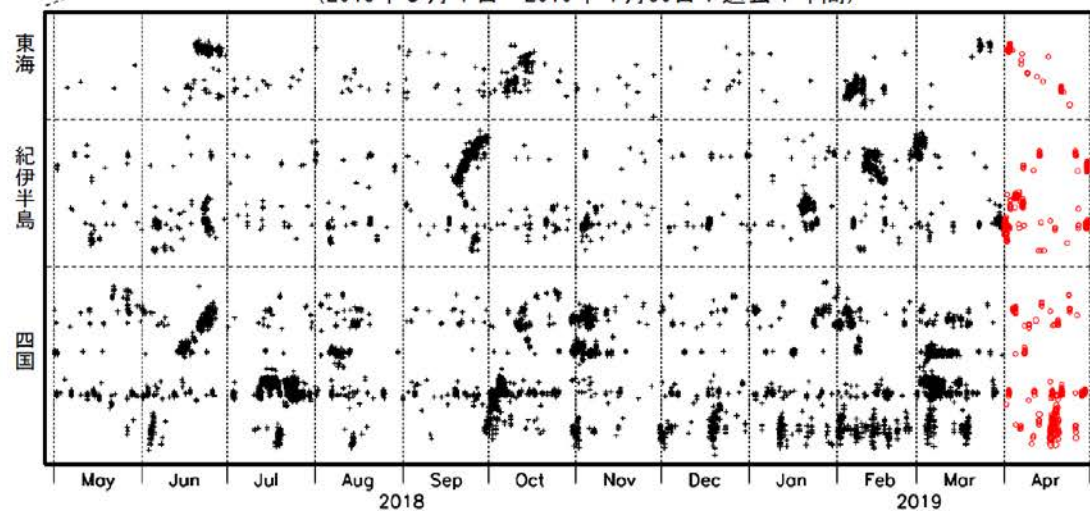


上図領域a内の時空間分布図（A-B投影）

※2018年3月22日



（2018年5月1日～2019年4月30日：過去1年間）



※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更（Matched Filter法の導入）により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

気象庁作成

東海の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

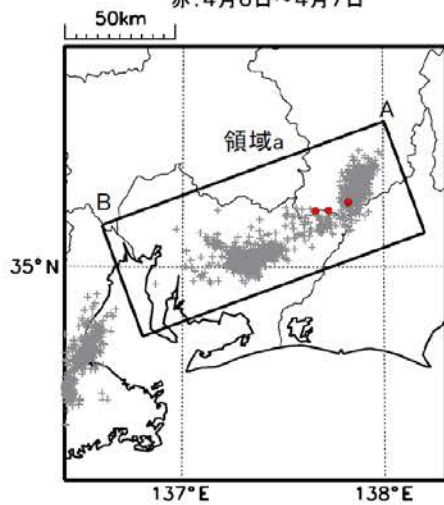
4月6日から4月7日にかけて東海で深部低周波地震(微動)を観測した。深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、4月6日から7日にかけて、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。

4月22日から4月23日にかけて愛知県に設置されている複数のひずみ計に変化が現れた。なお、対応する深部低周波地震(微動)活動は観測されていない。この周辺では、2018年10月2日から4日にかけて、今回と同様に、深部低周波地震(微動)活動を伴わない短期的ゆっくりすべりに起因すると推定されるひずみ変化が観測されている。

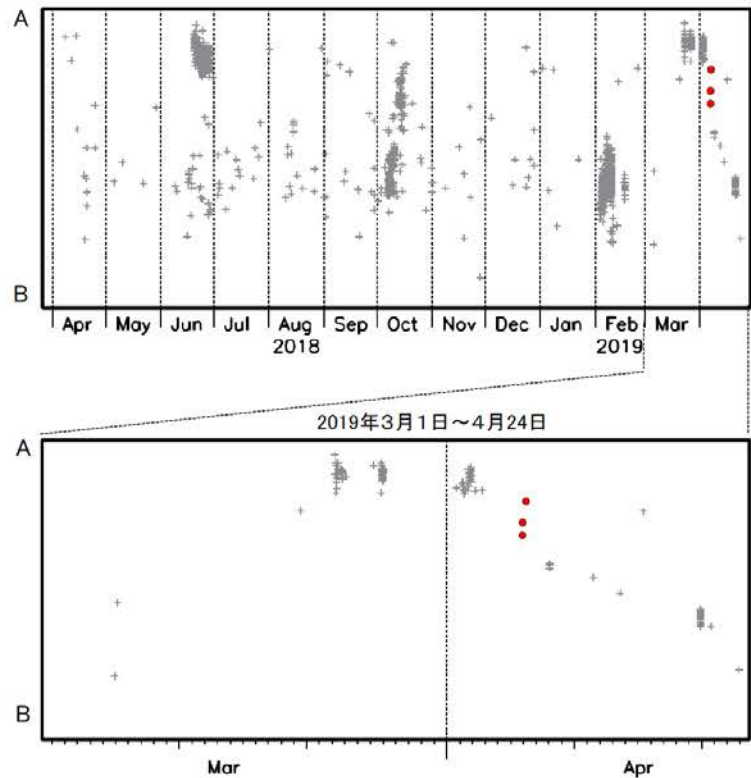
これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

震央分布図
(2018年4月1日～2019年4月24日、深さ0～60km、Mすべて)
赤: 4月6日～4月7日



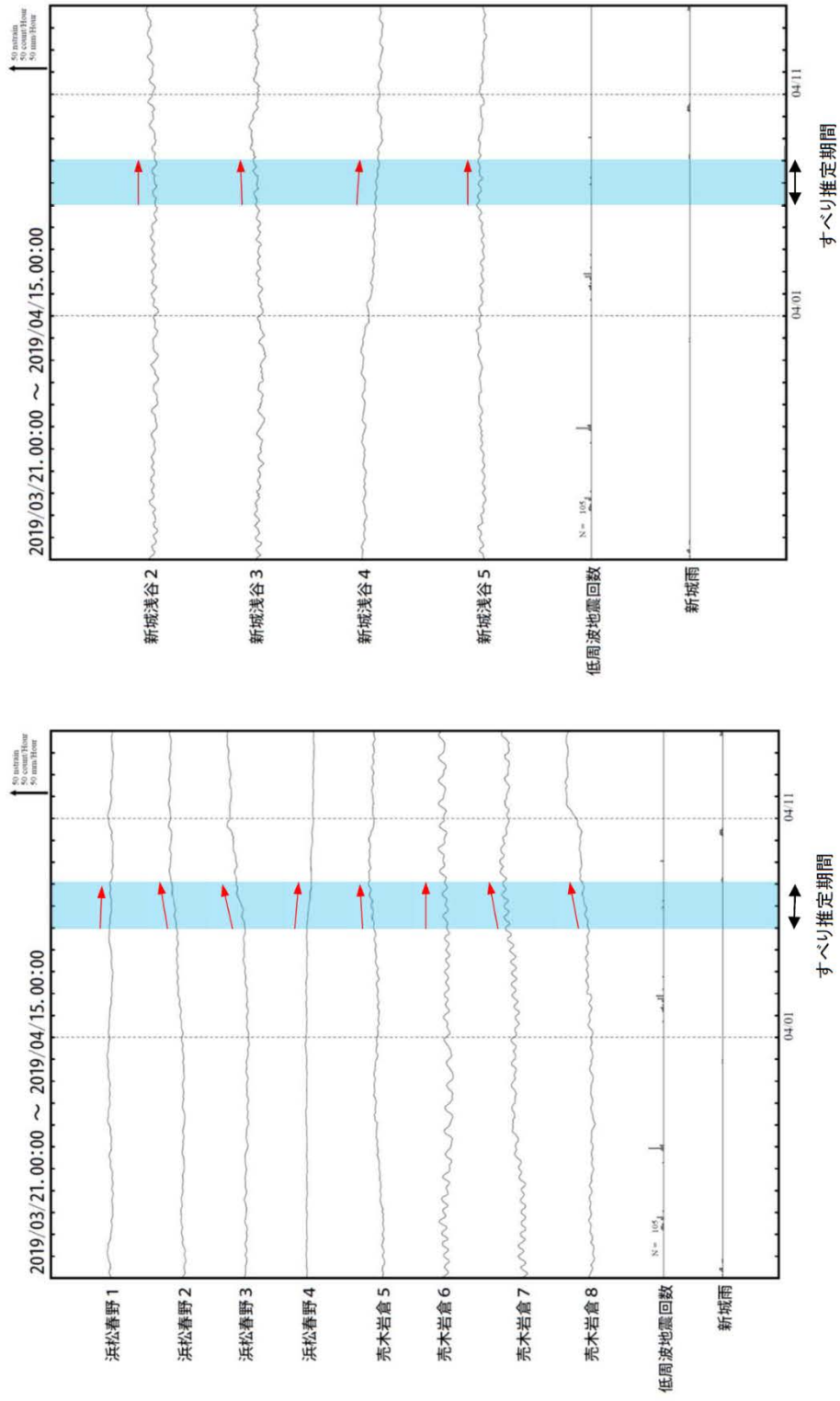
震央分布図の領域a内の時空間分布図 (A-B投影)



気象庁作成

東海で発生した短期的ゆっくりすべり（4月6日～7日）

愛知県から長野県で観測されたひずみ変化

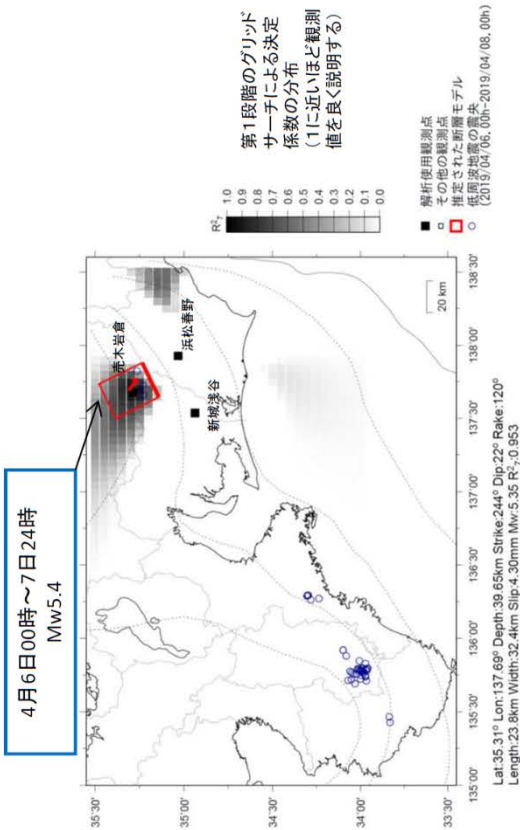


浜松春野は静岡県のひずみ計である。

気象庁作成

東海で発生した短期的ゆっくりすべり(4月6日～7日)

ひずみ変化から推定される断層モデル

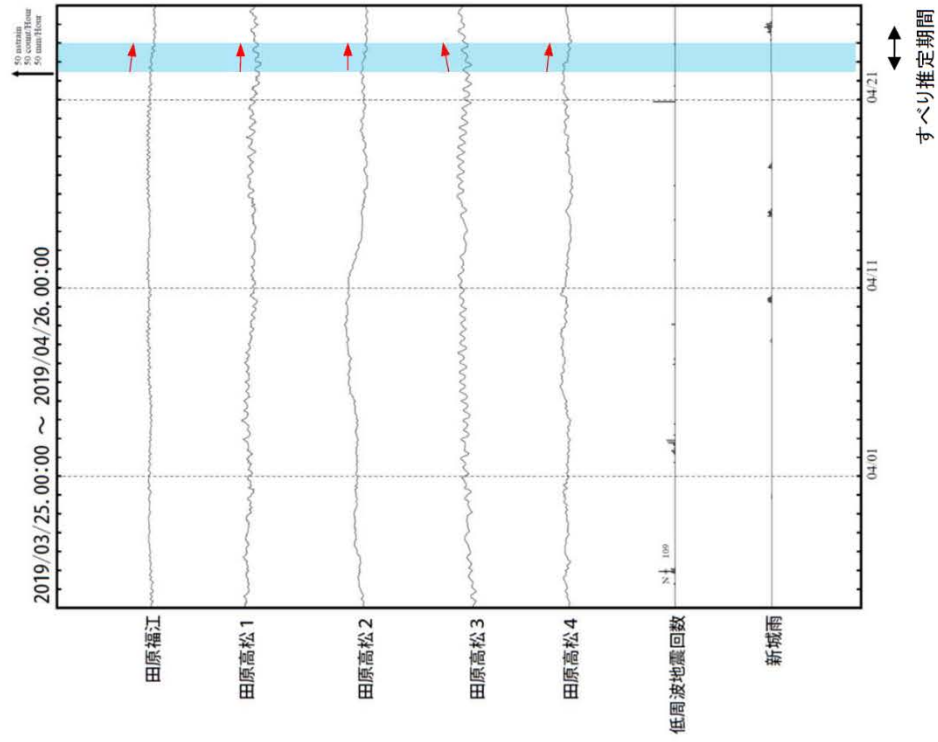
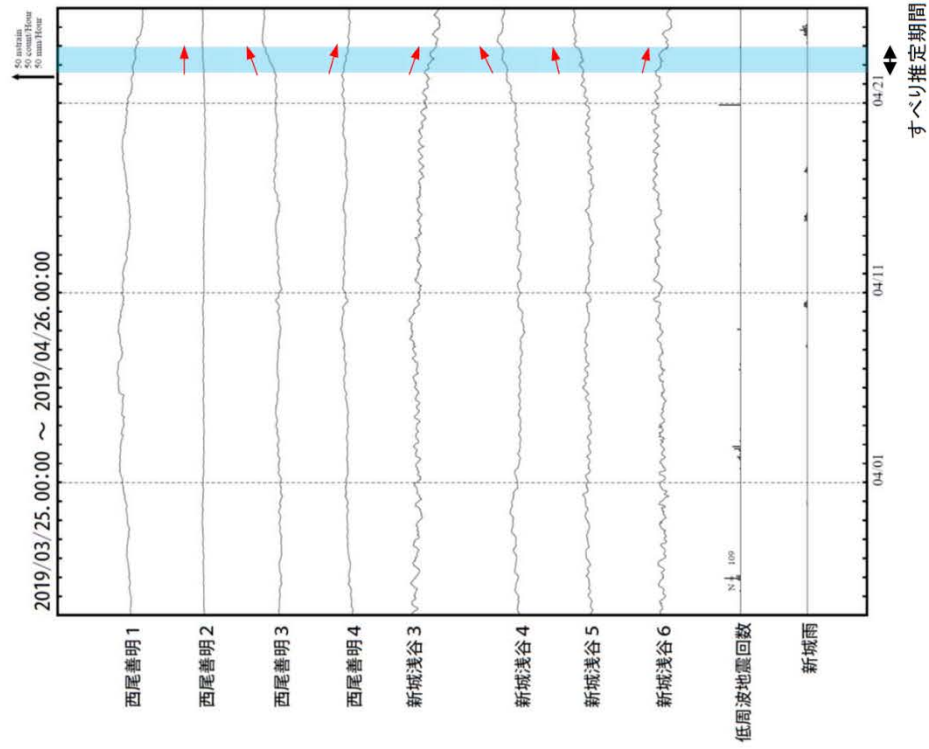


前図に観測されたひずみ変化のうち、赤矢印を付した観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

- 断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。
- ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
 - ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

東海で発生した短期的ゆっくりすべり（4月22日～23日）

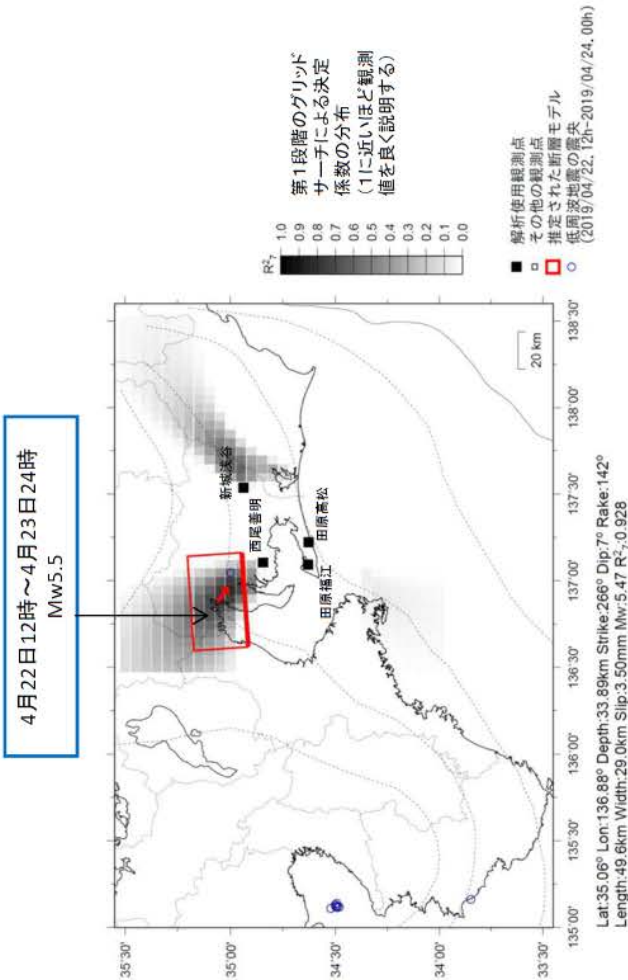
愛知県で観測されたひずみ変化



西尾善明は産業技術総合研究所のひずみ計である。

気象庁作成

東海で発生した短期的ゆっくりすべり(4月22日～23日)



前図に観測されたひずみ変化のうち、赤矢印を付した観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、上図の場所にすべり域が求まった。

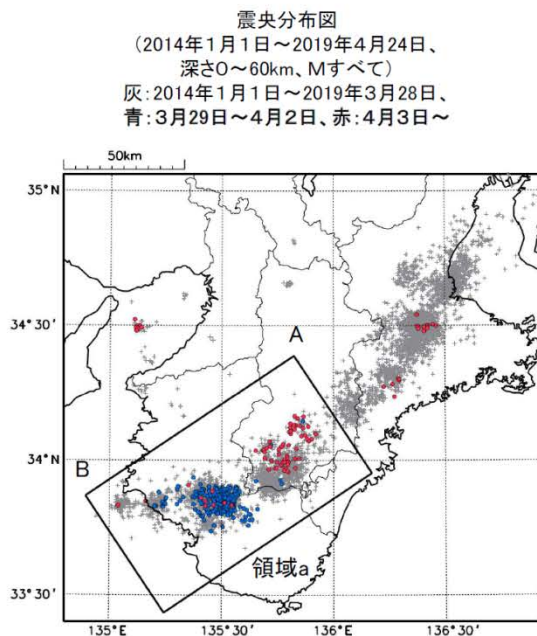
断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか、2012)を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

紀伊半島西部、中部の深部低周波地震（微動）活動と 短期的ゆっくりすべり

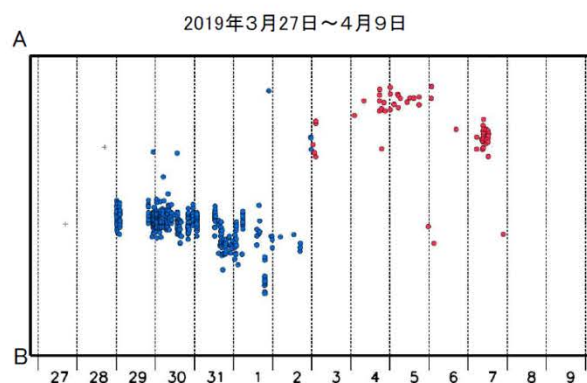
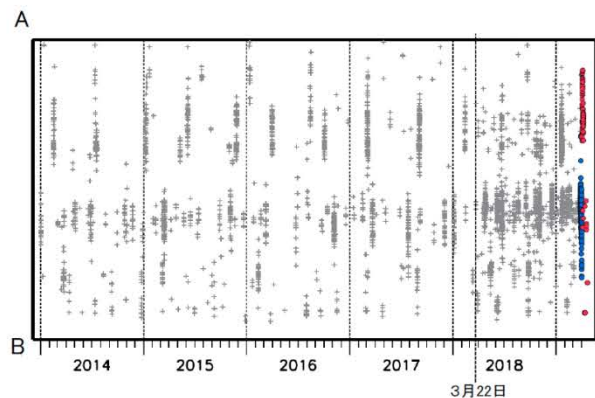
3月29日から4月2日にかけて紀伊半島西部、4月1日から4月7日にかけて紀伊半島中部で深部低周波地震（微動）を観測した。深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。

これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動



震央分布図の領域a内の時空間分布図（AB投影）



※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更（Matched Filter法の導入）により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

気象庁作成

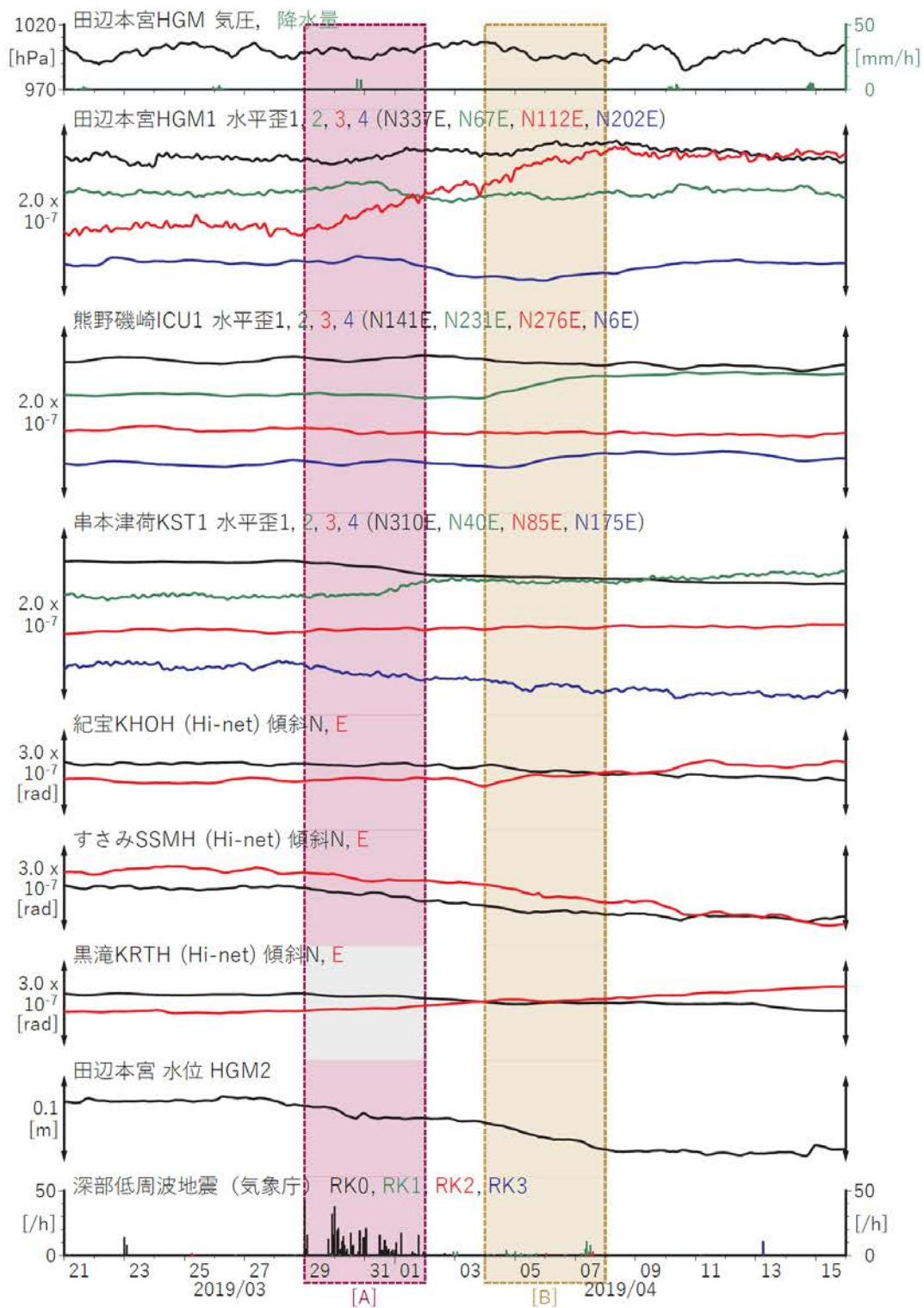
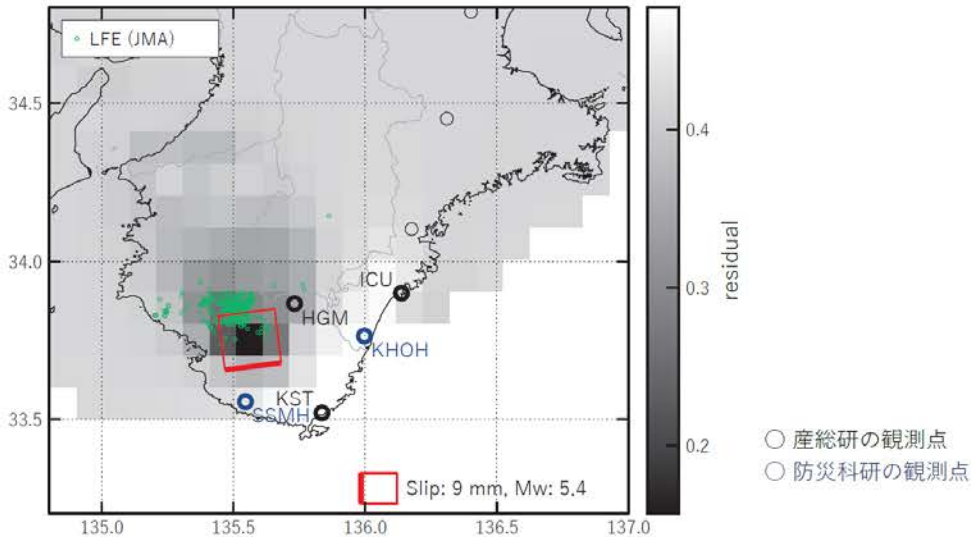


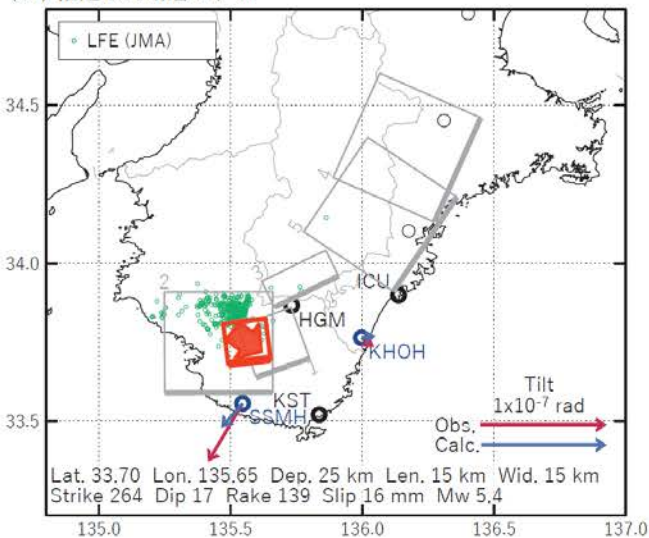
図2 紀伊半島における歪・傾斜・地下水観測結果（2019/03/21 00:00 - 2019/04/16 00:00 (JST)）

[A] 2019/03/29-04/01

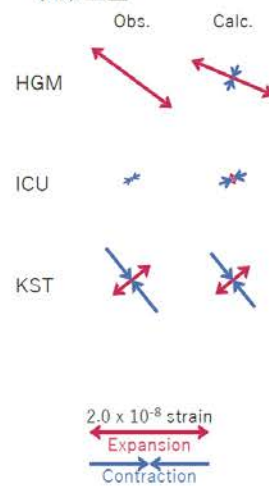
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

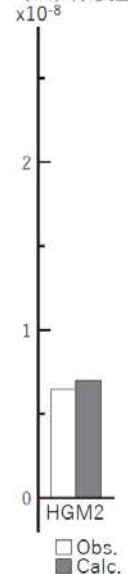


図3 2019/03/29-04/01の歪・傾斜・地下水変化（図2[A]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2018/01/04-05 (Mw5.3), 2: 2018/06/22PM-25AM (Mw5.6), 3: 2019/01/19PM-24AM (Mw5.6)

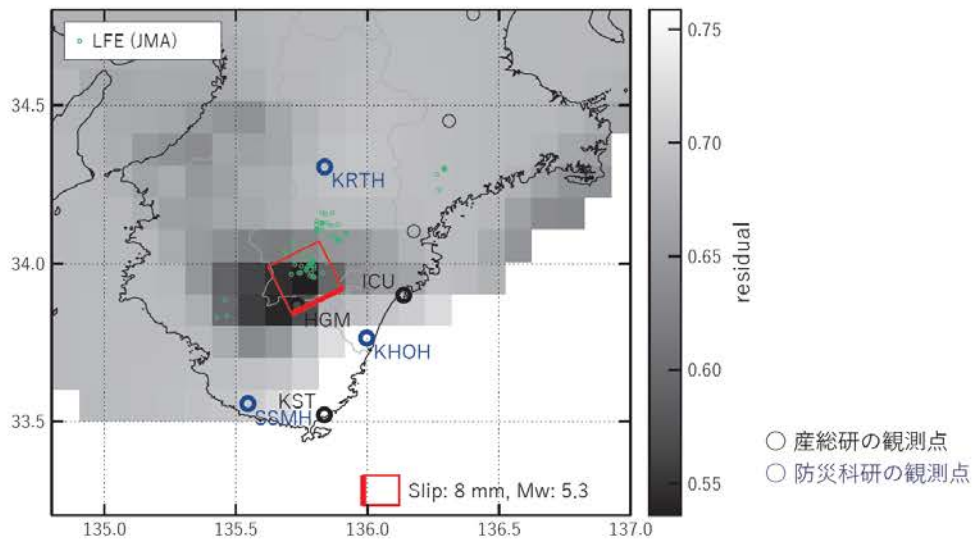
4: 2019/02/10-15 (Mw5.8), 5: 2019/02/16-18 (Mw5.5)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

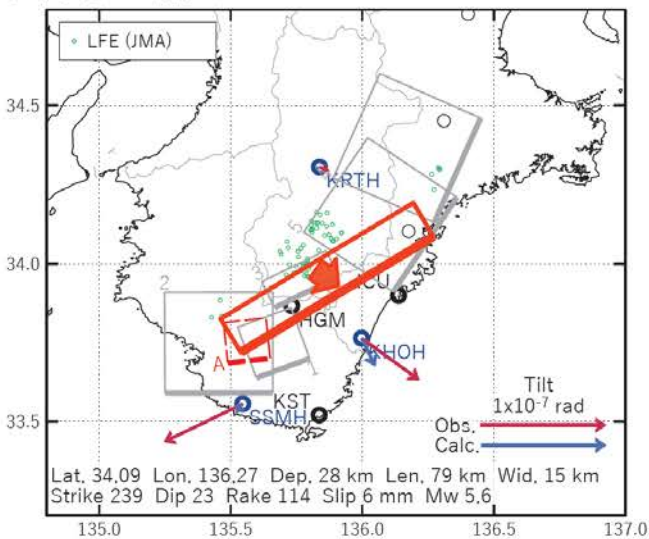
(b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2019/04/04-07

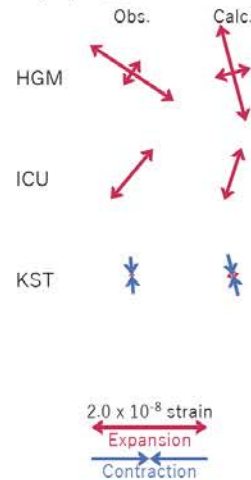
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

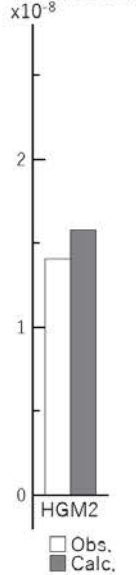


図4 2019/04/04-07の歪・傾斜・地下水変化（図2[B]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2018/01/04-05 (Mw5.3), 2: 2018/06/22PM-25AM (Mw5.6), 3: 2019/01/19PM-24AM (Mw5.6)

4: 2019/02/10-15 (Mw5.8), 5: 2019/02/16-18 (Mw5.5), A: 2019/03/29-04/01 (Mw5.4)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

四国の深部低周波地震(微動)活動とゆっくりすべり

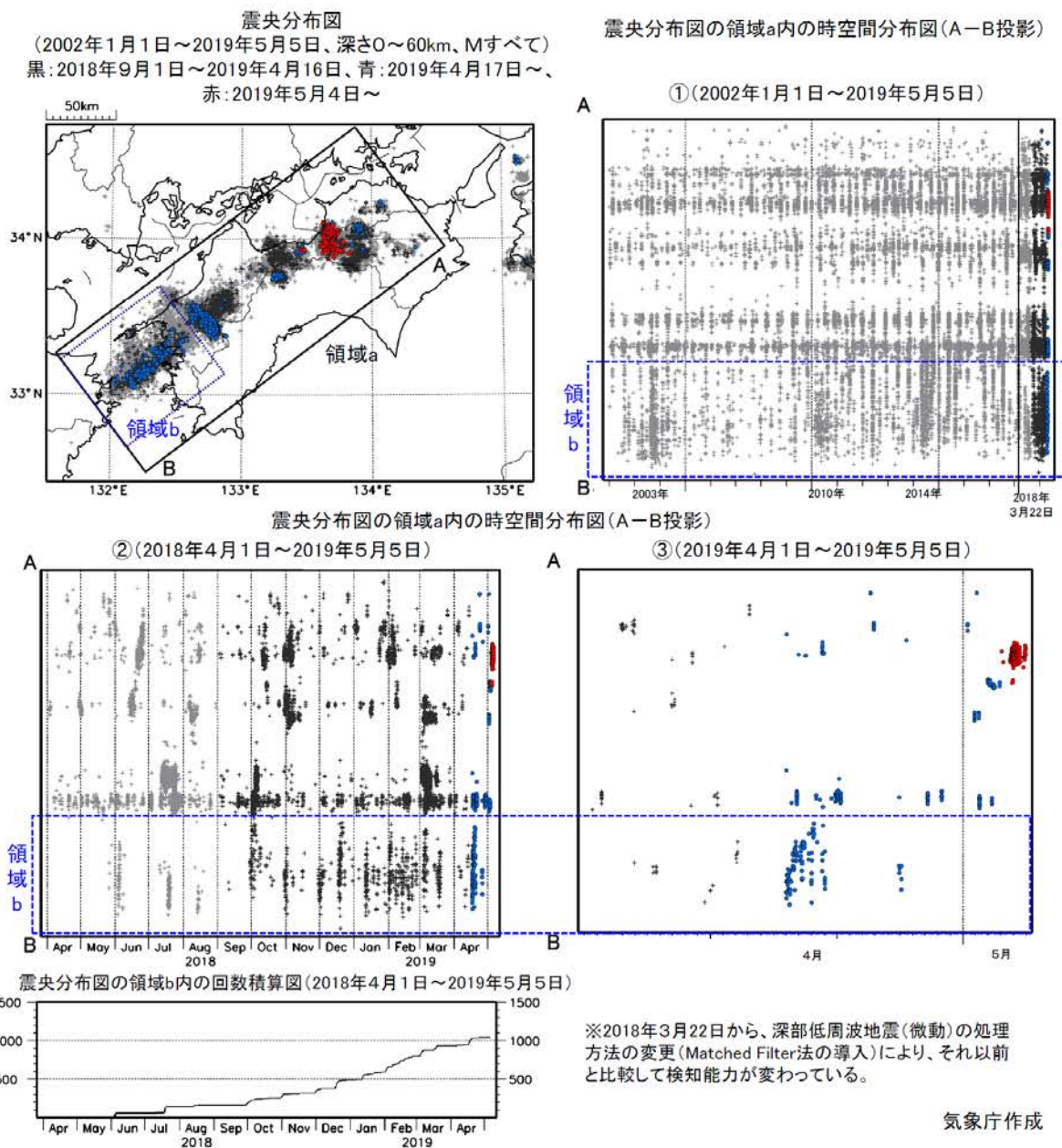
【四国西部】

4月17日から21日にかけて、四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

四国西部の南西側(領域b:豊後水道とその付近)では、2018年秋頃から深部低周波地震(微動)活動が活発になっている。また、2018年秋頃から、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測している。これは、豊後水道周辺のプレート境界深部において発生している長期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。豊後水道周辺では、2003年～2004年、2010年、2014年にも深部低周波地震(微動)活動が活発となった。これらの時期は、豊後水道周辺で長期的ゆっくりすべりが発生した(国土地理院, 2015, 地震予知連絡会会報第94巻)。

【四国東部】

5月4日以降、四国東部で深部低周波地震(微動)を観測している。周辺に設置されているひずみ計で、深部低周波地震(微動)に関連すると思われるわずかな地殻変動が観測されている。



四国の深部低周波微動活動状況（2019 年 4 月）

- 4 月 17 ～ 21 日頃に豊後水道から四国西部において、やや活発な微動活動.
- 5 月 2 日頃より四国中部から東部において、微動活動が開始.

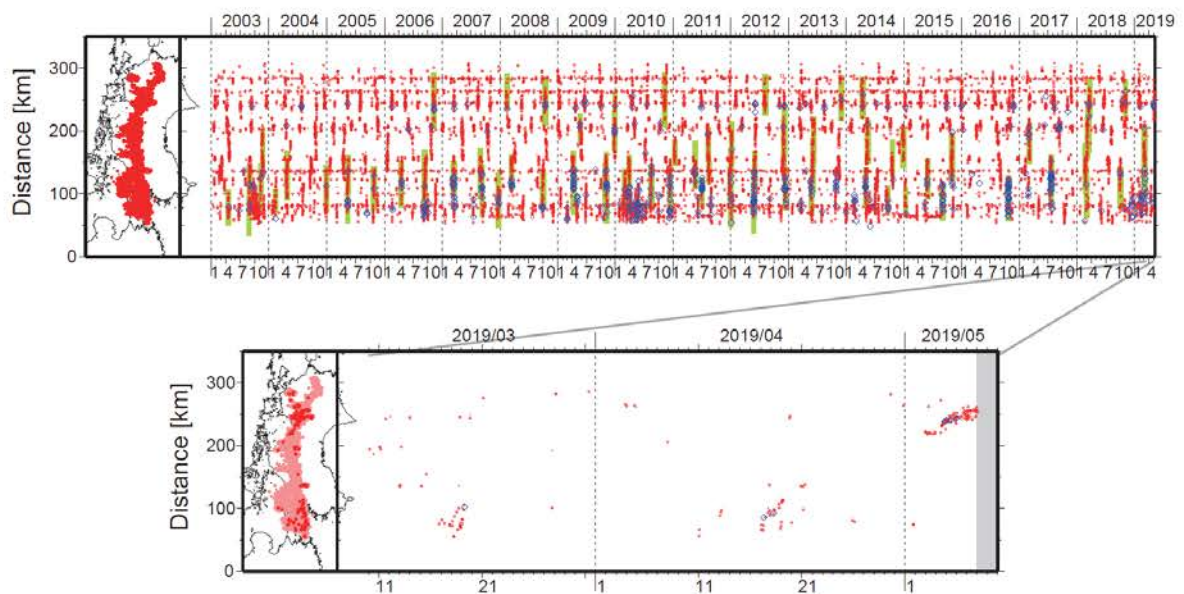


図 1. 四国における 2003 年 1 月～2019 年 5 月 7 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色太線は、これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す。下図は 2019 年 4 月を中心とした期間の拡大図である。4 月 17 ～ 21 日頃には、豊後水道から愛媛県西部においてやや活発な微動活動がみられた。この活動は豊後水道での活動開始後、東方向への活動域の移動がみられた。5 月 2 日頃からは愛媛県東部で微動活動が開始し、活動の活発化とともに東方向への活動域の移動がみられている。

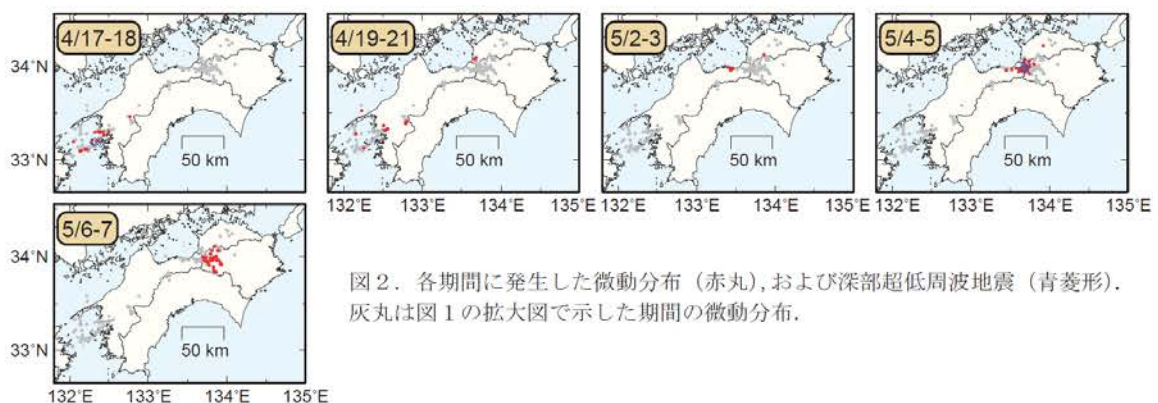


図 2. 各期間に発生した微動分布（赤丸）, および深部超低周波地震（青菱形）。
灰丸は図 1 の拡大図で示した期間の微動分布。

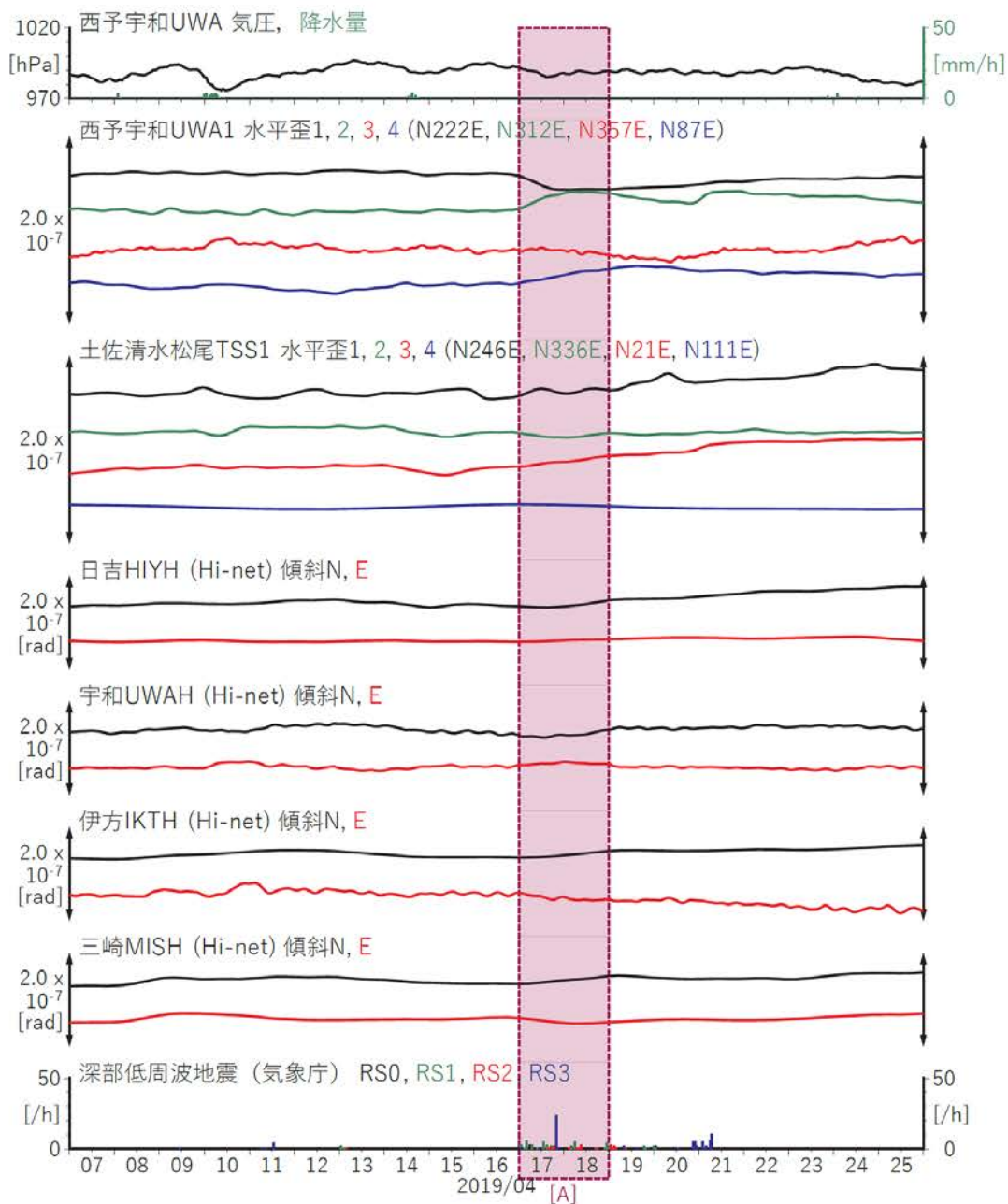
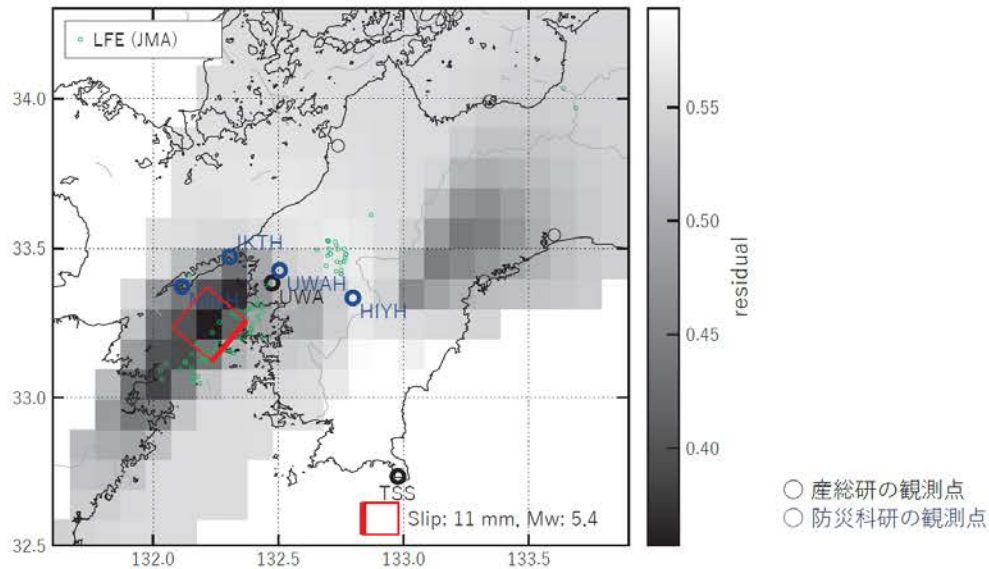


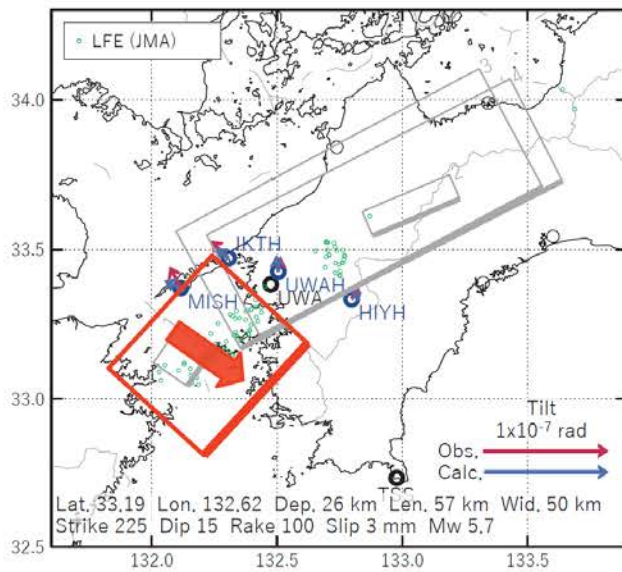
図6 四国地方における歪・傾斜観測結果 (2019/04/07 00:00 - 2019/04/26 00:00 (JST))

[A] 2019/04/17-18

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

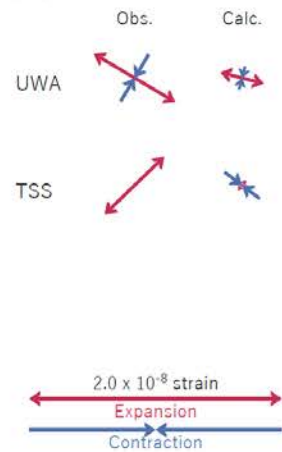


図7 2019/04/17-18の歪・傾斜変化（図6[A]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2019/01/11PM-12AM (Mw5.7), 2: 2019/03/02-04AM (Mw5.6), 3: 2019/03/04PM-06 (Mw6.2), 4: 2019/03/07-09 (Mw6.0)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

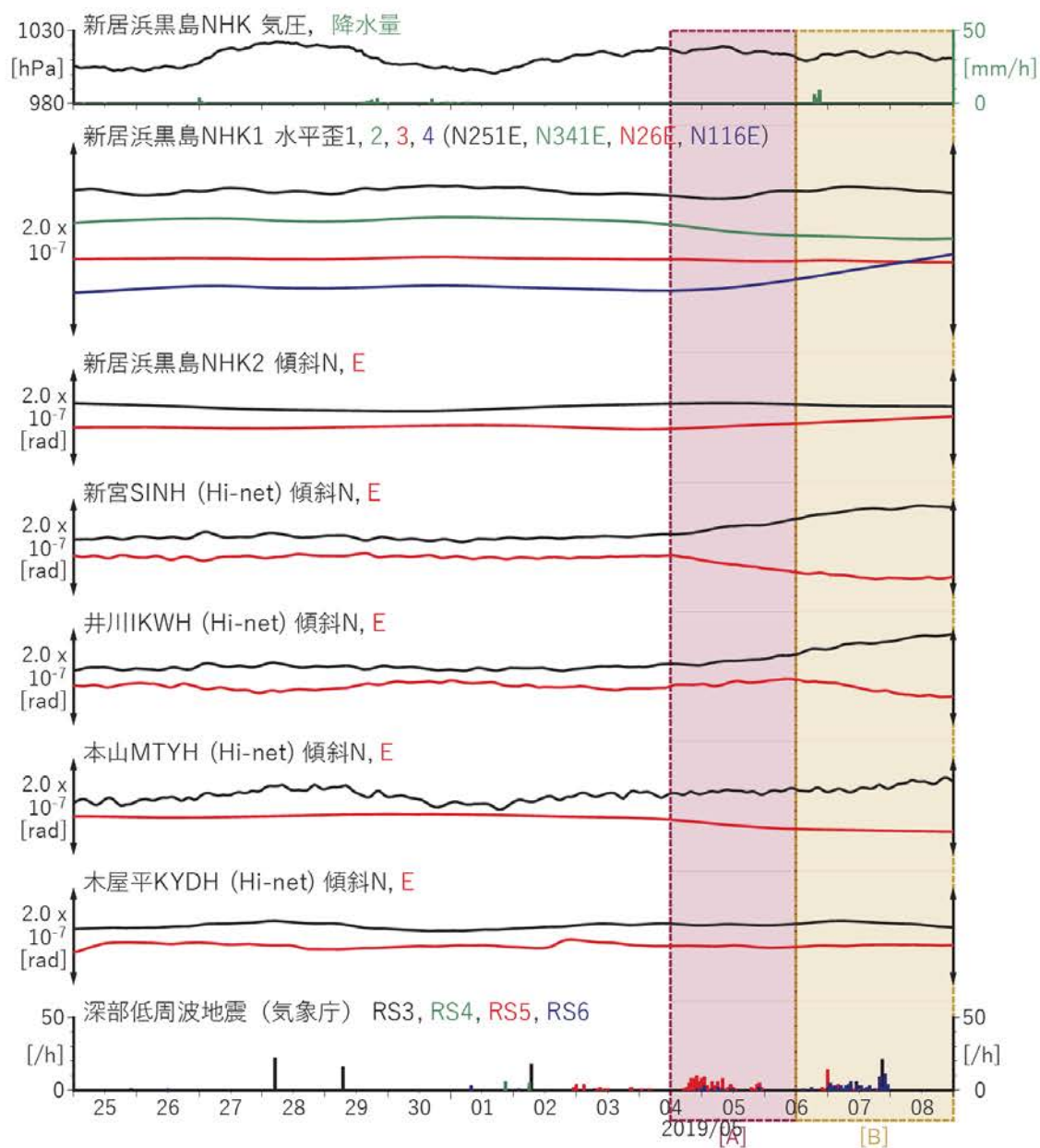
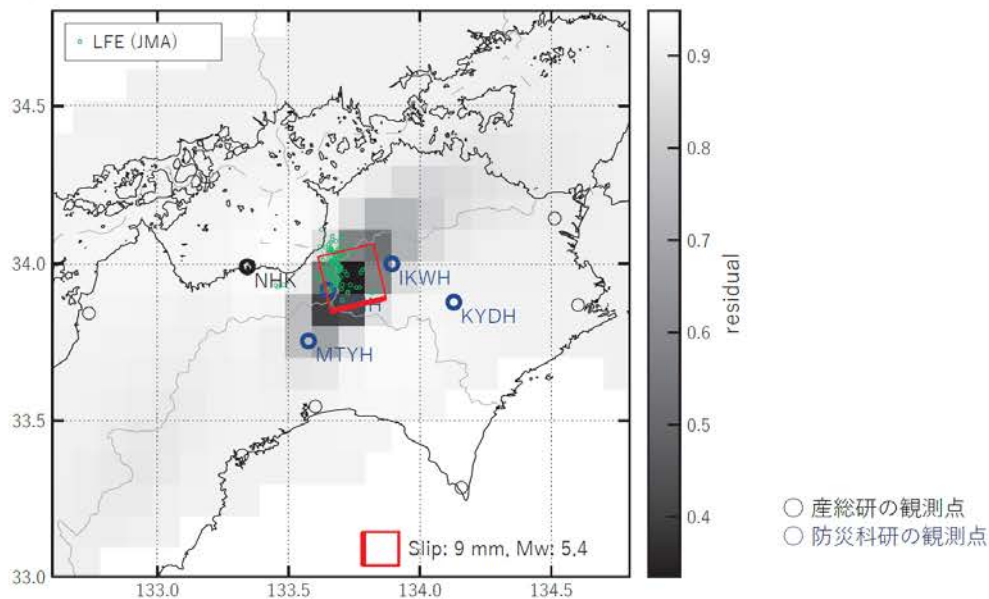


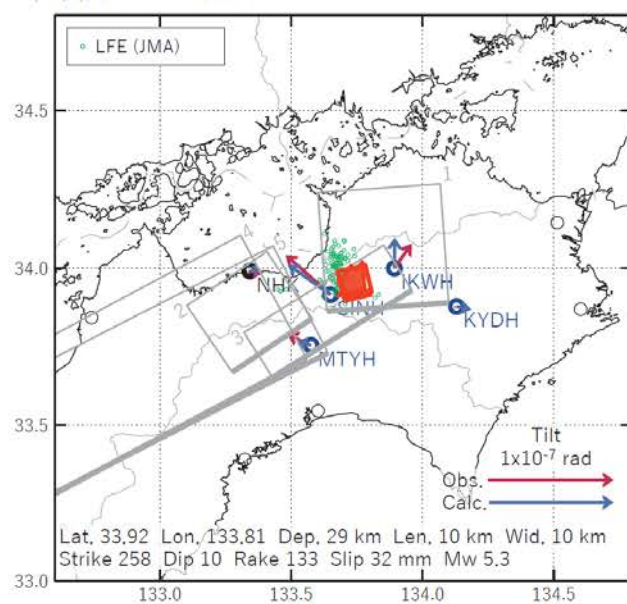
図12 四国地方における歪・傾斜観測結果 (2019/04/25 00:00 - 2019/05/09 00:00 (JST))

[A] 2019/05/04PM-06AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定された断層モデル



(b2) 主歪

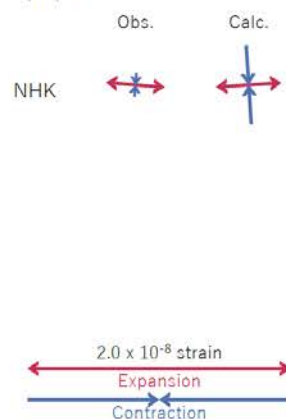


図13 2019/05/04PM-06AMの歪・傾斜変化（図12[A]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

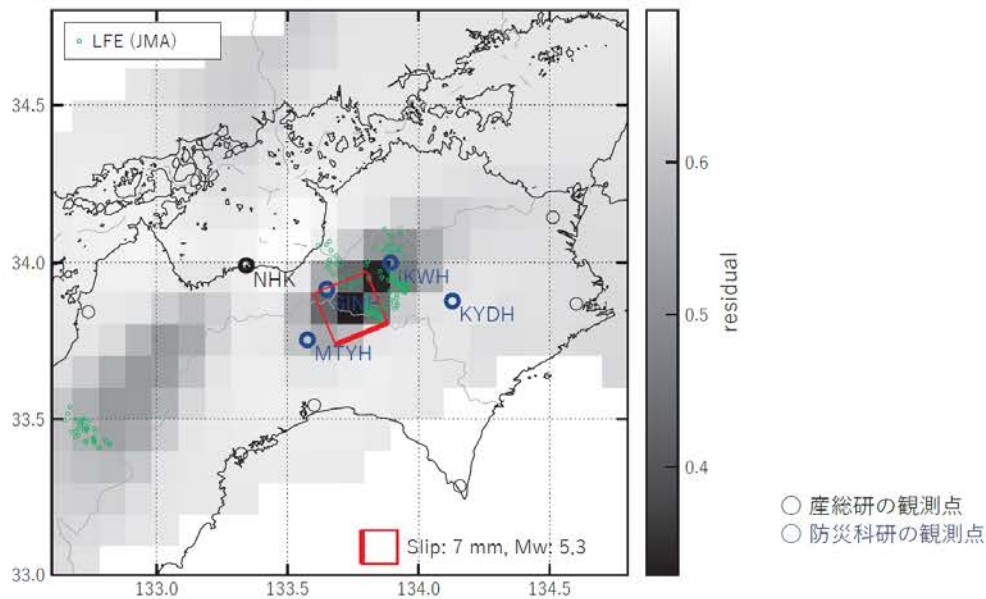
1: 2018/10/10PM-15 (Mw5.8), 2: 2018/10/31-11/03 (Mw5.5), 3: 2018/11/04-08AM (Mw5.5)

4: 2019/03/04PM-06 (Mw6.2), 5: 2019/03/07-09 (Mw6.0)

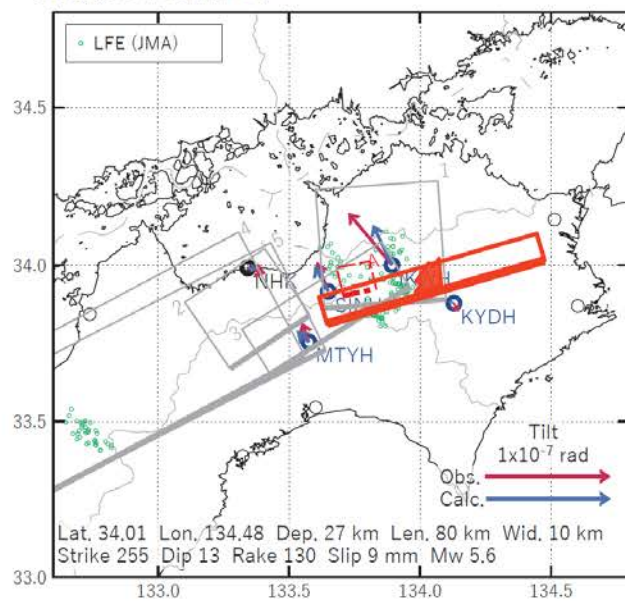
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2019/05/06PM-08(継続中)

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定された断層モデル



(b2) 主歪

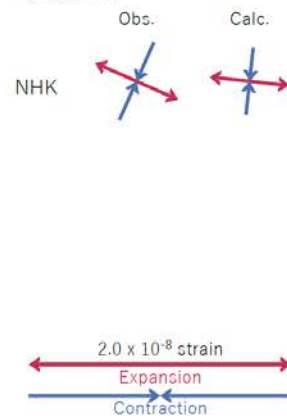


図14 2019/05/06PM-08(継続中)の歪・傾斜変化 (図12[B]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

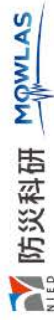
1: 2018/10/10PM-15 (Mw5.8), 2: 2018/10/31-11/03 (Mw5.5), 3: 2018/11/04-08AM (Mw5.5)

4: 2019/03/04PM-06 (Mw6.2), 5: 2019/03/07-09 (Mw6.0)

A: 2019/05/04PM-06AM (Mw5.3)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

四国東部の短期的スローリップ活動状況（2019 年 5 月，暫定）



- ・四国東部を活動域とする短期的スローリップイベント (Mw 5.7)
- ・2018 年 10 ～ 11 月 (Mw 5.8) 以来約 6 ヶ月ぶり

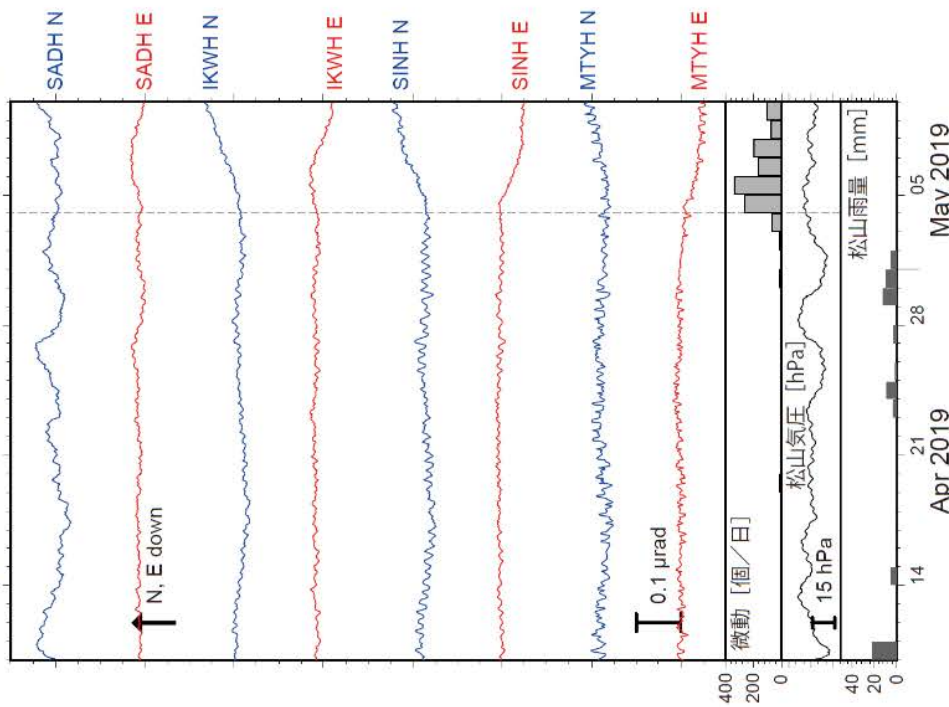


図 1：2019 年 4 月 10 日～5 月 9 日の傾斜時系列。上方向への変化が北・東下がり
の傾斜変動を表し，BAYTAP-G により潮汐・気圧応答成分を除去した。5 月 4
日～9 日の傾斜変化ベクトルを図 2 に示す。四国東部での微動活動度・気象庁松
山観測点の気圧・雨量をあわせて示す。

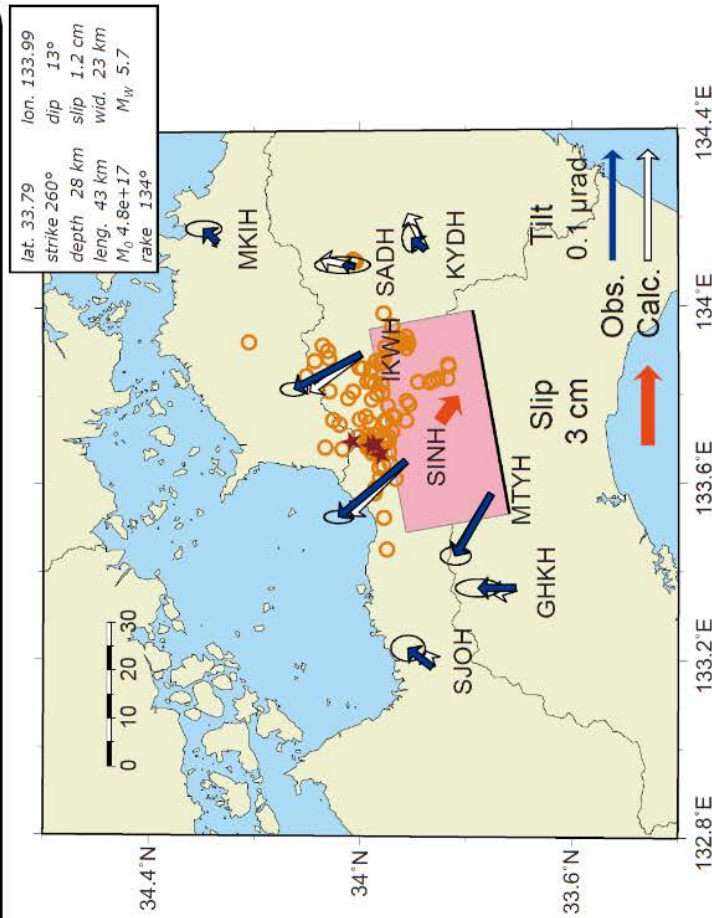


図 2：5 月 4 日～9 日に観測された傾斜変化ベクトル（青矢印），推定されたスローリップイベントの断
層モデル（赤矩形・矢印），モデルから計算される傾斜変化ベクトル（白抜き矢印）を示す。1 時間ごとの
微動エネルギーの重心位置（緑丸）もあわせて示す。すべり角はプレート相対運動方向に固定している。

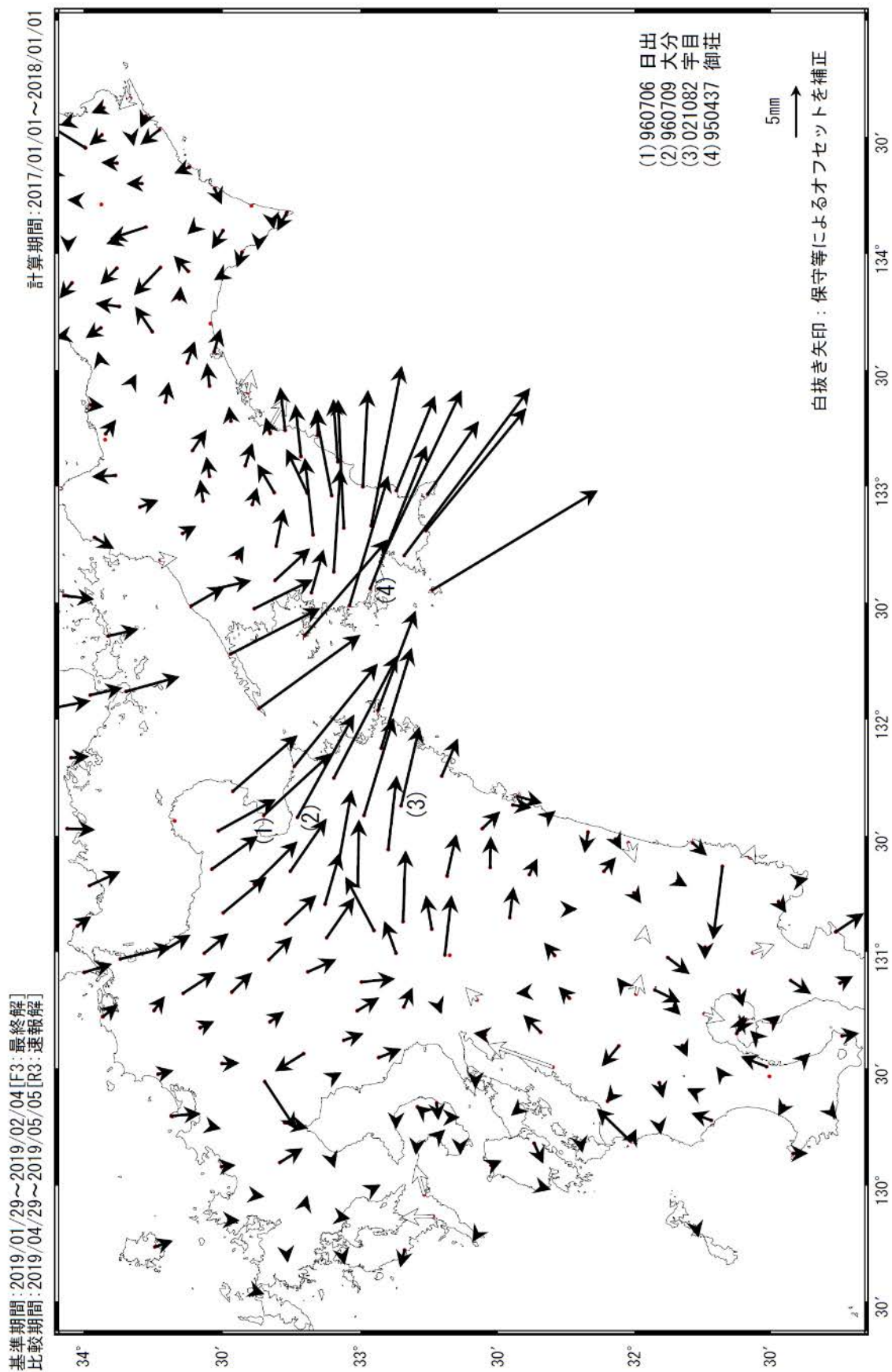
謝辞

気象庁の WEB ページで公開されている気象データを使用させて頂きました。記して感謝いたします。

防災科学技術研究所資料

（国土地理院による GNSS 解析）

九州北部・四国西部の非定常水平地殻変動（1次トレンド・年周期・半年周期除去後）



国土地理院

☆ 固定局：福江 (950462)

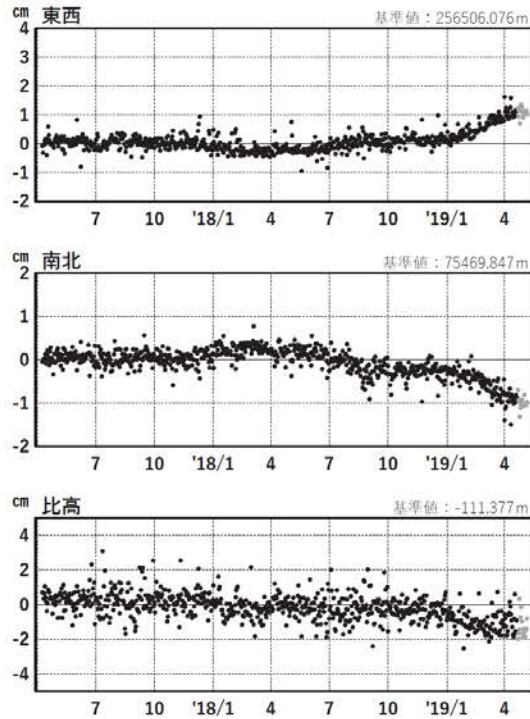
九州北部・四国西部 G N S S 連続観測時系列

1 次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

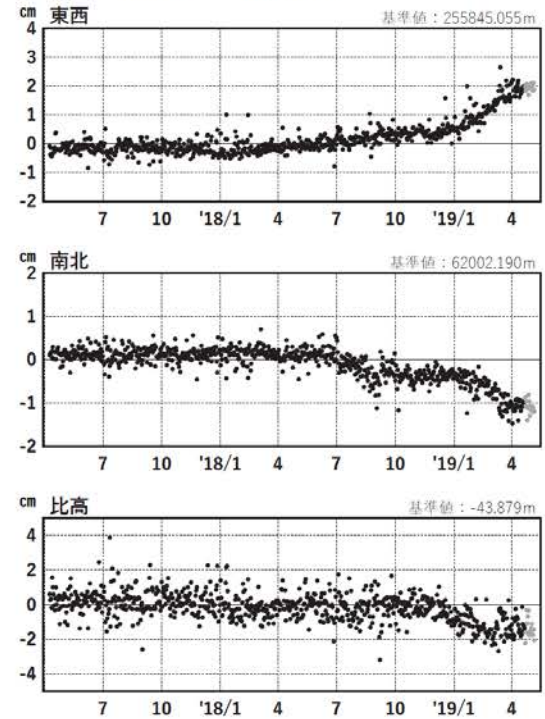
期間: 2017/04/08~2019/05/06 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01

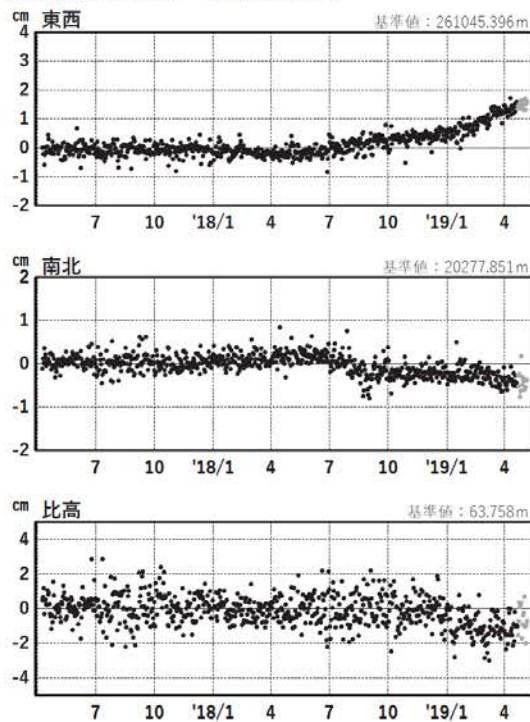
(1) 福江(950462)―日出(960706)



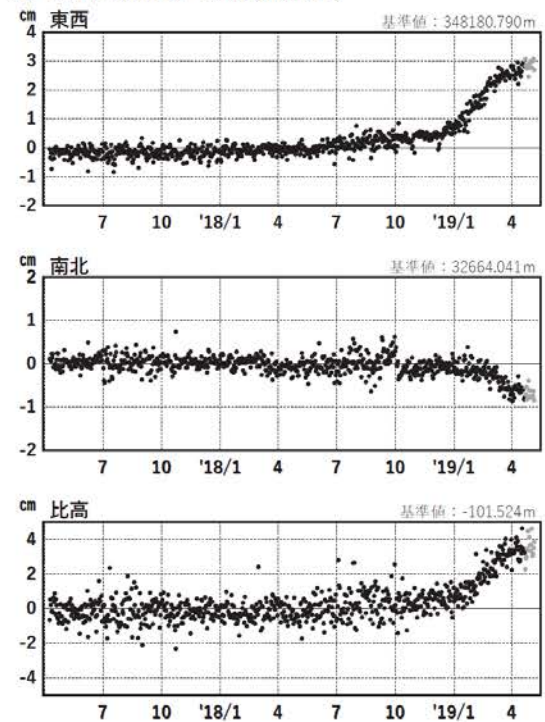
(2) 福江(950462)―大分(960709)



(3) 福江(950462)―宇目(021082)



(4) 福江(950462)―御荘(950437)

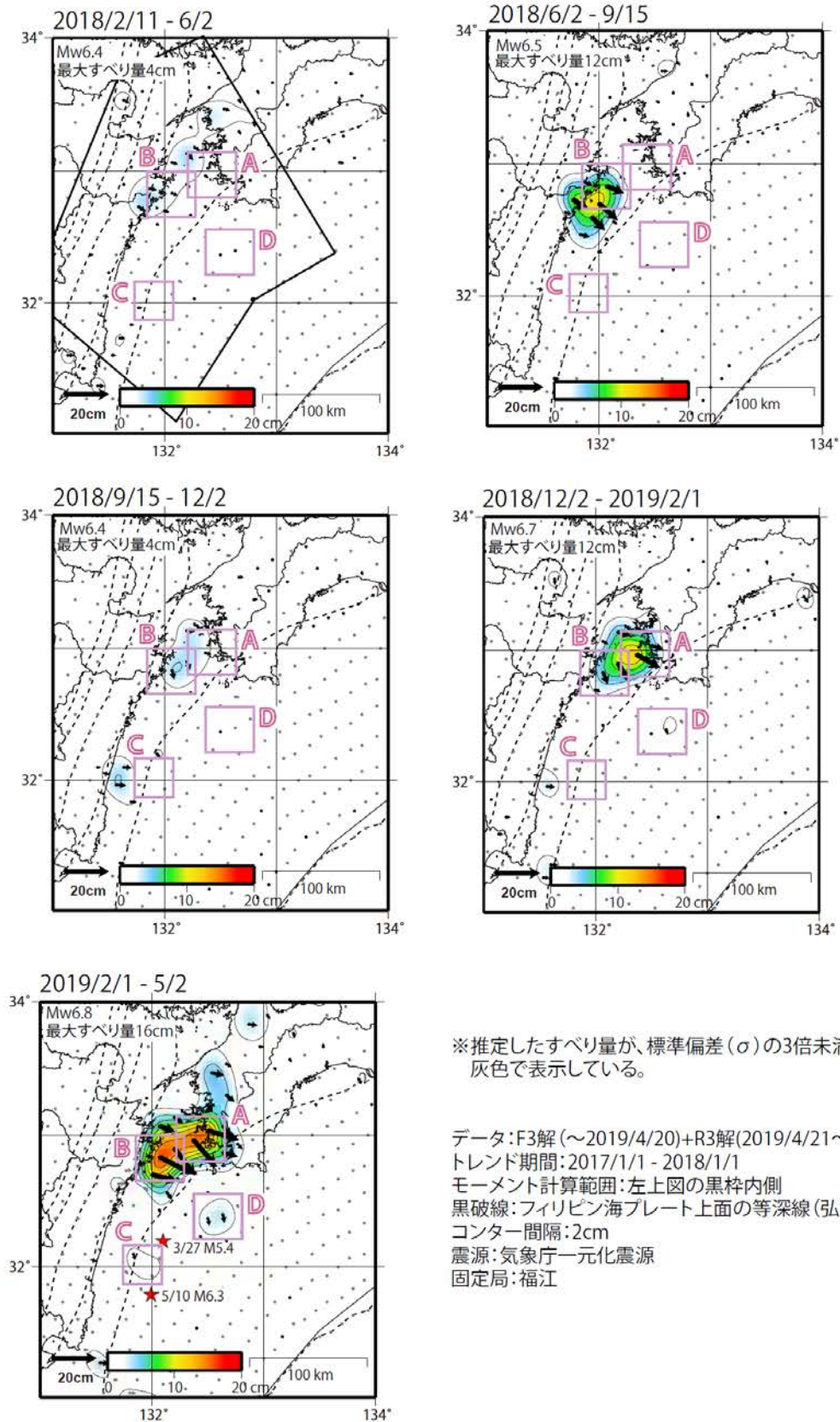


●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

国土地理院

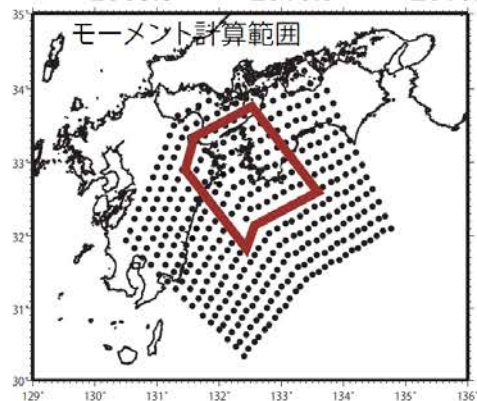
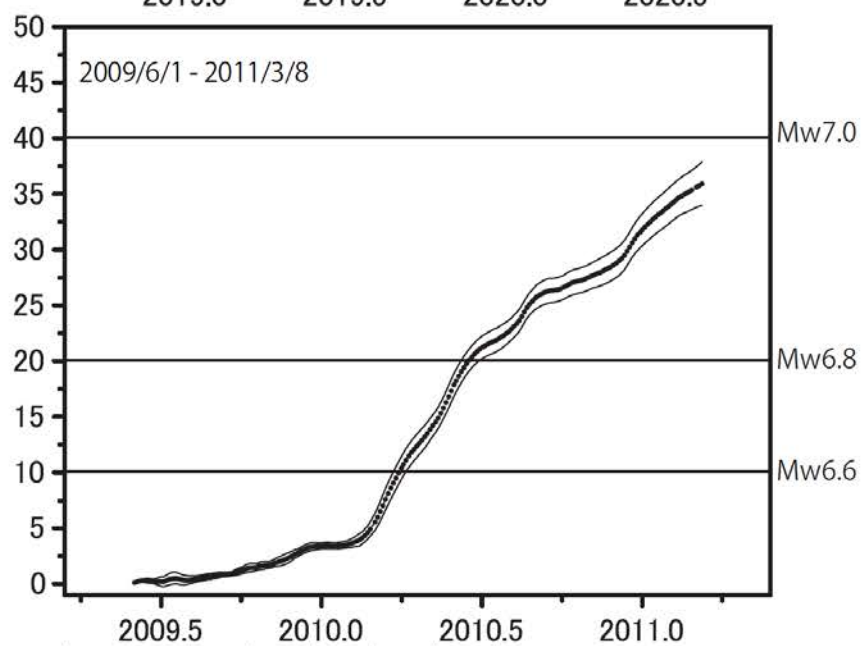
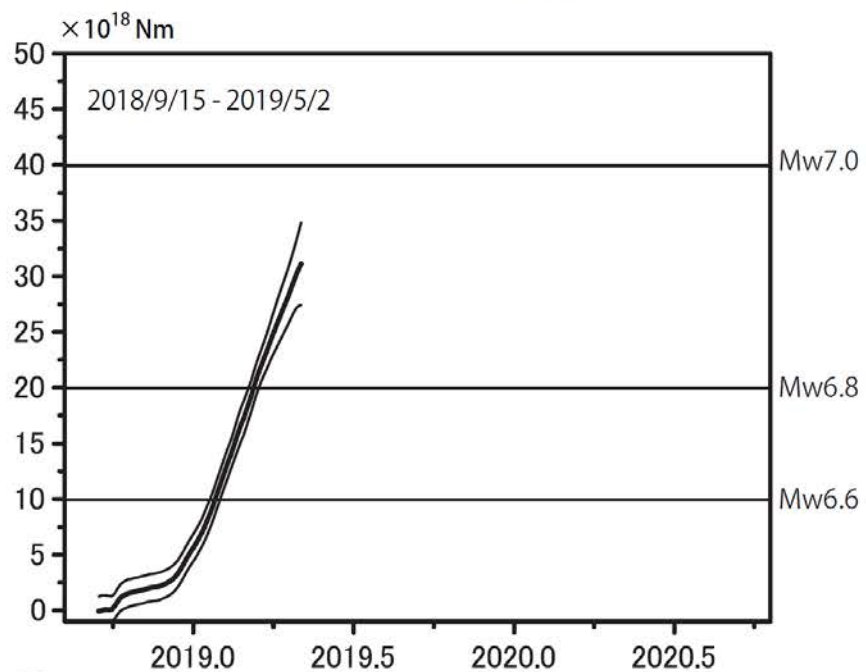
GNSSデータから推定された日向灘・豊後水道の長期的ゆっくりすべり(暫定)

推定すべり分布



国土地理院

モーメント※ 積算図(試算)



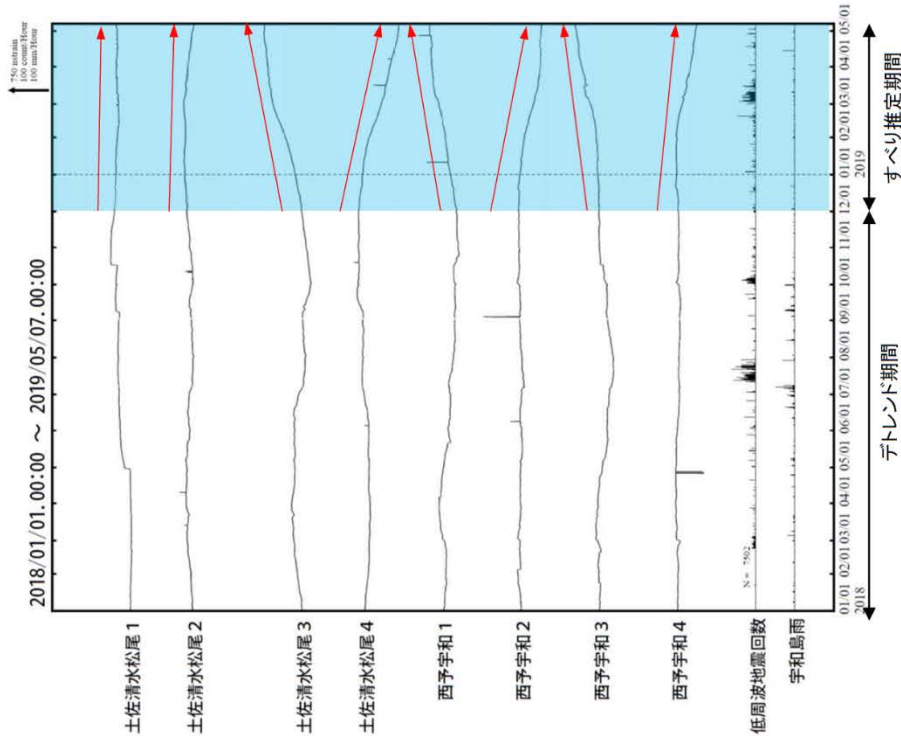
モーメント積算図には、標準偏差(σ)の3倍を誤差として表示。

※モーメント
断層運動のエネルギーの目安となる量。
地震の場合のMw（モーメント・マグニチュード）
に換算できる。

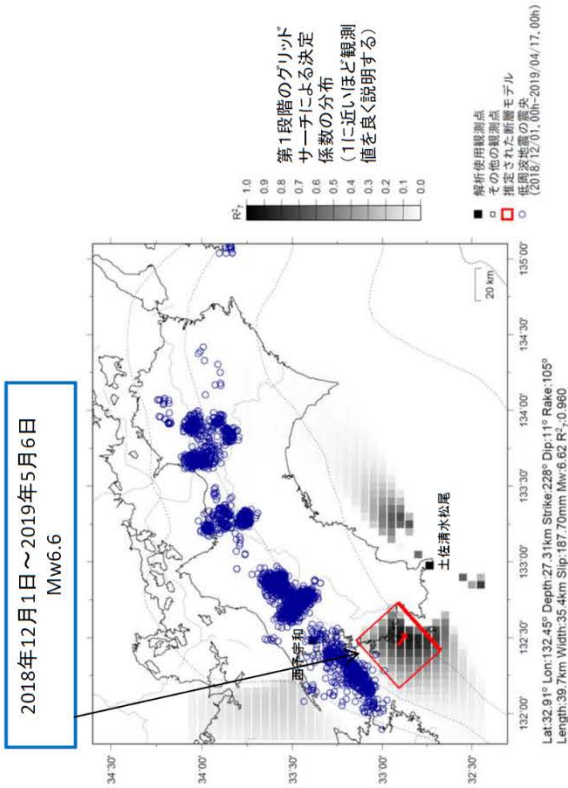
国土地理院

豊後水道で発生している長期的ゆっくりすべり

愛媛県から高知県で観測されたひずみ変化



ひずみ変化から推定される断層モデル



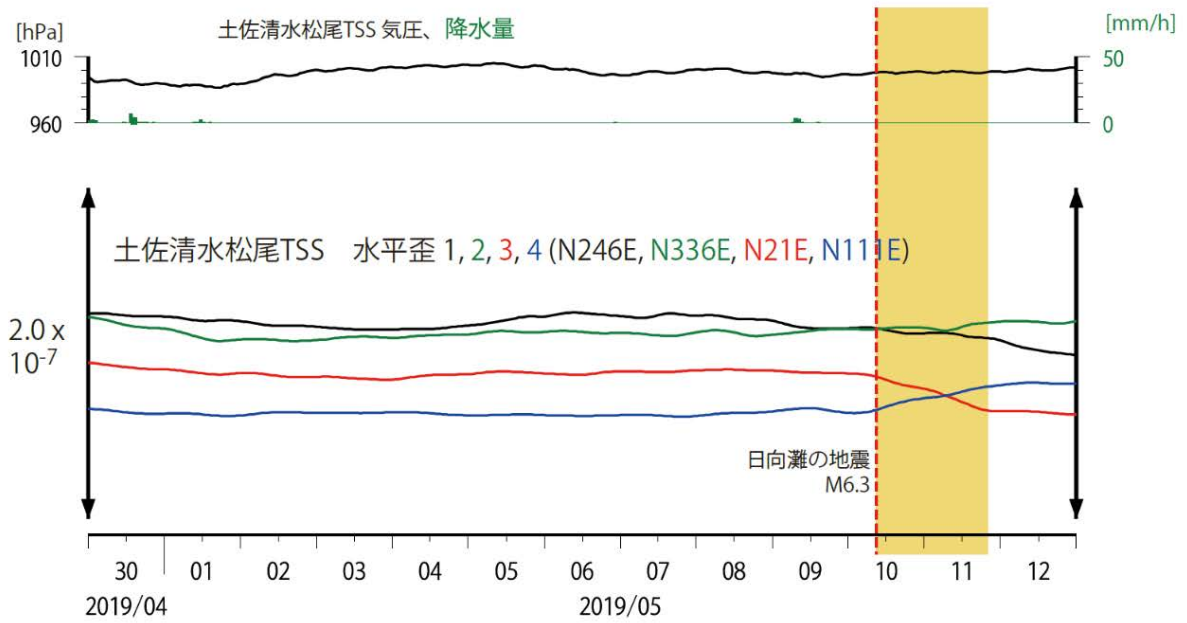
左図に観測されたひずみ変化のうち、赤矢印を付した観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、上図に示す領域にすべり域が求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか、2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

土佐清水松尾及び西予宇和は産業技術総合研究所のひずみ計である。

気象庁作成

土佐清水松尾で観測されたひずみ変化について



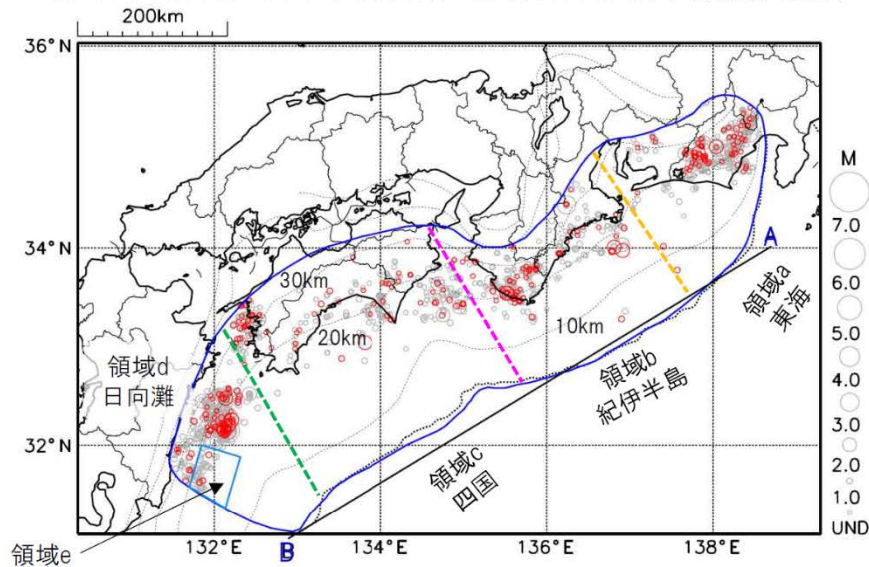
プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

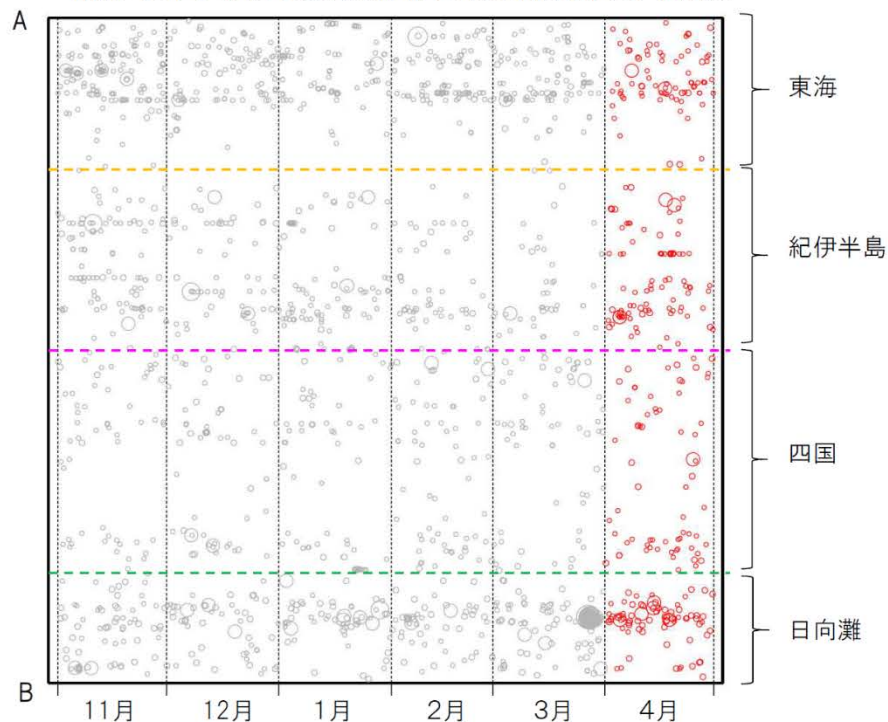
日向灘の領域e内のみ、深さ20km～30kmの地震を追加している。

震央分布図

（2018年11月1日～2019年4月30日、M全て、2019年4月の地震を赤く表示）



南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図(A-B投影)



・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。

・今期間の地震のうち、M3.2以上の地震で想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震に吹き出しを付している。吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差（+は浅い、-は深い）を示す。

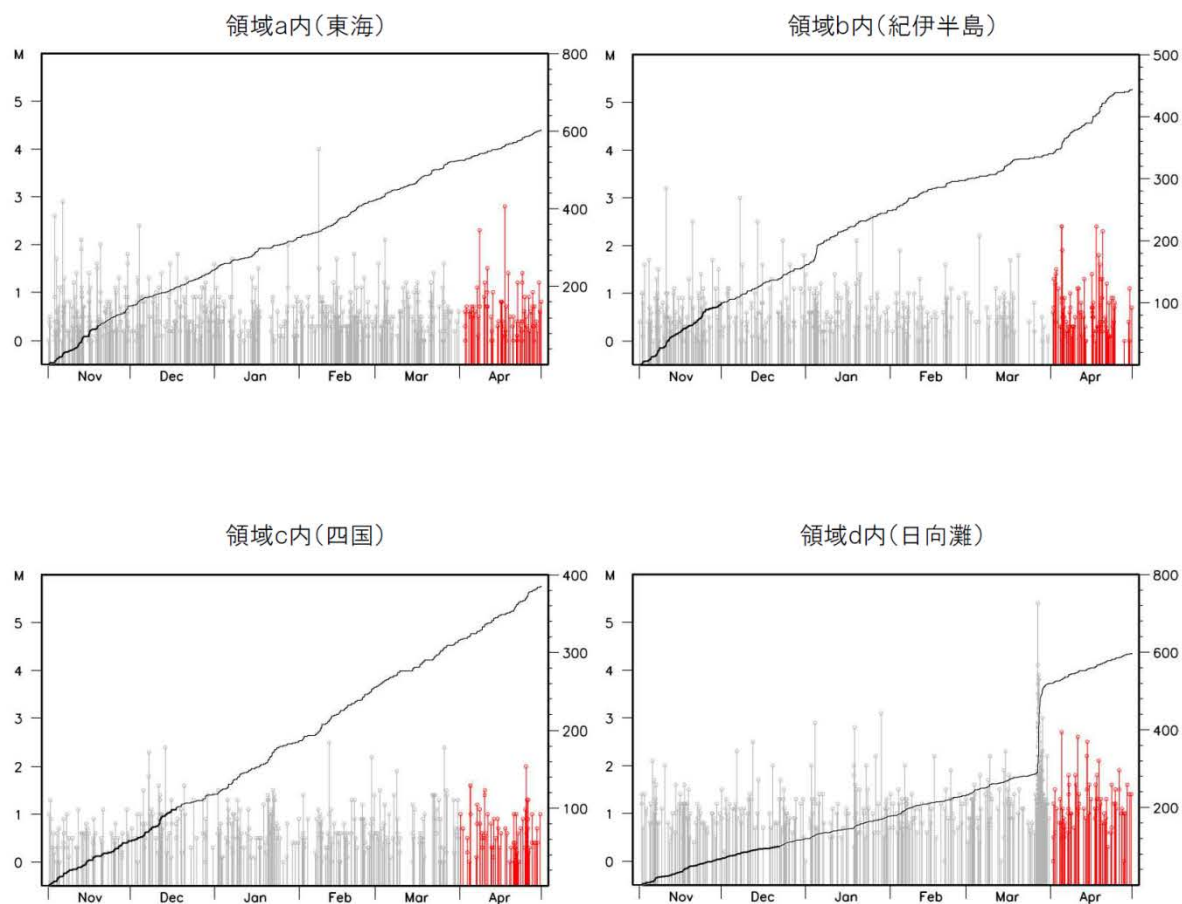
・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

気象庁作成

プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図・回数積算図



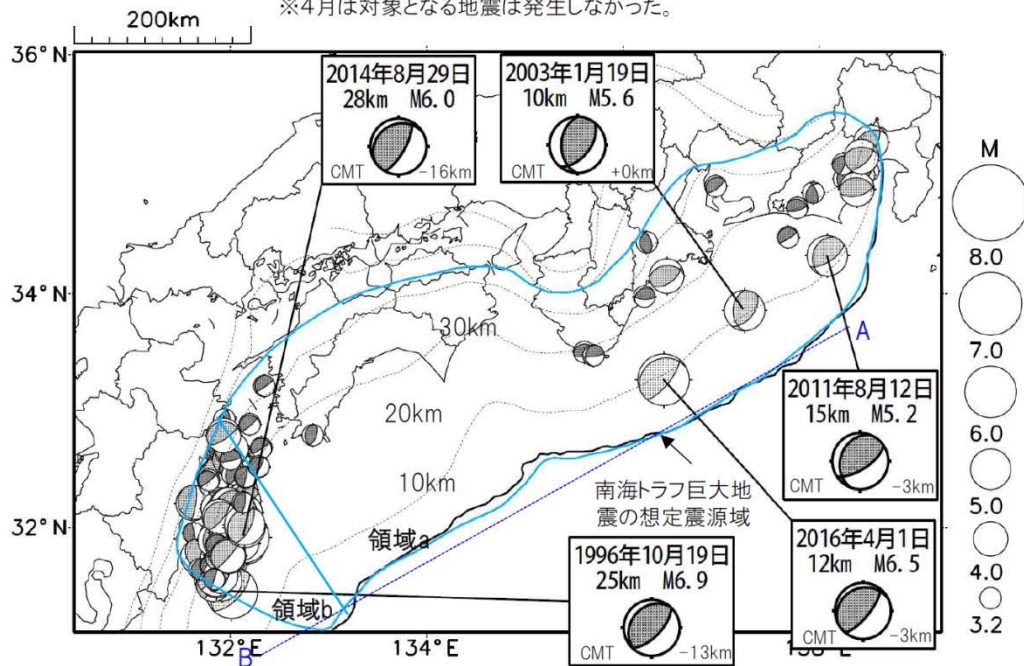
※M全ての地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図は参考として表記している。

気象庁作成

想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

震央分布図(1987年9月1日～2019年4月30日、 $M \geq 3.2$ 、2019年4月の地震を赤く表示)

※4月は対象となる地震は発生しなかった。



・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。

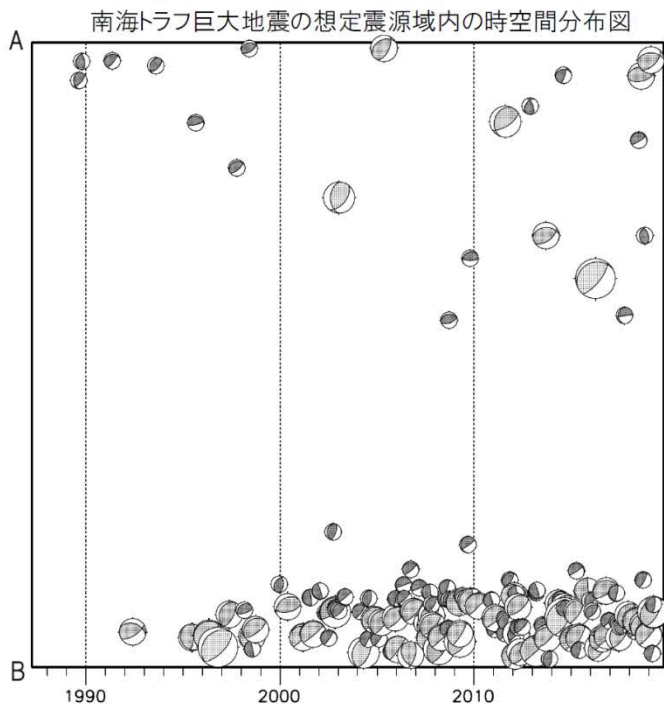
・今期間に発生した地震(赤)、日向灘の $M6.0$ 以上、その他の地域の $M5.0$ 以上の地震に吹き出しを付けている。

・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。

・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。

・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

【抽出条件】

- ・ $M3.2$ 以上の地震
- ・領域a内(南海トラフの想定最大規模の想定震源域内)で発生した地震
- ・発震機構解が以下の条件を全て満たしたものを抽出した。

P軸の傾斜角が45度以下

P軸の方位角が65度以上180度以下(※)

T軸の傾斜角が45度以上

N軸の傾斜角が30度以下

※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様

・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。

・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。

・東海地方から四国地方(領域a)は、フィリピン海プレート上面の深さから ± 10 km未満の地震のみ抽出した。日向灘(領域b)は、 $+10$ km ~ -20 km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

気象庁作成

南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2019年4月30日

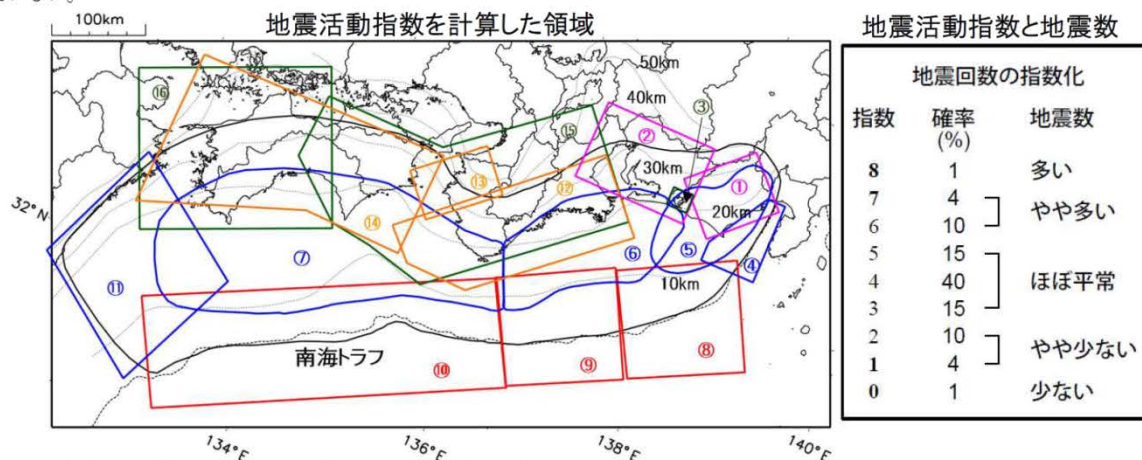
領域	①静岡県 中西部		②愛知県		③浜名湖 周辺	④駿河 湾	⑤東海	⑥東南 海	⑦南海
	地	プ	地	プ	プ	全	全	全	全
地震活動指数	5	5	5	4	6	4	5	1	4
平均回数	16.3	18.4	26.6	13.6	13.2	13.3	18.2	19.7	21.3
MLしい値	1.1		1.1		1.1	1.4	1.5	2.0	2.0
クラスタ 除去	距離	3km	3km		3km	10km	10km	10km	10km
	日数	7日	7日		7日	10日	10日	10日	10日
対象期間	60日	90日	60日	30日	360日	180日	90日	360日	90日
深さ	0～ 30km	0～ 60km	0～ 30km	0～ 60km	0～ 60km	0～ 60km	0～ 60km	0～ 100km	0～ 100km

領域	南海トラフ沿い		⑪日向 灘	⑫紀伊 半島	⑬和歌 山	⑭四国	⑮紀伊半 島	⑯四国
	⑧東側	⑩西側						
	全	全	全	地	地	地	プ	プ
地震活動指数	6	4	4	3	4	6	5	5
平均回数	11.8	15.0	20.5	23.0	42.3	30.2	27.6	28.1
MLしい値	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
クラスタ 除去	距離	10km	10km	10km	3km	3km	3km	3km
	日数	10日	10日	10日	7日	7日	7日	7日
対象期間	720日	360日	60日	120日	60日	90日	30日	30日
深さ	0～ 100km	0～ 100km	0～ 100km	0～ 20km	0～ 20km	0～ 20km	20～ 100km	20～ 100km

* 基準期間は、全領域1997年10月1日～2019年1月22日

* 領域欄の「地」は地殻内、「プ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけであり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

* ⑨の領域(三重県南東沖)は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。



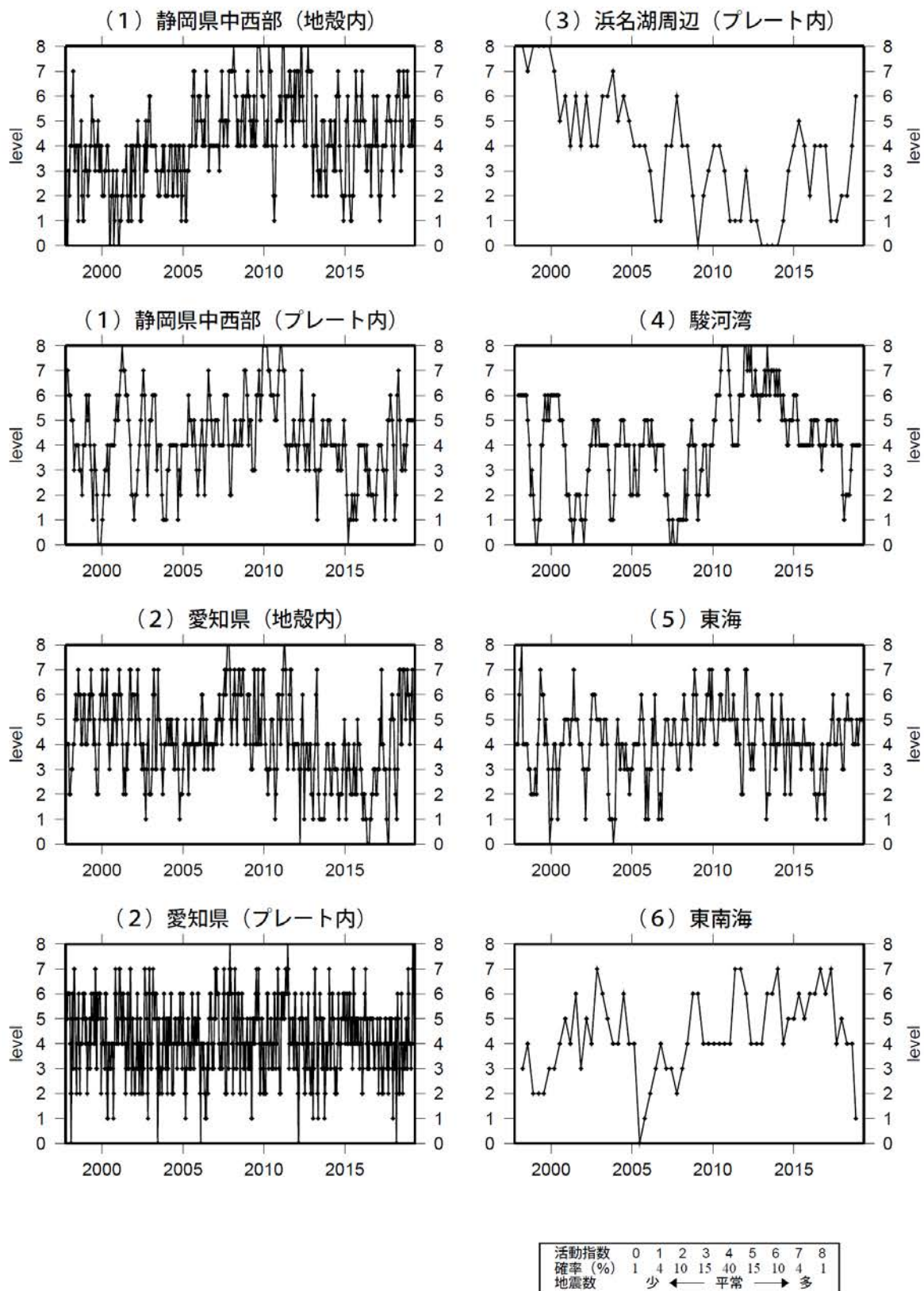
* 黒色実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

* Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

気象庁作成

地震活動指数一覧

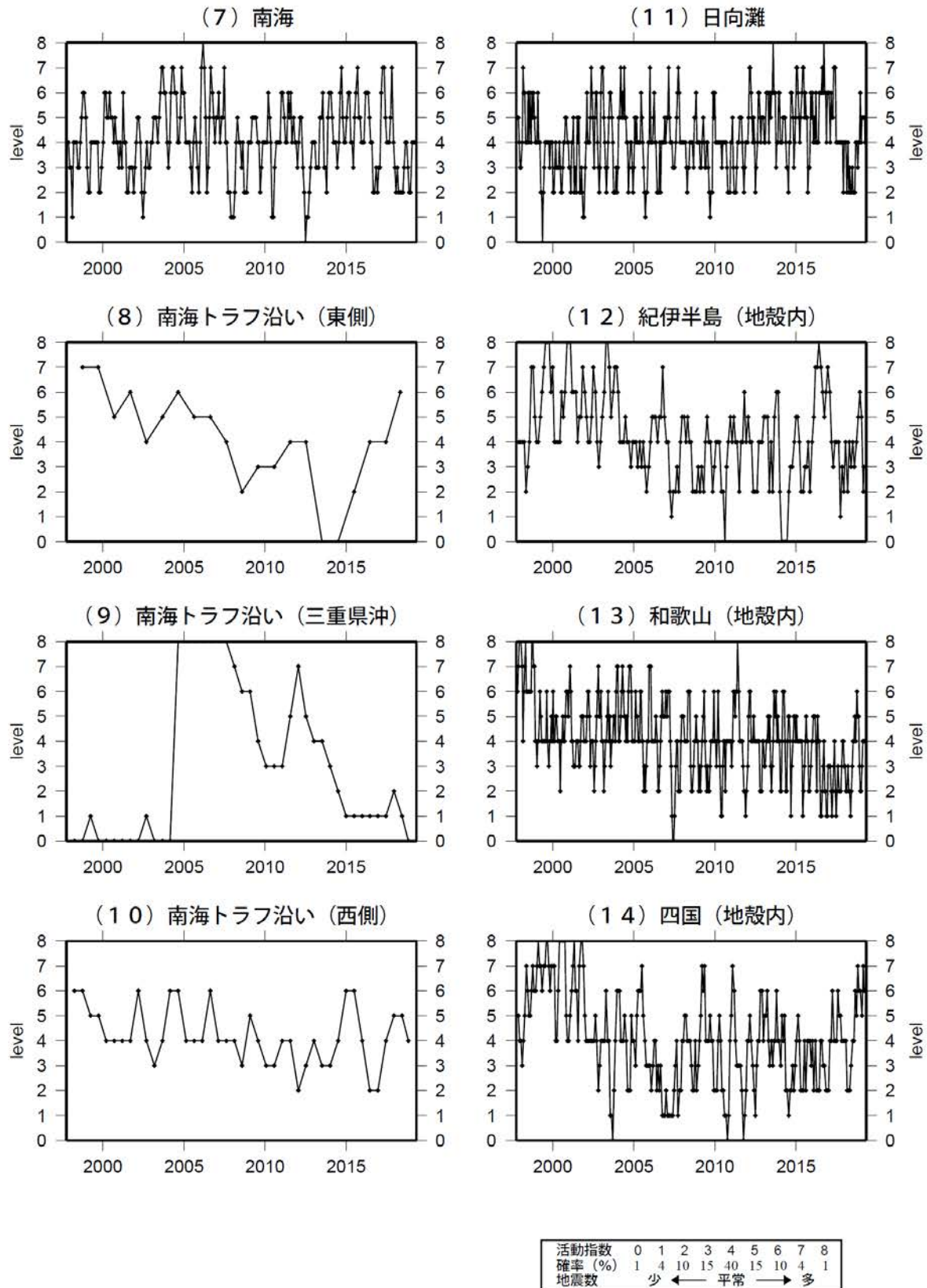
2019年04月30日



気象庁作成

地震活動指数一覧

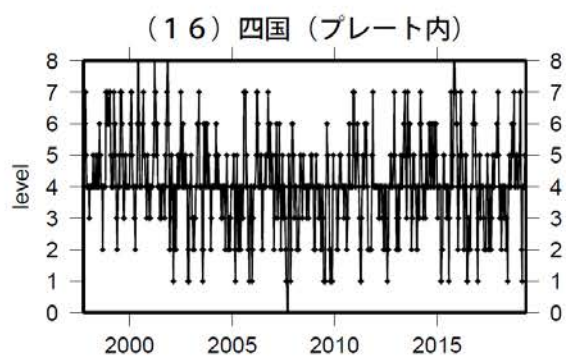
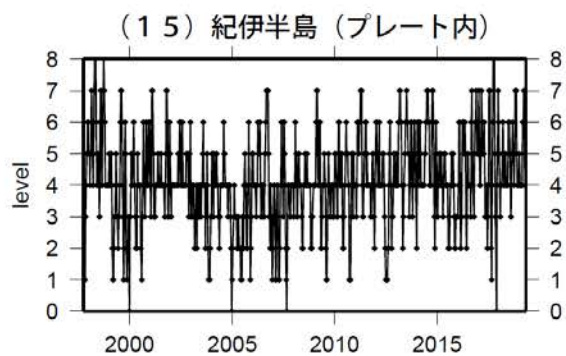
2019年04月30日



気象庁作成

地震活動指数一覧

2019年04月30日



活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少		←	平常	→				多

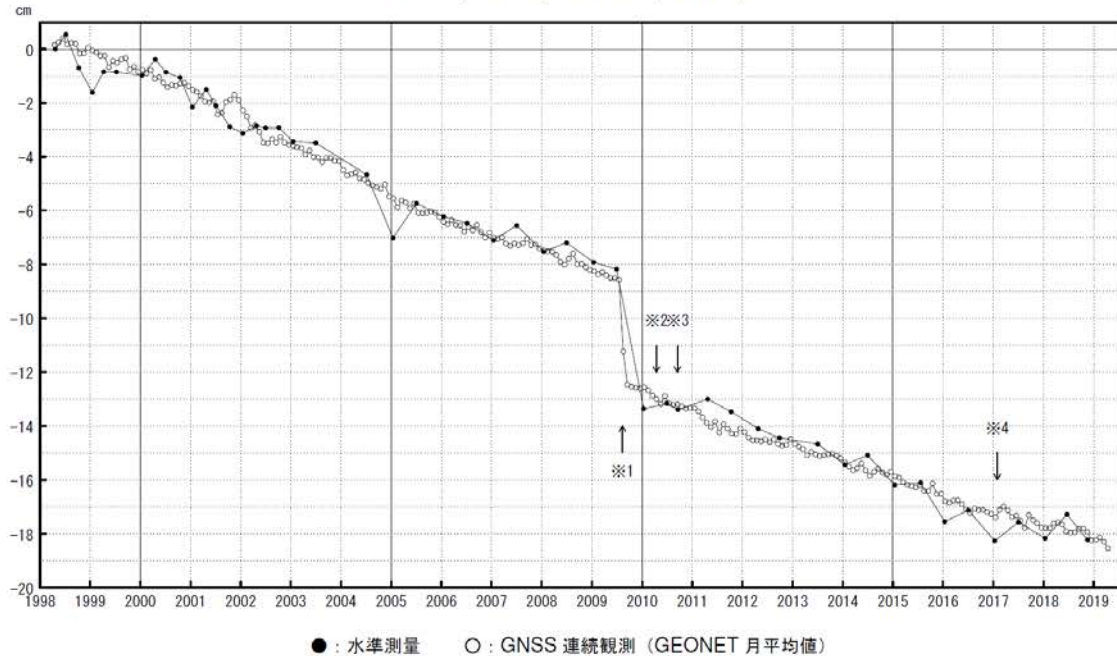
気象庁作成

御前崎 電子基準点の上下変動

水準測量と GNSS 連続観測

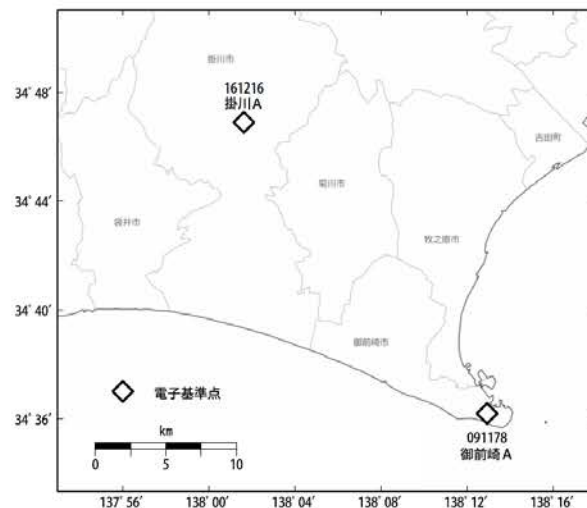
掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



・最新のプロット点は 04/01～04/20 の平均。

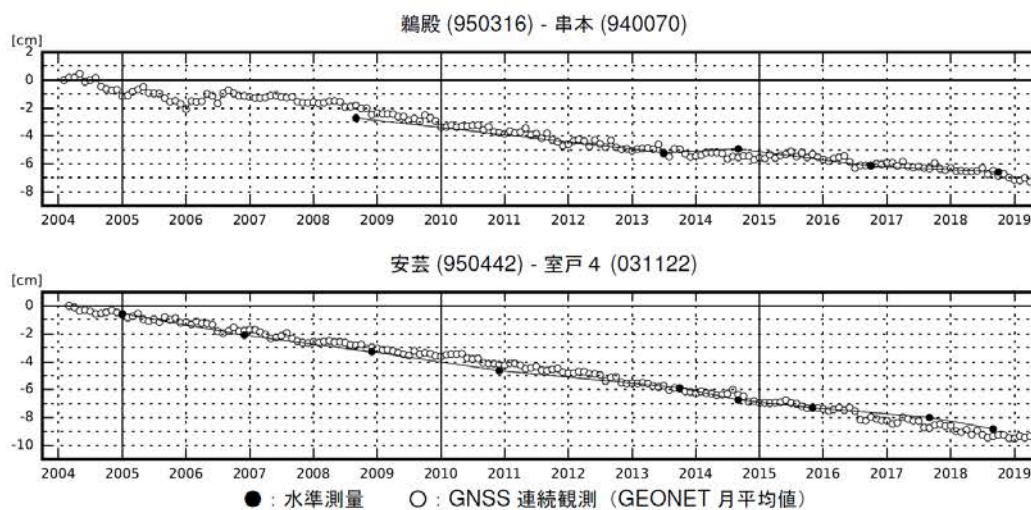
- ※1 電子基準点「御前崎」は 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震 (M6.5) に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。
- ※2 2010 年 4 月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎 A」とした。上記グラフは電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎 A」のデータを接続して表示している。
- ※3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる 2010 年 9 月から表示している。
- ※4 2017 年 1 月 30 日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川 A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川 A」のデータを接続して表示している。



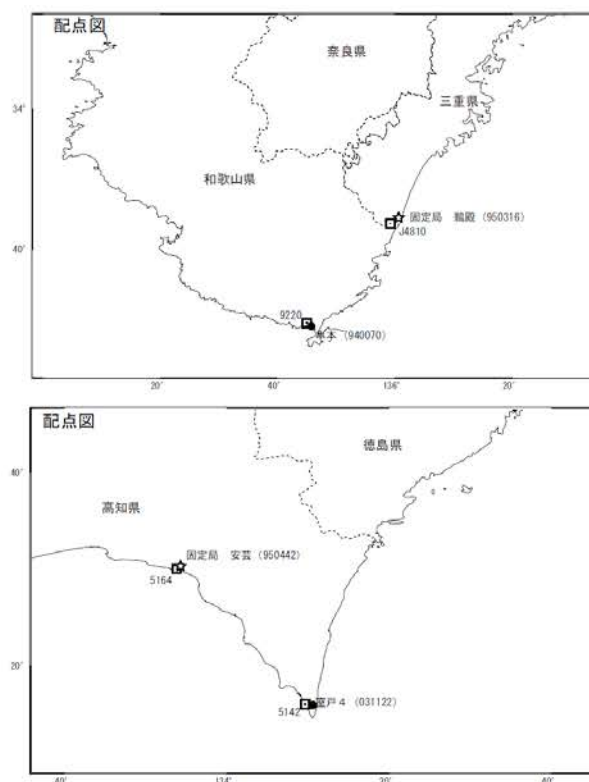
国土地理院

紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。



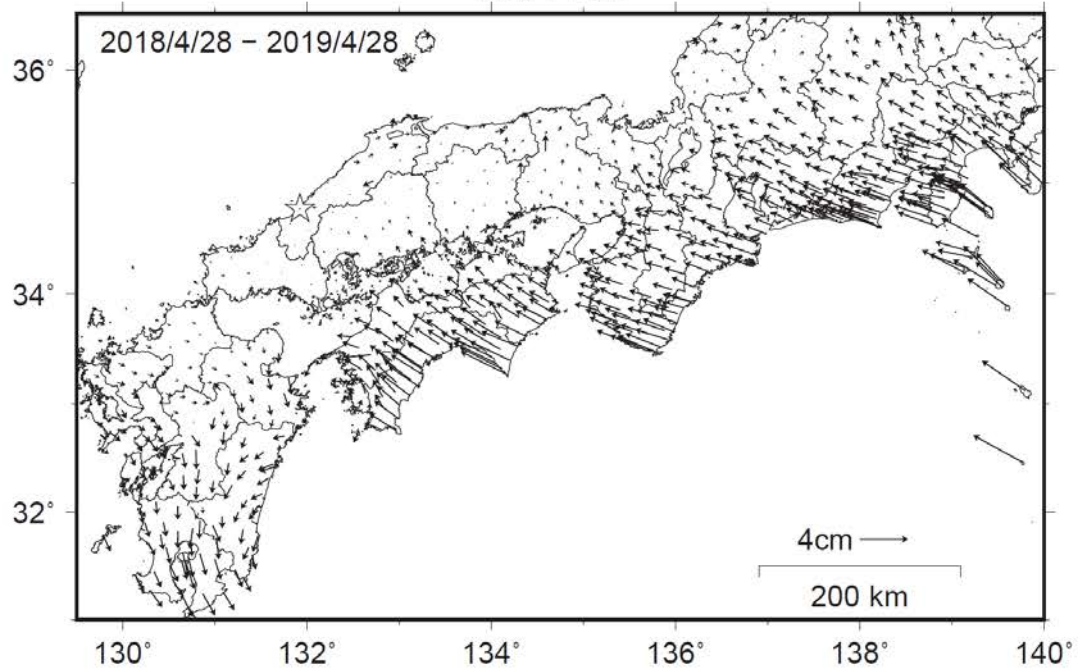
- ・ 最新のプロット点は 4/1～4/20 の平均。
- ・ 水準測量による結果については、最寄りの一等水準点の結果を表示している。



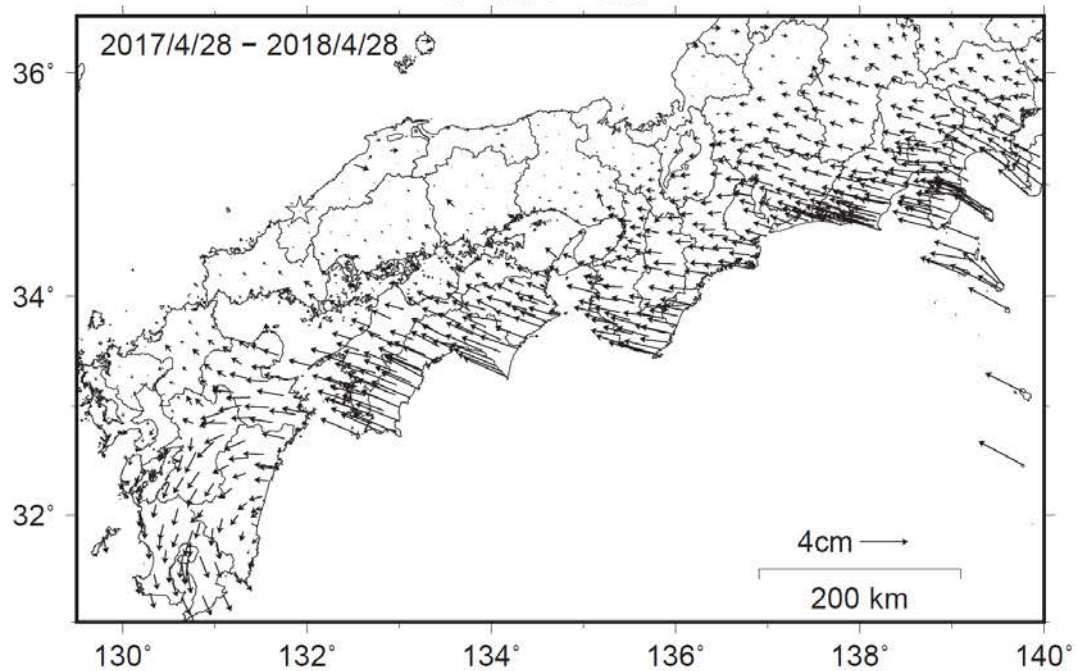
国土地理院

南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近 1 年間】



【1 年前の 1 年間】



国土地理院

●日本の主な火山活動

全国月間火山概況（平成 31 年 4 月）

警報・予報事項に変更のあった火山は以下の通りです。その他の火山では、警報・予報事項に変更はありません（令和元年 5 月 14 日 14 時現在）。

吾妻山では、火口から概ね 1.5 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなっていると判断したため、22 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。その後、火山活動の活発化が再び認められたことから、5 月 9 日（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

阿蘇山では、今後、小規模な噴火が発生するおそれがあると判断したため、14 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

草津白根山（本白根山）では、火口から概ね 1 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなっていると判断したため、5 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）では、えびの高原の硫黄山周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなっていると判断したため、18 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。

霧島山（新燃岳）では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断したため、5 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）へ引き下げました。

表 1 令和元年 5 月 14 日現在の火山現象に関する警報及び予報の発表状況

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	桜島、口永良部島
	レベル 2（火口周辺 規制）	吾妻山、草津白根山（白根山（湯釜付近））、阿蘇山、 諏訪之瀬島
	火口周辺危険	西之島、硫黄島※
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（活火山である ことに留意）	アトサヌプリ、雌阿寒岳、大雪山、十勝岳、樽前山、 倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山、岩木山、秋田 焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、鳥海山、蔵王山、安達太 良山、磐梯山、那須岳、日光白根山、草津白根山（本 白根山）、浅間山、新潟焼山、焼岳、乗鞍岳、御嶽山、 白山、箱根山、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島、 三宅島、八丈島、青ヶ島、鶴見岳・伽藍岳、九重山、 雲仙岳、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）、霧島山 （新燃岳）、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、 利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、恐山、 八甲田山、十和田、八幡平、栗駒山、鳴子、肘折、沼 沢、燧ヶ岳、高原山、男体山、赤城山、榛名山、草津 白根山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、利 島、新島、神津島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿 島、伊豆鳥島、婿婦岩、海形海山、海德海山、噴火浅 根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武 火山群、由布岳、福江火山群、霧島山、米丸・住吉池、 若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島 島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼 岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ 山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

※印を付した火山は火山現象に関する海上警報も発表

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

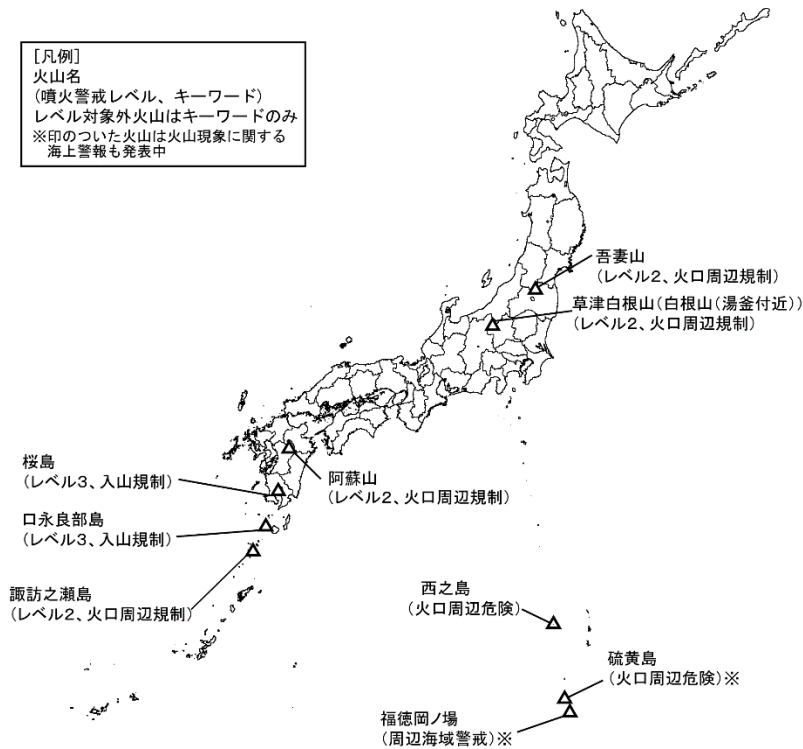


図1 火山現象に関する警報を発表中の火山

【各火山の活動状況及び警報・予報事項】（4月1日～5月10日）

全国の主な火山の活動状況及び警報・予報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、警報・予報事項に変更はありません。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕 ←22日に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ、5月9日（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げ

大穴火口周辺の隆起・膨張を示す地殻変動は、2018年12月上旬頃から次第に緩やかになり、4月は概ね停滞しました。また、火山性地震は2月以降減少傾向がみられ、火山性微動は2018年12月23日を最後に観測されていませんでした。これらのことから、大穴火口から概ね1.5kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったものと判断し、22日14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

その後、5月5日頃（期間外）から火山性地震が多い状態で経過し、9日17時30分頃からは大穴火口方向上がりの明瞭な傾斜変動がみられるなど、火山活動の活発化が再び認められることから、9日18時40分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げました。

吾妻山では、今後、小規模な噴火が発生する可能性があります。

大穴火口から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

草津白根山（白根山（湯釜付近））〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

湯釜付近浅部の火山性地震は、概ね少ない状態で経過しているものの、傾斜変動が続いているなど、火山活動は高まった状態が続いています。今後、小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

草津白根山（本白根山）[噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）] ←5 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）へ引下げ

本白根山では、2018 年 1 月の噴火以降、噴火は発生していません。また、2018 年 2 月下旬以降、噴気は観測されておらず、本白根山火口付近の地震は、2018 年 12 月以降は少ない状態で経過しています。

これらのことから、火口から概ね 1 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなっていると判断し、5 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。

ただし、2018 年 1 月のように突発的に噴火が発生したことを踏まえ、今後も火口付近では、突発的な噴出に注意する必要があります。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

西之島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

西之島では、噴火が確認されていた 2018 年 7 月中旬ごろに比べ、火山活動は明らかに低下しています。噴火の可能性は低くなっていますが、火口付近に噴気を確認されており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。火口から概ね 500m の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、これまでの噴火で流れ出た溶岩は、表面が冷え固まっていますが、地形的に崩れやすくなっている可能性が考えられますので、火口から概ね 500m を超える範囲でも注意してください。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

GNSS 連続観測によると、隆起を示す地殻変動がみられています。また、硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に警戒してください。

福徳岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されるなど、活動はやや活発な状態で経過しています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）] ←14 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）へ引上げ

阿蘇山では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が概ね多い状態で経過しているなか、14 日未明から火山性微動の振幅が大きくなったことから、14 日 14 時 30 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

16 日 18 時 28 分に中岳第一火口でごく小規模な噴火が発生し、19 日にもごく小規模な噴火が 3 回発生しました。5 月 3 日（期間外）にも噴火が発生し、噴煙は火口縁上 2,000m まで上がりました。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、4 月下旬以降、非常に多い状態で経過しています。また、GNSS 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、わずかな伸びの傾向が認められます。

このように火山活動が高まっていますので、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）[噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）] ←18 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）へ引下げ

硫黄山付近の火山性地震は 2019 年 2 月以降概ね少ない状態で経過しています。また、GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線で伸びの傾向が続いていましたが、2019 年 2 月頃からは停滞しています。噴気活動は活発な状態が続いていますが、2019 年 1 月以降はその規模のさらなる拡大は認められません。

これらのことから、えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲に大きな噴石が飛散する可能性は低くなったものと判断し、18 日 11 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1

（活火山であることに留意）に引き下げました。その後も、火山性地震の発生状況や噴気活動の状況に特段の変化はありません。

現在活発な噴気活動がみられている硫黄山の西側500mの噴気地帯から概ね100mの範囲、及び硫黄山火口内では、熱水・熱泥等が飛散する可能性がありますので注意してください。また、火山ガスにも注意が必要です。地元自治体等が行う立ち入り規制に従うとともに、火口周辺や噴気孔の近くには留まらないでください。

霧島山（新燃岳）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕 ← 5 日に噴火予報を発表し噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）へ引下げ

新燃岳では、火口直下を震源とする火山性地震が 2019 年 2 月 25 日から 28 日にかけて増加しましたが、3 月以降は概ね少ない状態で経過しました。また、噴煙の状況や傾斜計等の観測データに特段の変化はみられませんでした。これらのことから新燃岳では、5 日 11 時 00 分に噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げる噴火予報を発表しました。

活火山であることから、火口内及び西側斜面の割れ目付近では、火山灰の噴出や火山ガス等に注意してください。

なお、これまでの噴火により登山道等が危険な状態となっている可能性があるため、引き続き地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

南岳山頂火口では、引き続き噴火（爆発を含む）が発生しています。7 日 23 時 50 分の爆発では、噴煙は火口縁上 1,300m まで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は 4 合目（南岳山頂火口より 1,300m から 1,700m）まで達しました。13 日 11 時 20 分の爆発では、噴煙は火口縁上 2,200m まで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は 8 合目（南岳山頂火口より 500m から 700m）まで達しました。

桜島では、今後も南岳山頂火口を中心に、噴火活動が継続すると考えられます。

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

口永良部島では、2 月 3 日以降、噴火は観測されていません。

口永良部島では、2018 年 12 月以降やや規模の大きな噴火を繰り返しており、今後も火砕流を伴う噴火が発生する可能性があります。

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

諏訪之瀬島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

御岳^{みたけ}火口では、噴火は観測されませんでした。

諏訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返していることから、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

（火山の順は日本活火山総覧（第 4 版）による）

資料 1 全国の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況のまとめ（令和元年 5 月 14 日現在）

（1）主な活火山

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2016年 3 月23日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2008年 9 月29日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日噴火予報（平常） 2008年11月17日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009年 4 月10日噴火予報（レベル 1、平常） 2015年 7 月28日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2015年11月13日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意） 2018年11月23日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2018年12月21日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）
	大雪山	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2019年 3 月18日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）
	十勝岳	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2008年12月16日噴火予報（レベル 1、平常） 2014年12月16日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2015年 2 月24日噴火予報（レベル 1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（レベル 1、平常）
	倶多楽	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2015年10月 1 日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）
	有珠山	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2008年 6 月 9 日噴火予報（レベル 1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（レベル 1、平常）
	恵山	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2016年 3 月23日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）
東北地方	岩木山	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2016年 7 月26日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）
	秋田焼山	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2013年 7 月25日噴火予報（レベル 1、平常）
	八甲田山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常）
	十和田	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（レベル 1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2009年10月27日噴火予報（レベル 1、平常）
	鳥海山	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2018年 3 月27日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）
	栗駒山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2015年 4 月13日火口周辺警報（火口周辺危険） 2015年 6 月16日噴火予報（活火山であることに留意） 2016年 7 月26日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意） 2018年 1 月30日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2018年 3 月 6 日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

	火山名	特別警報、警報及び 予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
東北 地方	吾妻山	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2014年12月12日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2016年10月18日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意） 2018年9月15日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2019年4月22日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意） 2019年5月9日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	安達太良山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
関東・ 中部 地方	那須岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	日光白根山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2016年12月6日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	草津白根山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2018年11月27日噴火予報（活火山であることに留意）
	草津白根山（白根山（湯釜付近））	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2009年4月10日噴火予報（レベル1、平常）切替 2014年6月3日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2017年6月7日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意） 2018年4月22日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2018年9月21日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意） 2018年9月28日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2018年11月27日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	草津白根山（本白根山）	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2018年1月23日火口周辺警報（火口周辺危険） 2018年1月23日火口周辺警報（入山危険） 2018年3月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2018年11月27日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2019年4月5日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	浅間山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月1日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月3日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月7日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月15日噴火予報（レベル1、平常） 2015年6月11日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2018年8月30日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	新潟焼山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	弥陀ヶ原	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	焼岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2019年3月18日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	御嶽山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年3月31日噴火予報（レベル1、平常） 2014年9月27日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2014年9月28日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年1月19日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年3月31日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年6月26日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2017年8月21日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	白山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2015年9月2日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	富士山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

	火山名	特別警報、警報及び 予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
関東・中部地方	箱根山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常） 2015年5月6日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年6月30日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2015年9月11日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年11月20日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	新島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	三宅島	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年6月5日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	八丈島	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2018年5月30日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	青ヶ島	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2018年5月30日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	ベヨネース列岩	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2017年3月24日噴火警報（周辺海域警戒） 2018年10月31日噴火予報（活火山であることに留意）
	西之島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2013年11月20日火口周辺警報（火口周辺危険） 2014年6月3日火口周辺警報（入山危険） 2014年6月11日火口周辺警報（入山危険）切替 2015年2月24日火口周辺警報（入山危険）切替 2016年2月17日火口周辺警報（入山危険）切替 2016年8月17日火口周辺警報（火口周辺危険） 2017年2月14日噴火予報（活火山であることに留意） 2017年4月20日火口周辺警報（入山危険） 2018年6月20日火口周辺警報（火口周辺危険） 2018年7月13日火口周辺警報（入山危険） 2018年10月31日火口周辺警報（火口周辺危険）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険）
	福德岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月1日噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2016年7月26日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	九重山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	阿蘇山	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2011年5月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2011年6月20日噴火予報（レベル1、平常） 2013年9月25日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2013年10月11日噴火予報（レベル1、平常） 2013年12月27日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2014年3月12日噴火予報（レベル1、平常） 2014年8月30日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年9月14日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2015年11月24日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2016年10月8日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2016年12月20日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2017年2月7日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意） 2019年3月12日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2019年3月29日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意） 2019年4月14日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	雲仙岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

	火山名	特別警報、警報及び 予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・ 南西諸島	霧島山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2016年12月 6 日噴火予報（活火山であることに留意）
	霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（平常） 2014年10月24日火口周辺警報（火口周辺危険） 2015年 5 月 1 日噴火予報（平常） 2016年 2 月28日火口周辺警報（火口周辺危険） 2016年 3 月29日噴火予報（活火山であることに留意） 2016年12月 6 日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意） 2016年12月12日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2017年 1 月13日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意） 2017年 5 月 9 日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2017年10月31日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意） 2018年 2 月20日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2018年 4 月19日火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2018年 5 月 1 日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2019年 4 月18日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）
	霧島山（新燃岳）	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（レベル 1、平常） 2008年 8 月22日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2008年10月29日噴火予報（レベル 1、平常） 2010年 3 月30日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2010年 4 月16日噴火予報（レベル 1、平常） 2010年 5 月 6 日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2011年 1 月26日火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2011年 1 月31日火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2011年 2 月 1 日火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2011年 3 月22日火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2012年 6 月26日火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2013年10月22日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2017年 5 月26日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意） 2017年10月 5 日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2017年10月11日火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2017年10月15日火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2017年10月31日火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2018年 3 月 1 日火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2018年 3 月10日火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2018年 3 月15日火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2018年 6 月28日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2019年 1 月18日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意） 2019年 2 月25日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2019年 4 月 5 日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）	2007年12月 1 日噴火予報（レベル 1、平常） 2018年 2 月 9 日火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2018年 3 月15日噴火予報（レベル 1、活火山であることに留意）

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州 地方・ 南西諸島	桜島	火口周辺警報 (レベル3、入山規制)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年2月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年2月20日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年4月8日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年7月14日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年7月28日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年8月28日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月19日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年3月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月10日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 切替 2009年4月24日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年7月19日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2010年9月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年10月13日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2012年3月12日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 切替 2012年3月21日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 切替 2015年8月15日噴火警報(レベル4、避難準備) 2015年9月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2015年11月25日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2016年2月5日火口周辺警報(レベル3、入山規制)
	薩摩硫黄島	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年11月29日噴火予報(レベル1、平常) 2013年6月4日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年7月10日噴火予報(レベル1、平常) 2017年1月5日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2017年2月24日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意) 2018年3月19日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2018年4月27日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)
	口永良部島	火口周辺警報 (レベル3、入山規制)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年1月25日噴火予報(レベル1、平常) 2008年9月4日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年10月27日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月18日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年8月4日噴火予報(レベル1、平常) 2009年9月27日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年10月30日噴火予報(レベル1、平常) 2011年12月15日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年1月20日噴火予報(レベル1、平常) 2014年8月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2014年8月7日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 切替 2015年5月29日噴火警報(レベル5、避難) 2015年10月21日噴火警報(レベル5、避難) 切替 2016年6月14日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2018年4月18日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2018年8月15日噴火警報(レベル4、避難準備) 2018年8月29日火口周辺警報(レベル3、入山規制)
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)

注) 特別警報、警報及び予報の発表履歴欄には、2007 年 12 月 1 日の火山現象に関する警報・予報及び噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示しています。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示しています。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルを示しています。

（２）その他の活火山

以下の活火山（＊印を除く）では 2007 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。また、＊印の活火山では、活火山として選定された 2011 年 6 月 7 日に噴火予報（平常）を発表し、＊＊印の活火山では、活火山として選定された後の 2017 年 12 月 5 日に噴火予報（活火山であることに留意）を発表しました。その後、いずれも火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山＊、摩周、雄阿寒岳＊、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、男体山＊＊、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山

注）2015 年 5 月 18 日から（平常）は（活火山であることに留意）に変更しました。

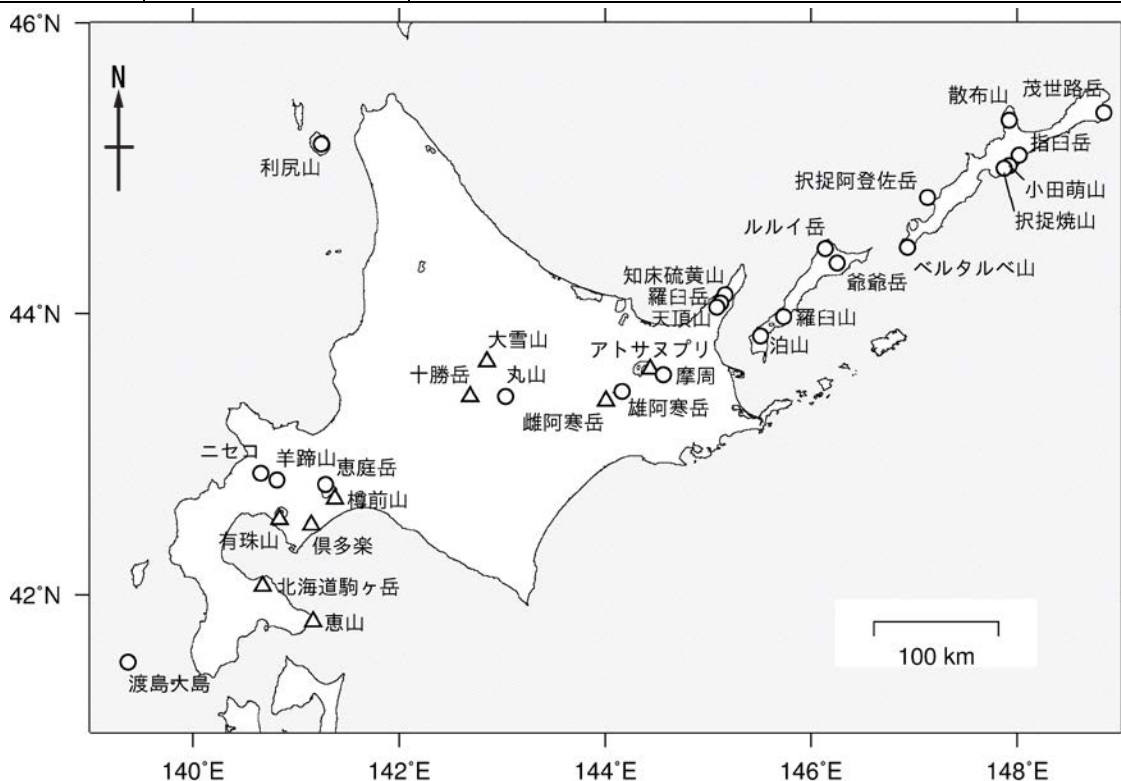
○北海道地方の火山活動

管内月間火山概況（平成31年 4 月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（4月30日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	アトサヌプリ、雌阿寒岳、大雪山、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山
	活火山であることに留意	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



凡 例

噴火警戒レベル対象火山 ▲：噴火警報発表中 △：噴火予報発表中
 噴火警戒レベル対象外の火山 ●：噴火警報発表中 ○：噴火予報発表中

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

この管内月間火山概況は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所、森町及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政区・海岸線）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

各火山の活動状況及び予報警報事項（4月1日～30日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

アトサヌプリ〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

雌阿寒岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

大雪山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

十勝岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

十勝岳では、2006 年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動は、2017 年秋以降停滞しています。一方、長期的にみると、噴煙高の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇、地震の一時的な増加など、火山活動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動の推移に注意が必要です。

樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

一方、山頂溶岩ドーム周辺では、1999年以降、高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

倶多楽〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

恵山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

○東北地方の火山活動

管内月間火山概況（平成 31 年 4 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（5 月 10 日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 2（火口周辺規制）	吾妻山
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	岩木山、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、鳥海山、蔵王山、安達太良山、磐梯山
	活火山であることに留意	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、栗駒山、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

各火山の活動状況及び予報警報事項（4 月 1 日～5 月 10 日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

吾妻山では、22 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げ、5 月 9 日（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

その他の予報警報事項に変更はありません。

岩木山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

八甲田山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

十和田〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

秋田焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

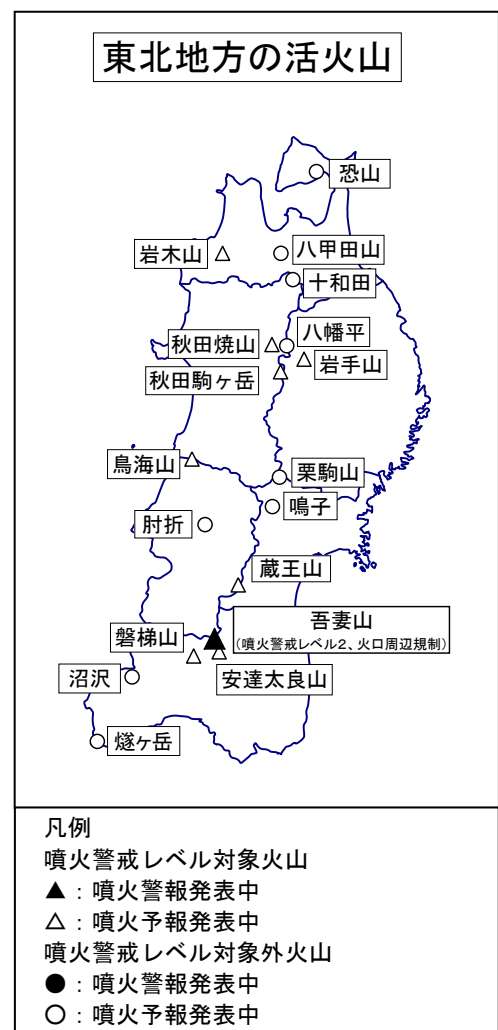
岩手山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

秋田駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はありませんでした。

おなめだけ
男女岳山頂付近では、2017 年 9 月以降、火山性地震がわずかに増加する傾向が認められています。また、女岳では地熱活動及び噴気活動が続いていることから、今後の火山活動の推移に注意してください。



鳥海山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

栗駒山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

蔵王山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はありませんでした。

蔵王山では、2013 年以降、時々、火山性地震や火山性微動が発生し、地殻変動がみられるなど、火山活動が高まることがありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕 ←22 日に噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引下げ、5 月 9 日（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引上げ

大穴火口周辺の隆起・膨張を示す地殻変動は、2018 年 12 月上旬頃から次第に緩やかになり、4 月は概ね停滞しました。また、火山性地震は 2 月以降減少傾向がみられ、火山性微動は 2018 年 12 月 23 日を最後に観測されていません。これらのことから、大穴火口から概ね 1.5km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったものと判断し、22 日 14 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。

その後、5 月 5 日頃（期間外）から火山性地震が多い状態で経過し、9 日 17 時 30 分頃からは大穴火口方向上がりの明瞭な傾斜変動がみられるなど、火山活動の活発化が再び認められることから、9 日 18 時 40 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）に引き上げました。

吾妻山では、今後、小規模な噴火が発生する可能性があります。

大穴火口から概ね 1.5km の範囲（図 1）では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

安達太良山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

磐梯山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報警報事項に変更はありません。

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

この管内月間火山概況は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学、弘前大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

○関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島の火山活動

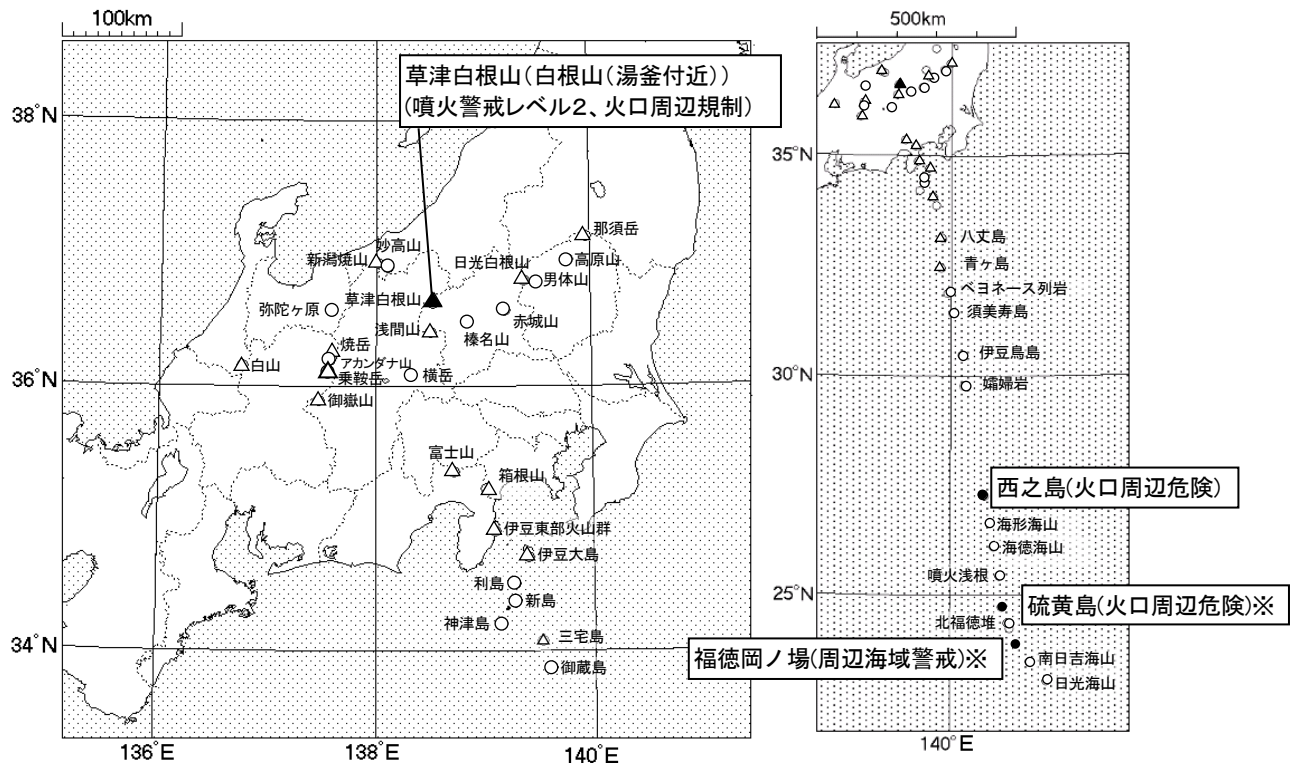
管内月間火山概況（平成 31 年 4 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（4 月 30 日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 2（火口周辺規制）	草津白根山（白根山（湯釜付近））
	火口周辺危険	西之島、硫黄島※
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福德岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	那須岳、日光白根山、草津白根山（本白根山）、浅間山、新潟焼山、焼岳、乗鞍岳、御嶽山、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、八丈島、青ヶ島
	活火山であることに留意	高原山、男体山、赤城山、榛名山、草津白根山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカダナ山、利島、新島、神津島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山

※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中です。



凡 例

噴火警戒レベル対象火山 ▲：噴火警報発表中 △：噴火予報発表中
 噴火警戒レベル対象外の火山 ●：噴火警報発表中 ○：噴火予報発表中

* 噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、関東地方整備局、中部地方整備局、国土地理院、海上保安庁、海上自衛隊、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都、新潟県、長野県、岐阜県、神奈川県温泉地学研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

各火山の活動状況及び予報警報事項（4月1日～30日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

草津白根山（本白根山）では4月5日に草津白根山の噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

那須岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

日光白根山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

草津白根山（白根山（湯釜付近））〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

湯釜付近浅部の火山性地震は、概ね少ない状態で経過しているものの、傾斜変動が続いているなど、火山活動は高まった状態が続いています。今後、小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

草津白根山（本白根山）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕 ←4月5日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）へ引下げ

本白根山では、2018年1月の噴火以降、噴火は発生していません。また、2018年2月下旬以降、噴気は観測されておらず、本白根山火口付近の地震は、2018年12月以降は少ない状態で経過しています。

これらのことから、火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなっていると判断し、4月5日11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

ただし、2018年1月のように突発的に噴火が発生したことを踏まえ、今後も火口付近では、突発的な噴出に注意する必要があります。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

浅間山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山性地震は概ねやや少ない状態で、浅間山の西側の膨張を示すと考えられる地殻変動もみられていません。また、山頂火口からの噴煙や火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も少ない状態となっています。火口から500mの範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火が発生する可能性はあるものの、それを上回る規模の噴火の可能性は低い状態です。火山灰噴出や火山ガス等に注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

新潟焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

噴煙活動及び地震活動は低下した状態が続いています。

しかしながら、新潟焼山はこれまでも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意してください。

弥陀ヶ原〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

立山地獄谷では熱活動が活発な状態が続いています。2012年6月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇が確認されていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

焼岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

噴気活動や山頂付近の地震活動は低調に経過しており、火山活動に高まりは認められません。

しかし、2017年8月上旬には、山頂付近の小さな低周波地震と黒谷火口からの弱い噴気が観測され、その後、弱い噴気は時々観測されており、また、山頂付近の地震計のみで観測される微小な地震活動は続いていることから、今後の火山活動の推移に注意して下さい。

乗鞍岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

御嶽山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

噴煙活動や山頂直下付近の地震活動は緩やかな低下が続いており、火山活動の静穏化の傾向が続いています。

ただし、2014 年に噴火が発生した火口列の一部の噴気孔では、引き続き噴気が勢いよく噴出しています。状況によっては、火山灰等のごく小規模な噴出が突発的に発生する可能性があります。

噴気活動の活発な噴気孔から概ね 500m の範囲では、突発的な火山灰等のごく小規模な噴出に注意が必要です。

地元自治体等が行う立入規制等に留意し、登山する際はヘルメットを持参するなどの安全対策をしてください。

白山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

富士山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

箱根山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

地震活動は低調で、顕著な地殻変動は観測されていません。一方、大涌谷周辺の想定火口域では、噴気活動が活発なところがあります。大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意してください。

伊豆東部火山群〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

伊豆大島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

地殻変動観測によると、短期的な膨張と収縮を繰り返しながら、長期的には地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が続いています。ただちに噴火が発生する兆候は認められませんが、長期的には山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動の推移に注意してください。

新島〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

神津島〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

三宅島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山ガス放出量は、2016 年 6 月以降は 1 日あたり数十トン以下に減少しており、少ない状態で経過しています。

主火口における噴煙活動が継続していることから、火口内では火山灰等が突発的に噴出する可能性がありますので、山頂火口内及び主火口から 500m 以内では火山灰噴出に警戒してください。

また、火山ガスの放出がわずかながら継続していることから、風下にあたる地域では火山ガスに注意してください。

八丈島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

青ヶ島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

西之島〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕

西之島では、噴火が確認されていた 2018 年 7 月中旬ころに比べ、火山活動は明らかに低下しています。噴火の可能性は低くなっていますが、火口付近に噴気が確認されており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。火口から概ね 500m の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、これまでの噴火で流れ出た溶岩は、表面が冷え固まっていますが、地形的に崩れやすくなっている可能性が考えられますので、火口から概ね 500m を超える範囲でも注意してください。

硫黄島〔火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報〕

GNSS 連続観測によると、隆起を示す地殻変動がみられています。また、硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に警戒してください。

福德岡ノ場〔噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報〕

海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されるなど、活動はやや活発な状態で経過しています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

○近畿・中国・四国地方の火山活動

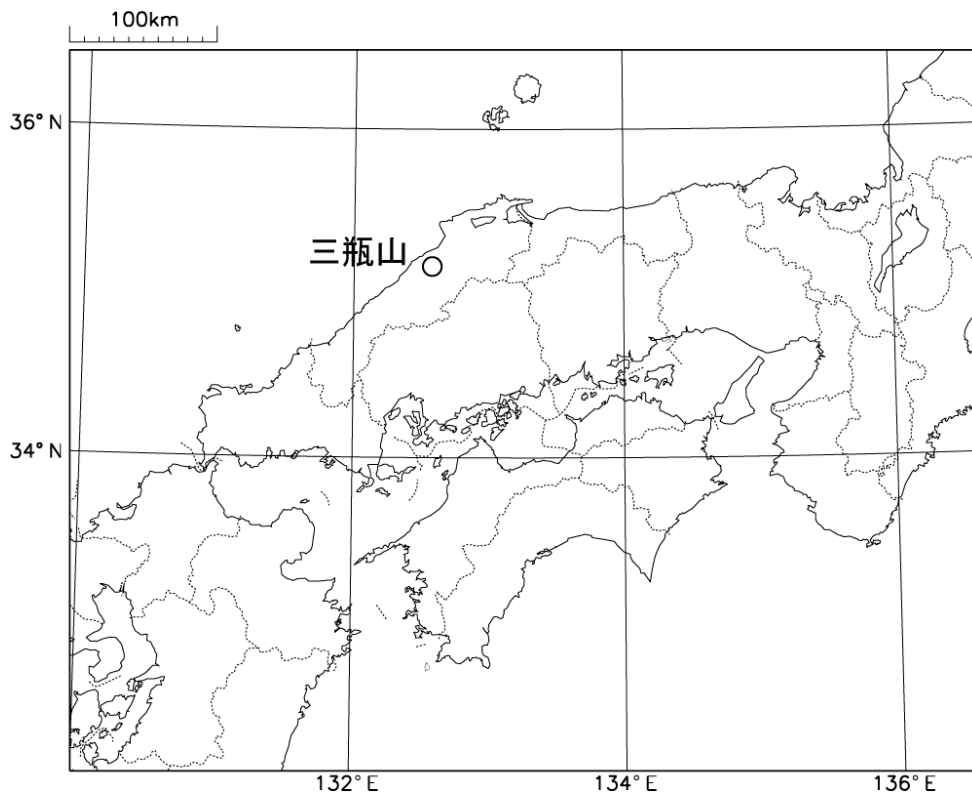
管内月間火山概況（平成 31 年 4 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター
大阪管区气象台地震火山課

噴火警報及び噴火予報の発表状況と活動状況（4 月 30 日現在）

三瓶山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。



この管内月間火山概況は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

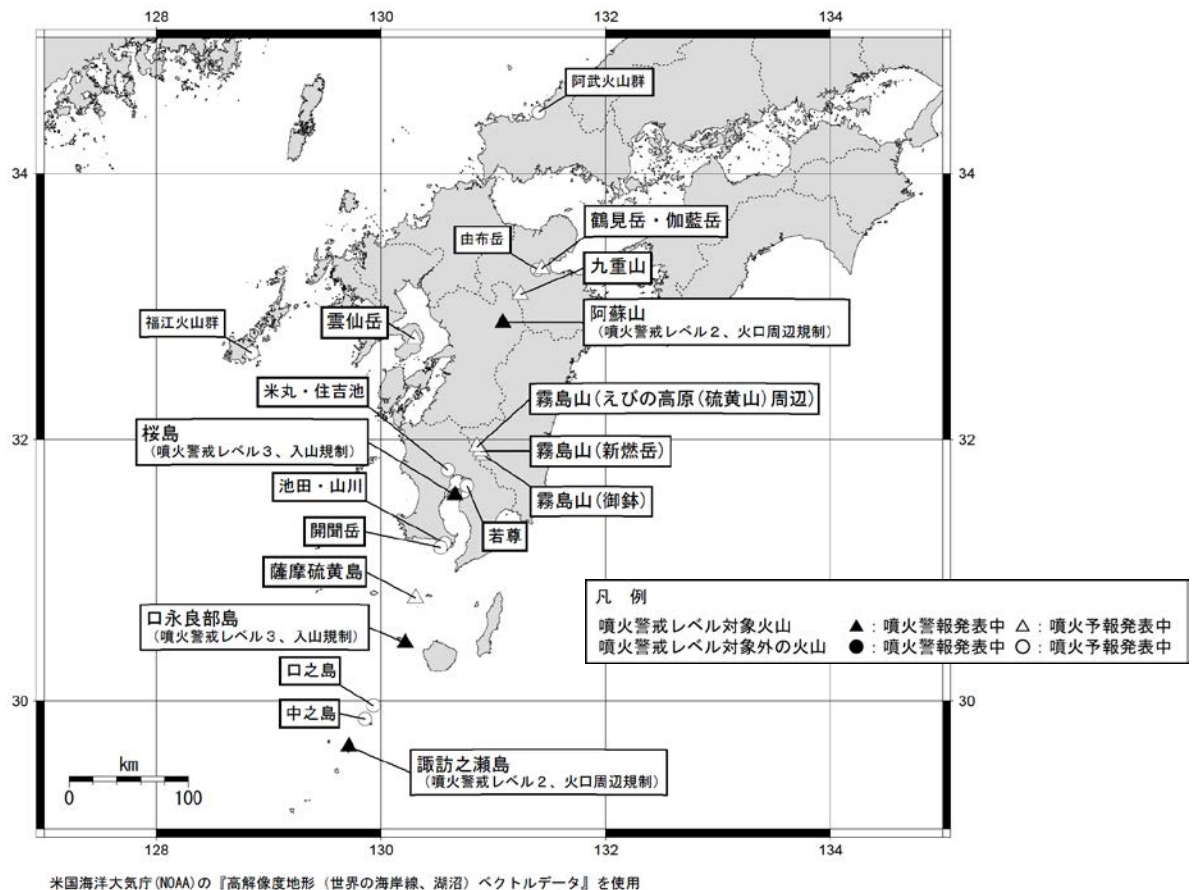
○九州地方の火山活動

管内月間火山概況（平成 31 年 4 月）

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（5月5日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島、口永良部島
	レベル2（火口周辺規制）	諏訪之瀬島、阿蘇山
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	鶴見岳・伽藍岳、九重山、雲仙岳、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	阿武火山群、由布岳、福江火山群、霧島山、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は福岡管区気象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、屋久島町、三島村、十島村及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

各火山の活動状況及び予報警報事項（4月1日～5月5日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

霧島山（新燃岳）では、5日に噴火予報を発表し噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）へ引き下げました。

阿蘇山では、14日に火口周辺警報を発表し噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）へ引き上げました。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）では、18日に噴火予報を発表し噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）へ引き下げました。

鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山性地震は少ない状態で経過しました。2014年以降、硫黄山付近の噴気孔群地下の温度上昇を示唆する全磁力の変化がみられており、2017年6月頃からはB型地震¹⁾が時折発生しています。これらのことから、わずかに火山活動が高まっている可能性があります。今後の火山活動に留意してください。

阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）] ←14日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）へ引き上げ

阿蘇山では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が概ね多い状態で経過しているなか、14日未明から火山性微動の振幅が大きくなったことから、14日14時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

16日18時28分に中岳第一火口でごく小規模な噴火が発生し、19日にもごく小規模な噴火が3回発生しました。5月3日（期間外）にも噴火が発生し、噴煙は火口縁上2,000mまで上がりました。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、4月下旬以降、非常に多い状態で経過しています。また、GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、わずかな伸びの傾向が認められます。

このように火山活動が高まっていますので、中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はありませんが、2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）] ←18日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）へ引き下げ

硫黄山付近の火山性地震は2019年2月以降概ね少ない状態で経過しています。また、GNSS連続観測では、硫黄山近傍の基線で伸びの傾向が続いていましたが、2019年2月頃からは停滞しています。噴気活動は活発な状態が続いていますが、2019年1月以降はその規模のさらなる拡大は認められません。

これらのことから、えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲に大きな噴石が飛散する可能性は低くなったものと判断し、18日11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。その後も、火山性地震の発生状況や噴気活動の状況に特段の変化はありません。

現在活発な噴気活動がみられている硫黄山の西側500mの噴気地帯から概ね100mの範囲、及び硫黄山火口内では、熱水・熱泥等が飛散する可能性がありますので注意してください。また、火山ガスにも注意が必要です。地元自治体等が行う立ち入り規制に従うとともに、火口周辺や噴気孔の近くには留まらないでください。

きりしまやま しんもえだけ
霧島山（新燃岳）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕 ←5 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）へ引下げ

新燃岳では、火口直下を震源とする火山性地震が 2019 年 2 月 25 日から 28 日にかけて増加しましたが、3 月以降は概ね少ない状態で経過しました。また、噴煙の状況や傾斜計等の観測データに特段の変化はみられませんでした。これらのことから新燃岳では、5 日 11 時 00 分に噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げる噴火予報を発表しました。

活火山であることから、火口内及び西側斜面の割れ目付近では、火山灰の噴出や火山ガス等に注意してください。

なお、これまでの噴火により登山道等が危険な状態となっている可能性があるため、引き続き地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

きりしまやま おはち
霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

さくらじま
桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

南岳山頂火口では、引き続き噴火（爆発を含む）が発生しています。7 日 23 時 50 分の爆発では、噴煙は火口縁上 1,300m まで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は 4 合目（南岳山頂火口より 1,300m から 1,700m）まで達しました。13 日 11 時 20 分の爆発では、噴煙は火口縁上 2,200m まで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石は 8 合目（南岳山頂火口より 500m から 700m）まで達しました。

桜島では、今後も南岳山頂火口を中心に、噴火活動が継続すると考えられます。

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

さつまいおうじま
薩摩 硫黄島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山性地震は少ない状態でした。火山性微動は観測されていません。

火山活動に特段の変化はありませんが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いていますので、火山灰等が噴出する可能性があります。火口付近では火山ガスに注意してください。なお、地元自治体を実施している立入規制等に留意してください。

くちのえらぶじま
口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

口永良部島では、2 月 3 日以降、噴火は観測されていません。

口永良部島では、2018 年 12 月以降やや規模の大きな噴火を繰り返しており、今後も火砕流を伴う噴火が発生する可能性があります。

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

すわのせじま
諏訪之瀬島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

御岳 火口では、噴火は観測されませんでした。

諏訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返していることから、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) 火山性地震のうち、P波、S波の相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震と考えられています。火道内の火山ガスの移動やマグマの発泡など火山性流体の動きで発生すると考えられています。B型地震の増加は、山体浅部の火山活動の活発化を意味していることから発生状況には注意が必要です。

○沖縄地方の火山活動

管内月間火山概況（平成 31 年 4 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター
沖縄気象台地震火山課

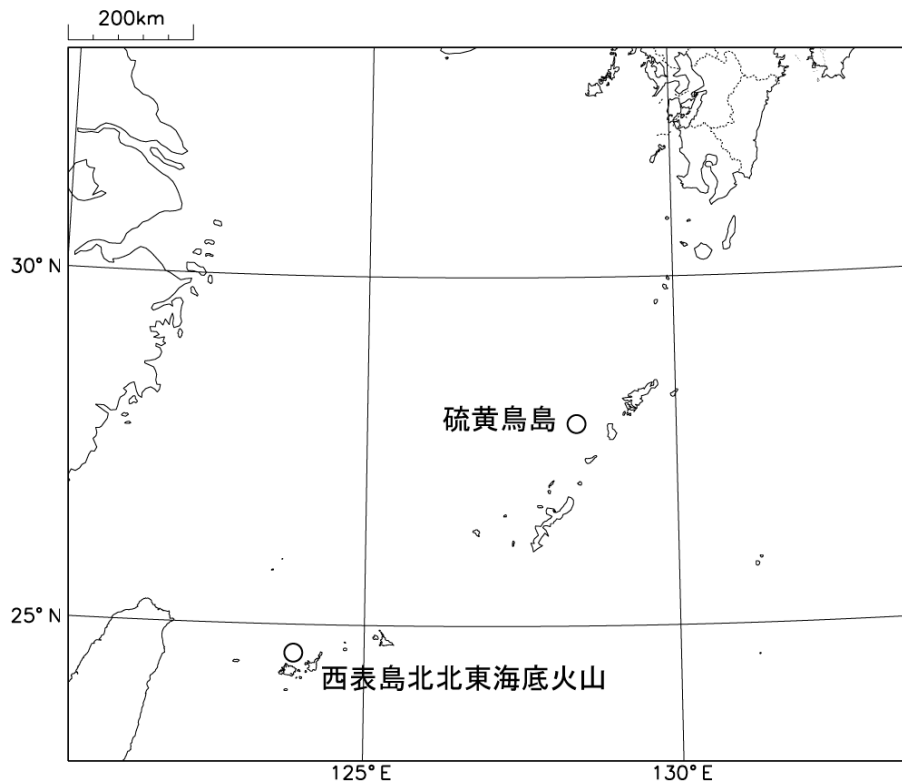
噴火警報及び噴火予報の発表状況と活動状況（4 月 30 日現在）

硫黄島島〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

西表島北北東海底火山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。



この管内月間火山概況は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

表 平成31年4月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報等の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報		概 要
		種類、号数等	発表日時	
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	解説情報 第26号～34号	1日、5日、8日、 12日、15日、19日、 22日、26日、29日 16時00分	噴火の状況。噴煙、火山性地震・微動等火山活動の状況。 現地調査による火山ガス等の状況。
		降灰予報（速報）	13日 11時41分	噴火発生から1時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。
		降灰予報（詳細）	13日 11時59分 22日 09時59分 22日 10時45分 22日 14時06分 22日 14時59分	噴火発生から6時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	解説情報 第42号～51号	1日、3日、5日、 8日、12日、15日、 19日、22日、26日、 29日 16時00分	噴煙、火山性地震等火山活動の状況。 現地調査による火山ガス等の状況。
草津白根山 (白根山(湯釜付近))	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第26号～34号	1日、5日、8日、 12日、15日、19日、 22日、26日、29日 16時00分	火山性地震、地殻変動等火山活動の状況。
阿蘇山	噴火予報(噴火警戒 レベル1、活火山で あることに留意)	解説情報 第44号	5日 16時15分	現地調査による火山ガス、湯だまり等火山活動の状況。
		解説情報（臨時） 第45号・46号	12日 15時35分 13日 16時00分	火山性地震・微動等火山活動の状況。 現地調査による火山ガス、湯だまり等の状況。
		火山活動解説資料	13日 17時40分	
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	火口周辺警報	14日 14時30分	火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性があると判断し、14日に火口周辺警報を発表して、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引上げ。 火山性地震・微動等火山活動の状況。 現地調査による火山ガス等の状況。
		解説情報 第47号～55号	14日、15日 16時00分 16日 18時55分 17日 16時00分 19日 16時50分 22日、24日、26日、 29日 16時00分	
		火山活動解説資料	14日 17時50分 16日 20時00分 19日 19時40分	
		噴火速報	16日 18時32分	16日18時28分頃、噴火が発生。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第14号～17号	5日、12日、19日、 26日 16時00分	噴火の状況。噴煙、火山性地震等火山活動の状況。

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

吾妻山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第 27 号～32 号	1 日、5 日、8 日、 12 日、15 日、19 日 16 時 00 分	地殻変動、火山性地震、火山性微動等火山 活動の状況。
	噴火予報(噴火警戒 レベル 1、活火山で あることに留意)	噴火予報	22 日 14 時 00 分	火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は 低くなったと判断し、22 日に噴火予報を 発表して、噴火警戒レベルを 1 (活火山で あることに留意) に引下げ。 火山性地震、地殻変動等火山活動の状況。 現地調査による地熱域等の状況。
		火山活動解説資料	22 日 14 時 00 分	
草津白根山 (本白根山)	噴火予報(噴火警戒 レベル 1、活火山で あることに留意)	噴火予報	5 日 11 時 00 分	火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は 低くなったと判断し、5 日に噴火予報を 発表して、噴火警戒レベルを 1 (活火山で あることに留意) に引下げ。 火山性地震等火山活動の状況。
		火山活動解説資料	5 日 11 時 00 分	
霧島山(えび の高原(硫黄 山)周辺)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第 26 号～30 号	1 日、5 日、8 日、 12 日、15 日 16 時 00 分	噴気、火山性地震等火山活動の状況。
	噴火予報(噴火警戒 レベル 1、活火山で あることに留意)	噴火予報	18 日 11 時 00 分	火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は 低くなったと判断し、18 日に噴火予報を 発表して、噴火警戒レベルを 1 (活火山で あることに留意) に引下げ。 噴気、火山性地震等火山活動の状況。
		火山活動解説資料	18 日 11 時 00 分	
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報 第 17 号	1 日 16 時 00 分	噴煙、火山性地震等火山活動の状況。
	噴火予報(噴火警戒 レベル 1、活火山で あることに留意)	噴火予報	5 日 11 時 00 分	火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認 められなくなったと判断し、5 日に噴火予 報を発表して、噴火警戒レベルを 1 (活火 山であることに留意) に引下げ。 火山性地震等火山活動の状況。
		火山活動解説資料	5 日 11 時 00 分	
		解説情報 第 18 号	22 日 16 時 00 分	21 日にやや増加した火山性地震の状況。

注) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。草津白根山(白根山(湯釜付近))、桜島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報(定時)を発表している。阿蘇山においては、14 日 17 時以降毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報(定時)を発表している。草津白根山(本白根山)、霧島山(新燃岳)においては 5 日 08 時まで、霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)においては 18 日 08 時まで、吾妻山においては 22 日 11 時まで、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報(定時)を発表した。

●世界の主な地震

平成31年（2019年）4月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

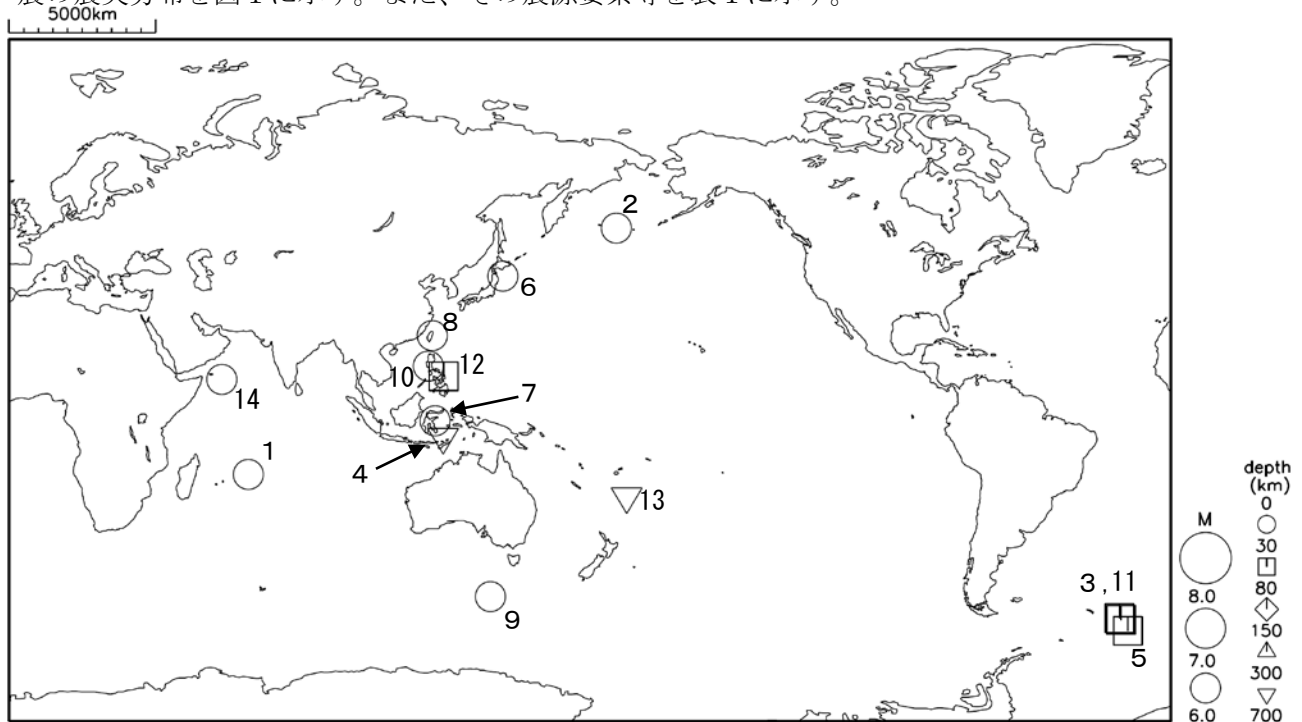


図1 平成31年（2019年）4月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

表1 平成31年（2019年）4月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	遠地
1	02日03時39分	S18° 12.3′	E 65° 21.9′	10			6.0	モーリシャス・レユニオン			
2	03日06時35分	N52° 10.0′	E178° 04.0′	8			6.4	アリューシャン列島ラット諸島			
3	06日01時14分	S55° 55.2′	W 27° 51.3′	59			6.4	サウスサンドウィッチ諸島			
4	07日06時55分	S 6° 50.9′	E125° 00.8′	539			6.3	バンダ海			
5	10日02時53分	S58° 36.3′	W 25° 15.3′	45			6.5	サウスサンドウィッチ諸島			
6	11日17時18分	N40° 25.1′	E143° 18.2′	12		6.2	(6.2)	三陸沖			
7	12日20時40分	S 1° 51.1′	E122° 33.1′	17			6.8	インドネシア、スラウェシ			
8	18日14時01分	N23° 59.3′	E121° 41.6′	20		6.5	(6.2)	台湾付近	負傷者17人など		
9	18日23時46分	S51° 03.3′	E139° 29.4′	10			6.5	インド-南極海嶺西部			
10	22日18時11分	N14° 55.4′	E120° 29.8′	20			6.1	フィリピン諸島、ルソン	死者18人、負傷者256人など		
11	22日23時49分	S56° 15.7′	W 27° 21.0′	79			6.0	サウスサンドウィッチ諸島			
12	23日14時37分	N11° 50.7′	E125° 11.2′	54			6.4	フィリピン諸島、サマル		○	
13	23日23時20分	S24° 42.3′	W178° 45.8′	386			6.0	フィジー諸島南方			
14	29日23時19分	N10° 52.9′	E 57° 14.3′	10			6.2	カールスバーグ海嶺			

- ・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの”Earthquake Archive Search & URL Builder” (<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による（2019年5月6日現在）。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mjの欄に記載したマグニチュード、Mwの欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
- ・被害状況は、出典のないものはOCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）、国内は、総務省消防庁による。
- ・地震発生時刻は日本時間〔日本時間＝協定世界時＋9時間〕である。
- ・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報（NWPTA）（※）を発表したことを表す。
- ※気象庁ホームページの「国際的な津波監視体制」（<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/nwpta.html>）参照。
- ・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。
- ・深さに「*」を付したものは、気象庁によるCMT解のセントロイドの深さを表す。
- ・4月18日の台湾の地震の被害状況は内政部消防署（台湾）による（2019年4月18日現在）。

● 世界の主な火山活動

平成 31 年（2019 年）4 月に顕著な被害を伴った噴火が報告された主な火山（日本を除く）*は以下のとおり。

今期間、顕著な被害を伴った噴火の報告はなかった。



図 平成 31 年（2019 年）4 月に顕著な被害を伴った噴火が発生した主な火山（日本を除く）*

* 米国スミソニアン自然史博物館のホームページ “Global Volcanism Program | Smithsonian / USGS Weekly Volcanic Activity Report” (http://www.volcano.si.edu/reports_weekly.cfm) による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。

●付録 1. 震度 1 以上を観測した地震の表

※ 震度データは、震度データベース検索 [気象庁ホームページ: <http://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php>] で確認できる。震源要素及び震度は再調査後、修正することがある。確定した震源要素は地震月報（カタログ編）[気象庁ホームページ: <http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/bulletin/index.html>] に掲載する。

※ 震度データは都道府県別に掲載し、各観測点の末尾に計測震度（平成 25 年 12 月 地震・火山月報（防災編）の付録 2 参照）を記す。なお、* のついてる地点は、地方公共団体もしくは国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点、（注）を付した地震については、近接した地域でほぼ同時刻に発生した地震であるため震度の分離ができないことを示す。震源の深さの後に「F」を付した地震は、その深さに仮定して震源決定していることを示す。また、本文中で震源の深さに CMT 解による深さを採用している場合があり、本表の震源決定による深さと異なる場合がある。震度 3 以上を観測した地震については、震源要素を**太字**で表示する。

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
1	1 06 56	和歌山県北部 和歌山県 1 紀の川市粉河=0.8	34° 15.5' N	135° 25.5' E	7km	M: 2.1
2	1 18 15	熊本県天草・芦北地方 熊本県 1 水俣市陣内*=0.9	32° 10.1' N	130° 24.0' E	8km	M: 2.5
3	1 21 17	宮城県沖 宮城県 2 気仙沼市唐桑町*=1.8 気仙沼市笹が陣*=1.7 1 気仙沼市赤岩=1.4 石巻市北上町*=1.3 石巻市桃生町*=1.2 南三陸町歌津*=0.8 南三陸町志津川=0.7 岩手県 1 大船渡市大船渡町=1.4 釜石市只越町=1.2 一関市千厩町*=1.2 陸前高田市高田町*=1.1 住田町世田米*=1.1 一関市室根町*=1.0 釜石市中妻町*=1.0 一関市大東町=0.9 大船渡市猪川町=0.7 一関市藤沢町*=0.5	38° 37.1' N	141° 53.5' E	48km	M: 3.9
4	2 08 56	高知県中部 高知県 1 土佐町土居*=1.4 本山町本山*=1.1 大川村小松*=0.7	33° 47.0' N	133° 31.9' E	5km	M: 2.6
5	2 11 31	茨城県南部 茨城県 1 城里町小勝*=0.6 水戸市内原町*=0.5 石岡市柿岡=0.5 筑西市門井*=0.5 栃木県 1 佐野市高砂町*=1.3 鹿沼市晃望台*=1.0 小山市神鳥谷*=1.0 野木町丸林*=1.0 宇都宮市明保野町=0.9 下野市笹原*=0.8 佐野市葛生東*=0.7 佐野市中町*=0.6 宇都宮市中里町*=0.5 栃木市西方町本城*=0.5	36° 06.7' N	139° 59.1' E	68km	M: 3.4
6	2 19 08	福島県沖 福島県 1 白河市新白河*=0.8 田村市船引町=0.8 いわき市平四ツ波*=0.6 川内村下川内=0.5	37° 13.3' N	141° 21.2' E	54km	M: 3.7
7	3 02 25	福島県中通り 福島県 1 矢祭町戸塚*=0.5	36° 55.0' N	140° 32.0' E	9km	M: 2.6
8	3 05 29	浦河沖 北海道 2 札幌東区元町*=1.5 1 函館市川汲町*=1.4 千歳市若草*=1.2 函館市新浜町*=1.2 江別市緑町*=1.2 安平町追分柏が丘*=1.2 南幌町栄町*=1.1 函館市泊町*=1.1 新ひだか町静内山手町=1.1 厚真町鹿沼=1.0 恵庭市京町*=1.0 登別市桜木町*=1.0 新ひだか町三石旭町*=1.0 安平町早来北進*=0.9 札幌厚別区もみじ台*=0.9 浦河町潮見=0.9 新ひだか町静内御幸町*=0.8 登別市鉾山=0.8 苫小牧市旭町*=0.8 浦河町築地*=0.8 千歳市北栄=0.7 胆振伊達市梅本=0.7 胆振伊達市大滝区本町*=0.7 江別市高砂町=0.7 札幌北区太平*=0.7 白老町大町=0.6 函館市尾札部町=0.6 浦河町野深=0.6 鹿部町宮浜*=0.6 千歳市支笏湖温泉*=0.6 北広島市共栄*=0.6 新千歳空港=0.5 苫小牧市末広町=0.5 青森県 1 東通村砂子又沢内*=0.8	41° 58.4' N	142° 32.1' E	62km	M: 4.3
9	3 08 53	岐阜県美濃中西部 岐阜県 1 岐阜市京町*=1.1 各務原市川島河田町*=0.7 岐南町八剣*=0.6	35° 24.2' N	136° 45.3' E	9km	M: 2.3
10	3 09 44	胆振地方中東部 北海道 2 厚真町鹿沼=2.1 千歳市支笏湖温泉*=2.0 三笠市幸町*=1.9 安平町追分柏が丘*=1.9 千歳市北栄=1.8 むかわ町穂別*=1.8 恵庭市京町*=1.7 南幌町栄町*=1.6 千歳市若草*=1.6 安平町早来北進*=1.5 1 札幌白石区北郷*=1.4 新千歳空港=1.4 由仁町新光*=1.3 平取町振内*=1.3 長沼町中央*=1.1 厚真町京町*=1.0 月形町円山公園*=1.0 石狩市聚富=0.8 江別市高砂町=0.8 札幌北区新琴似*=0.8 登別市桜木町*=0.8 岩見沢市栗沢町東本町*=0.8 美唄市西 3 条*=0.8 栗山町松風*=0.7 美唄市西 5 条=0.7 札幌北区篠路*=0.7 余市町浜中町*=0.7 札幌北区太平*=0.7 北広島市共栄*=0.6 江別市緑町*=0.6 札幌東区元町*=0.6 恵庭市漁平=0.6	42° 45.1' N	141° 58.9' E	37km	M: 4.0
11	3 15 56	福島県沖 福島県 1 白河市新白河*=1.0	37° 12.2' N	141° 44.5' E	69km	M: 3.8
12	4 08 26	宮城県沖 岩手県 1 一関市東山町*=0.8 一関市室根町*=0.6 一関市花泉町*=0.5 宮城県 1 石巻市桃生町*=1.0 石巻市大街道南*=0.8 登米市東和町*=0.7 大衡村大衡*=0.7 石巻市泉町=0.6	38° 19.9' N	141° 38.1' E	53km	M: 3.6

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
13	4 08 57	千葉県北東部 千葉県	35° 44.0' N	140° 37.5' E	52km	M: 2.8 1 多古町多古=0.6
14	4 12 04	十勝沖 北海道	42° 28.4' N	143° 33.3' E	71km	M: 4.0 2 十勝大樹町生花*=1.9 広尾町並木通=1.7 1 十勝池田町西1条*=1.3 本別町向陽町*=1.3 広尾町白樺通=1.3 本別町北2丁目=1.2 別海町西春別*=1.1 浦幌町桜町*=1.0 幕別町忠類錦町*=1.0 弟子屈町弟子屈*=1.0 足寄町南1条*=1.0 豊頃町茂岩本町*=0.9 幕別町本町*=0.8 えりも町目黒*=0.8 釧路市幸町=0.8 釧路市阿寒町中央*=0.8 白糠町西1条*=0.8 十勝大樹町東本通*=0.8 中札内村東2条*=0.7 釧路市音別町尺別=0.6 中標津町養老牛=0.6 浜中町茶内*=0.6 鶴居村鶴居東*=0.5 幕別町忠類明和=0.5
15	5 07 52	薩摩半島西方沖 鹿児島県	31° 36.8' N	130° 14.6' E	10km	M: 2.8 1 いちき串木野市緑町*=0.6
16	5 13 06	岩手県沿岸南部 岩手県 宮城県	39° 12.6' N	141° 29.1' E	78km	M: 3.5 1 住田町世田米*=1.3 一関市千蔵町*=1.0 北上市相去町*=0.6 一関市室根町*=0.6 遠野市宮守町*=0.6 一関市東山町*=0.5 1 石巻市桃生町*=0.7 気仙沼市赤岩=0.6 南三陸町志津川=0.5
17	5 17 23	千葉県南東沖 千葉県 東京都 神奈川県 静岡県	34° 41.0' N	140° 06.9' E	63km	M: 4.4 3 南房総市白浜町白浜*=2.6 2 南房総市谷向*=2.3 南房総市岩糸*=2.2 鴨川市八色=2.1 館山市長須賀=2.1 館山市北条*=2.1 南房総市千倉町瀬戸*=2.1 鴨川市横渚*=2.0 南房総市上堀=1.8 1 勝浦市墨名=1.3 君津市久留里市場*=1.3 南房総市富浦町青木*=1.3 鋸南町下佐久間*=1.2 いすみ市国府台*=1.2 市原市姉崎*=1.2 南房総市和田町*=1.0 勝浦市新官*=0.9 富津市下飯野*=0.8 1 伊豆大島町波浮港*=1.0 1 横須賀市光の丘=0.7 三浦市城山町*=0.5 1 東伊豆町奈良本*=0.8
18	5 18 56	鳥島近海 栃木県 宮城県 福島県 茨城県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県	30° 23.8' N	139° 00.5' E	414km	M: 5.9 2 宇都宮市明保野町=1.5 高根沢町石末*=1.5 1 栃木市岩舟町静*=1.3 鹿沼市晃望台*=1.2 真岡市石島*=1.1 大田原市湯津上*=1.1 鹿沼市口栗野*=1.0 下野市笹原*=1.0 益子町益子=0.9 下野市田中*=0.9 宇都宮市中里町*=0.8 佐野市高砂町*=0.7 日光市芹沼*=0.7 佐野市中町*=0.5 日光市足尾町中才*=0.5 那須烏山市中央=0.5 栃木市旭町=0.5 1 岩沼市桜*=1.1 大崎市田尻*=1.0 丸森町鳥屋*=0.9 大河原町新南*=0.8 角田市角田*=0.7 石巻市桃生町*=0.6 松島町高城=0.6 1 双葉町両竹*=1.4 浪江町幾世橋=1.2 玉川村小高*=1.1 白河市東*=1.0 古殿町松川新桑原*=1.0 田村市大越町*=1.0 田村市滝根町*=0.9 いわき市錦町*=0.9 郡山市湖南町*=0.9 須賀川市八幡山*=0.9 いわき市三和町=0.8 南相馬市原町区三島町=0.8 福島市松木町=0.8 福島広野町下北迫大谷地原*=0.6 白河市新白河*=0.6 田村市都路町*=0.6 福島市桜木町*=0.6 浅川町浅川*=0.6 郡山市朝日=0.5 棚倉町棚倉中居野=0.5 いわき市小名浜=0.5 1 笠間市石井*=1.2 日立市助川小学校*=1.0 日立市十王町友部*=1.0 笠間市中央*=1.0 石岡市柿岡=1.0 筑西市舟生=1.0 桜川市岩瀬*=0.9 水戸市内原町*=0.8 坂東市岩井=0.8 笠間市笠間*=0.7 城里町小勝*=0.7 土浦市常名=0.6 筑西市門井*=0.6 水戸市金町=0.5 つくば市天王台*=0.5 1 桐生市黒保根町*=0.9 渋川市赤城町*=0.9 邑楽町中野*=0.9 片品村東小川=0.8 板倉町板倉=0.7 沼田市西倉内町=0.7 沼田市白沢町*=0.7 渋川市吹屋*=0.7 桐生市元宿町*=0.6 館林市美園町*=0.5 館林市城町*=0.5 安中市安中*=0.5 1 加須市大利根*=1.2 宮代町笠原*=1.0 さいたま大宮区天沼町*=1.0 鴻巣市吹上富士見*=0.9 久喜市青葉*=0.9 春日部市粕壁*=0.9 春日部市谷原新田*=0.9 熊谷市大里*=0.9 幸手市東*=0.8 戸田市上戸田*=0.7 川島町下八ツ林*=0.7 さいたま北区宮原*=0.7 さいたま緑区中尾*=0.7 加須市騎西*=0.7 鴻巣市中央*=0.7 久喜市下早見=0.7 吉見町下細谷*=0.7 草加市中央*=0.7 春日部市金崎*=0.6 さいたま南区別所*=0.6 白岡市千駄野*=0.6 狭山市入間川*=0.5 越谷市越ヶ谷*=0.5 熊谷市妻沼*=0.5 行田市南河原*=0.5 本庄市児玉町=0.5 さいたま見沼区堀崎*=0.5 久喜市栗橋*=0.5 1 千葉中央区都町*=1.2 鴨川市八色=1.1 鴨川市横渚*=1.1 市原市姉崎*=1.0 館山市長須賀=1.0 南房総市上堀=0.9 君津市久留里市場*=0.8 千葉中央区中央港=0.7 千葉美浜区ひび野=0.7 山武市蓮沼ニ*=0.6 勝浦市墨名=0.6 東金市日吉台*=0.6 多古町多古=0.6 一宮町一宮=0.6 1 東京千代田区大手町=1.1 東京北区神谷*=1.0 小笠原村母島=1.0 東京中央区勝どき*=0.7 東京練馬区東大泉*=0.7 国分寺市本多*=0.7 東京港区海岸=0.6 東京港区白金*=0.6 東京渋谷区宇田川町*=0.6 東京北区西ヶ原*=0.6 東京江東区越中島*=0.5 東京品川区平塚*=0.5 東京足立区神明南*=0.5 東京江戸川区船堀*=0.5 調布市西つつじヶ丘*=0.5 西東京市中町*=0.5 小笠原村父島三日月山=0.5 1 横浜中区山手町=1.2 1 南魚沼市六日町=0.5
19	6 19 30	福島県沖 福島県	36° 52.2' N	140° 49.9' E	18km	M: 3.7 2 いわき市小名浜=1.6 いわき市平梅本*=1.5 1 いわき市平四ツ波*=1.4 浅川町浅川*=1.0 いわき市錦町*=0.7 小野町中通*=0.6 白河市新白河*=0.5

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度（計 測 震 度）	緯度	経度	深さ	規模
20	7 10 02	茨城県 2 北茨城市磯原町*=1.5 1 高萩市安良川*=1.4 北茨城市中郷町*=1.3 高萩市本町*=1.2 笠間市石井*=1.1 東海村東海*=1.1 小美玉市堅倉*=1.1 石岡市柿岡=1.1 水戸市栗崎町*=1.0 日立市十王町友部*=1.0 日立市助川小学校*=0.9 城里町小勝*=0.9 水戸市内原町*=0.9 土浦市常名=0.9 ひたちなか市南神敷台*=0.9 かすみがうら市上土田*=0.9 ひたちなか市東石川*=0.8 常陸大宮市上小瀬*=0.8 石岡市若宮*=0.8 筑西市門井*=0.8 小美玉市上玉里*=0.8 笠間市笠間*=0.7 小美玉市小川*=0.7 日立市役所*=0.7 笠間市中央*=0.7 笠間市下郷*=0.6 水戸市金町=0.6 かすみがうら市大和田*=0.6 桜川市岩瀬*=0.6 桜川市真壁*=0.6 桜川市羽田*=0.6 鉾田市汲上*=0.6 つくば市天王台*=0.5 土浦市藤沢*=0.5				
		栃木県 1 宇都宮市明保野町=0.6				
21	8 03 00	宮城県沖 岩手県 2 一関市室根町*=2.3 大船渡市大船渡町=2.2 一関市千厩町*=2.2 住田町世田米*=2.0 一関市東山町*=1.8 一関市花泉町*=1.6 一関市大東町=1.6 大船渡市猪川町=1.5 1 一関市藤沢町*=1.4 陸前高田市高田町*=1.3 奥州市衣川*=1.3 平泉町平泉*=1.1 遠野市宮守町*=1.0 大船渡市盛町*=1.0 釜石市中妻町*=1.0 奥州市前沢*=1.0 北上市相去町*=1.0 一関市川崎町*=0.9 一関市竹山町*=0.8 奥州市胆沢*=0.8 遠野市青笹町*=0.8 奥州市江刺*=0.8 釜石市只越町=0.7 宮古市区界*=0.7 花巻市大迫町=0.6 北上市柳原町=0.6 金ヶ崎町西根*=0.6 盛岡市薮川*=0.6 宮古市田老*=0.5 山田町八幡町=0.5 花巻市石鳥谷町*=0.5	38° 11.2' N	141° 47.4' E	64km	M: 4.2
		宮城県 2 登米市東和町*=2.3 涌谷町新町裏=2.0 石巻市桃生町*=2.0 石巻市大街道南*=1.9 気仙沼市笹が陣*=1.9 石巻市泉町=1.8 栗原市栗駒=1.8 石巻市北上町*=1.8 大崎市田尻*=1.7 名取市増田*=1.7 東松島市小野*=1.7 登米市豊里町*=1.6 大崎市鹿島台*=1.6 岩沼市桜*=1.6 松島町高城=1.6 栗原市若柳*=1.5 登米市南方町*=1.5 南三陸町志津川=1.5 東松島市矢本*=1.5 石巻市鮎川浜*=1.5 1 気仙沼市赤岩=1.4 気仙沼市唐桑町*=1.4 栗原市高清水*=1.4 栗原市一迫*=1.4 登米市米山町*=1.4 栗原市金成*=1.3 登米市中田町=1.3 栗原市瀬峰*=1.3 南三陸町歌津*=1.3 宮城美里町北浦*=1.3 宮城川崎町前川*=1.3 塩竈市旭町*=1.3 大郷町粕川*=1.3 七ヶ浜町東宮浜*=1.2 栗原市築館*=1.2 女川町女川浜*=1.2 石巻市雄勝町*=1.1 栗原市花山*=1.1 柴田町船岡=1.1 大衡村大衡*=1.1 登米市迫町*=1.1 大崎市松山*=1.0 仙台空港=1.0 蔵王町円田*=1.0 仙台泉区将監*=1.0 石巻市前谷地*=1.0 気仙沼市本吉町津谷*=1.0 宮城加美町中新田*=1.0 登米市石越町*=1.0 登米市津山町*=1.0 栗原市志波姫*=1.0 石巻市大瓜=0.9 石巻市相野谷*=0.9 角田市角田*=0.9 宮城美里町木間塚*=0.9 大河原町新南*=0.9 大崎市古川大崎=0.9 気仙沼市本吉町西川内=0.9 亘理町下小路*=0.9 仙台宮城野区苦竹*=0.9 仙台若林区遠見塚*=0.9 大崎市古川三日町=0.8 村田町村田*=0.8 大崎市古川北町*=0.8 大崎市鳴子*=0.8 利府町利府*=0.8 山元町浅生原*=0.8 仙台青葉区大倉=0.8 仙台青葉区作並*=0.8 登米市登米町*=0.8 多賀城市中央*=0.7 栗原市鶯沢*=0.6 仙台宮城野区五輪=0.6 白石市亘理町*=0.5				
22	8 07 29	福島県 1 相馬市中村*=1.1 飯舘村伊丹沢*=1.1 国見町藤田*=0.8 新地町谷地小屋*=0.7 南相馬市鹿島区西町*=0.7 川俣町五百田*=0.6 福島伊達市梁川町*=0.6 福島伊達市霊山町*=0.6				
		宮城県沖 宮城県 2 涌谷町新町裏=1.7 石巻市桃生町*=1.7 登米市豊里町*=1.5 1 大崎市鹿島台*=1.4 大崎市田尻*=1.3 塩竈市旭町*=1.2 仙台泉区将監*=1.1 石巻市大街道南*=1.0 石巻市北上町*=1.0 宮城川崎町前川*=1.0 松島町高城=1.0 気仙沼市笹が陣*=0.9 大崎市古川大崎=0.9 女川町女川浜*=0.9 仙台宮城野区苦竹*=0.8 南三陸町志津川=0.8 石巻市前谷地*=0.8 岩沼市桜*=0.7 大崎市松山*=0.7 宮城美里町北浦*=0.7 名取市増田*=0.7 栗原市高清水*=0.6 柴田町船岡=0.6 気仙沼市赤岩=0.6 栗原市瀬峰*=0.6 七ヶ浜町東宮浜*=0.6 石巻市鮎川浜*=0.6 宮城加美町中新田*=0.5 栗原市金成*=0.5 登米市中田町=0.5 多賀城市中央*=0.5 東松島市小野*=0.5 栗原市築館*=0.5 大崎市古川三日町=0.5	38° 11.0' N	141° 40.8' E	51km	M: 3.8
23	8 13 12	岩手県 1 一関市藤沢町*=1.3 一関市千厩町*=0.7 一関市室根町*=0.6 一関市花泉町*=0.5				
		日向灘 宮崎県 1 宮崎市霧島=0.5	31° 39.5' N	131° 35.4' E	43km	M: 3.1
24	8 14 23	沖縄本島近海 鹿児島県 2 喜界町滝川=1.7 1 与論町茶花*=1.2 知名町瀬利覚=0.9 奄美市名瀬港町=0.6 伊仙町伊仙*=0.5 2 恩納村恩納*=1.9 うるま市石川石崎*=1.7 国頭村辺土名*=1.5 南城市佐敷佐敷*=1.5 1 中城村当間*=1.4 西原町与那城*=1.2 うるま市与那城平安座*=1.2 北大東村中野*=1.2 沖縄市美里*=1.1 与那原町上与那原*=1.1 座間味村座間味*=1.0 今帰仁村仲宗根*=1.0 うるま市与那城饒辺*=1.0 南城市知念久手堅*=1.0 本部町役場*=1.0 うるま市みどり町*=0.9 名護市港*=0.9 那覇市港町*=0.9 国頭村奥=0.9 南大東村在所=0.8 読谷村座喜味=0.7 那覇市樋川=0.6 北大東村黄金山=0.6 名護市豊原=0.5	26° 18.4' N	129° 34.3' E	45km	M: 5.6
		千葉県東方沖 千葉県 1 銚子市若宮町*=1.0 銚子市小畑新町=0.9 香取市仁良*=0.9 旭市高生*=0.7 旭市萩園*=0.7 旭市南堀之内*=0.7 旭市ニ*=0.6 銚子市川口町=0.5	35° 42.4' N	141° 00.0' E	36km	M: 3.5
25	8 21 33	福島県沖 福島県 1 玉川村小高*=0.7 天栄村下松本*=0.5	37° 19.1' N	142° 09.5' E	32km	M: 4.3
		浦河沖 北海道 2 新ひだか町静内山手町=1.8 浦河町潮見=1.5 1 むかわ町松風*=1.4 新冠町北星町*=1.4 新ひだか町三石旭町*=1.4 浦河町築地*=1.4	41° 57.1' N	142° 20.3' E	71km	M: 4.2

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度（計 測 震 度）	緯度	経度	深さ	規模
		様似町栄町＊=1.4 新ひだか町静内御幸町＊=1.3 えりも町えりも岬＊=1.1 函館市新浜町＊=1.1 広尾町並木通=1.0 厚真町鹿沼=1.0 幕別町忠類錦町＊=0.9 安平町追分柏が丘＊=0.8 広尾町白樺通=0.8 函館市泊町＊=0.7 十勝大樹町生花＊=0.7 浦河町野深=0.6 えりも町目黒＊=0.6 安平町早来北進＊=0.6 青森県 1 東通村砂子又沢内＊=1.2 階上町道仏＊=1.0 東通村砂子又蒲谷地=0.5				
27	9 17 55	青森県東方沖 北海道 1 函館市新浜町＊=0.6 函館市泊町＊=0.5 青森県 1 野辺地町野辺地＊=0.7 五戸町古館=0.6 青森南部町苫米地＊=0.6 岩手県 1 盛岡市薮川＊=0.7 八幡平市田頭＊=0.5	40° 50.4' N	143° 08.0' E	12km	M: 4.2
28	9 21 53	根室半島南東沖 北海道 1 別海町西春別＊=0.5	42° 46.4' N	146° 14.3' E	35km	M: 3.9
29	10 04 19	福島県沖 福島県 2 いわき市三和町=1.9 檜葉町北田＊=1.8 富岡町本岡＊=1.8 福島広野町下北迫大谷地原＊=1.7 大熊町野上＊=1.6 浪江町幾世橋=1.6 田村市都路町＊=1.5 1 白河市新白河＊=1.4 川内村上川内早渡＊=1.4 双葉町両竹＊=1.4 小野町小野新町＊=1.2 田村市大越町＊=1.2 小野町中通＊=1.0 田村市常葉町＊=1.0 川内村上川内小山平＊=1.0 いわき市平四ツ波＊=0.9 南相馬市原町区高見町＊=0.9 川内村下川内=0.9 矢祭町戸塚＊=0.8 田村市船弓町=0.8 浅川町浅川＊=0.8 川俣町五百田＊=0.8 郡山市湖南町＊=0.7 福島広野町下北迫苗代替＊=0.7 いわき市錦町＊=0.6 南相馬市鹿島区西町＊=0.6 郡山市朝日=0.5 南相馬市原町区三島町=0.5 茨城県 1 笠間市石井＊=1.2 日立市助川小学校＊=0.9 東海村東海＊=0.8 笠間市笠間＊=0.7 常陸大宮市上小瀬＊=0.7 城里町小勝＊=0.7	37° 09.1' N	141° 12.2' E	35km	M: 4.0
30	10 12 44	和歌山県北部 和歌山県 1 田辺市中辺路町栗栖川＊=1.0	33° 49.2' N	135° 12.2' E	46km	M: 3.1
31	10 23 58	青森県三八上北地方 青森県 1 青森南部町苫米地＊=0.7 階上町道仏＊=0.6 岩手県 1 軽米町軽米＊=0.7 九戸村伊保内＊=0.5	40° 34.1' N	141° 24.1' E	89km	M: 3.3
32	11 09 40	熊本県阿蘇地方 熊本県 1 産山村山鹿＊=1.3 阿蘇市波野＊=0.8 南小国町赤馬場＊=0.6 南阿蘇村中松=0.6 熊本小国町宮原＊=0.5 阿蘇市一の宮町＊=0.5	33° 02.6' N	131° 06.3' E	12km	M: 2.5
33	11 17 06	岡山県北部 岡山県 3 真庭市下方＊=2.6 2 津山市中北下＊=2.0 真庭市落合垂水＊=1.6 1 真庭市禾津＊=1.4 真庭市久世＊=1.3 高梁市原田南町＊=1.3 高梁市有漢町＊=1.2 吉備中央町豊野＊=1.2 赤磐市周匝＊=1.2 真庭市勝山＊=1.1 新見市唐松＊=1.0 真庭市下皆部＊=1.0 赤磐市町苅田＊=0.9 赤磐市松木＊=0.8 岡山美咲町久木＊=0.8 岡山北区御津金川＊=0.8 岡山北区建部町＊=0.8 岡山美咲町西川＊=0.7 鏡野町竹田＊=0.7 和気町矢田＊=0.7 鏡野町井坂＊=0.6 浅口市天草公園=0.6 真庭市蒜山下福田＊=0.6 岡山美咲町原田＊=0.5 新見市哲多町本郷＊=0.5 鳥取県 1 日南町生山＊=0.6	34° 59.2' N	133° 48.9' E	19km	M: 3.4
34	11 17 18	三陸沖 青森県 3 八戸市南郷＊=2.7 五戸町古館=2.6 七戸町森ノ上＊=2.5 青森南部町苫米地＊=2.5 2 東北町上北南＊=2.4 階上町道仏＊=2.4 おいらせ町中下田＊=2.4 十和田市西十二番町＊=2.3 野辺地町田狭沢＊=2.3 野辺地町野辺地＊=2.3 七戸町七戸＊=2.3 六戸町大落瀬＊=2.3 十和田市西二番町＊=2.2 平内町小湊=2.2 外ヶ浜町蟹田＊=2.2 青森市花園=2.1 五戸町倉石中市＊=2.1 おいらせ町上明堂＊=2.1 東通村砂子又沢内＊=2.1 八戸市内丸＊=2.0 三沢市桜町＊=2.0 むつ市金谷＊=2.0 田子町田子＊=1.9 つがる市稲垣町＊=1.9 青森市中央＊=1.9 三戸町在府小路町＊=1.9 むつ市金曲=1.9 むつ市大畑町中島＊=1.9 五所川原市敷島町＊=1.8 平内町東田沢＊=1.8 むつ市川内町＊=1.8 つがる市木造＊=1.8 横浜町林ノ脇＊=1.7 横浜町寺下＊=1.7 藤崎町水木＊=1.7 東北町塔ノ沢山＊=1.7 平川市猿賀＊=1.7 東通村砂子又蒲谷地=1.7 十和田市奥瀬＊=1.6 青森南部町沖田面＊=1.6 板柳町板柳＊=1.6 青森市浪岡＊=1.6 藤崎町西豊田＊=1.6 蓬田村蓬田＊=1.5 八戸市湊町=1.5 鶴岡町鶴岡＊=1.5 つがる市柿＊=1.5 六ヶ所村尾駈=1.5 1 新郷村戸来＊=1.4 むつ市脇野沢＊=1.4 今別町今別＊=1.3 つがる市市力町＊=1.3 中泊町中里＊=1.3 田舎館村田舎館＊=1.3 平川市柏木町＊=1.3 黒石市市ノ町＊=1.2 西目屋村田代＊=1.2 六ヶ所村出戸=1.2 五所川原市金木町＊=1.2 五所川原市太田=1.1 五所川原市相内＊=1.1 大間町大間＊=1.1 佐井村長後＊=1.1 弘前市弥生=1.0 弘前市賀田＊=1.0 つがる市森田町＊=1.0 東通村白糠＊=0.9 平川市碓ヶ関＊=0.9 八戸市島守=0.9 鰯ヶ沢町本町=0.9 外ヶ浜町平館＊=0.9 外ヶ浜町三厩＊=0.8 弘前市五所＊=0.7 中泊町小泊＊=0.7 七戸町北天間館=0.6 むつ市大畑町奥薬研=0.5 岩手県 3 盛岡市薮川＊=3.0 普代村銅屋＊=2.6 盛岡市渋民＊=2.5 八幡平市田頭＊=2.5 2 野田村野田＊=2.4 矢巾町南矢幅＊=2.4 滝沢市鶴飼＊=2.3 久慈市川崎町=2.2 二戸市浄法寺町＊=2.2 八幡平市野駄＊=2.2 紫波町紫波中央駅前＊=2.2 北上市相去町＊=2.1 八幡平市大更=2.0 八幡平市叭田＊=2.0 宮古市田老＊=1.9 花巻市材木町＊=1.9 奥州市胆沢＊=1.9 盛岡市山王町=1.9 雫石町千刈田=1.9 一戸町高善寺＊=1.9 軽米町軽米＊=1.9 宮古市五月町＊=1.8 花巻市石鳥谷町＊=1.8 花巻市東和町＊=1.8 岩手町五日市＊=1.7 北上市柳原町=1.7 一関市花泉町＊=1.7 金ヶ崎町西根＊=1.7 奥州市江刺＊=1.7 奥州市前沢＊=1.7 雫石町西根上駒木野=1.6 奥州市水沢大鐘町=1.6	40° 21.7' N	143° 24.2' E	5km	M: 6.2

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
		奥州市水沢佐倉河＊=1.6 遠野市青笹町＊=1.5 平泉町平泉＊=1.5 久慈市枝成沢=1.5 久慈市長内町＊=1.5 釜石市中妻町＊=1.5 1 二戸市福岡=1.4 一関市千厩町＊=1.4 奥州市衣川＊=1.3 岩手洋野町種市=1.3 盛岡市馬場町＊=1.3 葛巻町葛巻元木=1.2 花巻市大迫町=1.2 遠野市宮守町＊=1.2 一関市竹山町＊=1.2 一関市室根町＊=1.2 西和賀町川尻＊=1.2 西和賀町沢内川舟＊=1.2 山田町大沢＊=1.1 大船渡市大船渡町=1.1 住田町世田米＊=1.1 九戸村伊保内＊=1.1 宮古市鉾ヶ崎=1.0 宮古市川井＊=1.0 宮古市区界＊=1.0 田野畑村田野畑=0.9 岩手洋野町大野＊=0.9 葛巻町消防分署＊=0.9 山田町八幡町=0.9 花巻市大迫総合支所＊=0.9 釜石市只越町=0.8 宮古市茂市＊=0.8 一関市藤沢町＊=0.8 田野畑村役場＊=0.8 大船渡市盛町＊=0.7 一関市東山町＊=0.6 大船渡市猪川町=0.5 一関市大東町=0.5 3 涌谷町新町裏=2.5 2 登米市迫町＊=2.2 登米市登米町＊=2.1 登米市米山町＊=2.0 登米市南方町＊=2.0 石巻市桃生町＊=2.0 登米市中田町=1.9 宮城美里町木間塚＊=1.9 石巻市大街道南＊=1.9 大崎市古川三日町=1.8 栗原市若柳＊=1.8 大崎市古川北町＊=1.7 大崎市松山＊=1.7 丸森町鳥屋＊=1.7 石巻市前谷地＊=1.7 松島町高城=1.6 大河原町新南＊=1.6 大崎市田尻＊=1.5 角田市角田＊=1.5 栗原市築館＊=1.5 利府町利府＊=1.5 栗原市志波姫＊=1.5 栗原市一迫＊=1.5 1 栗原市高清水＊=1.4 栗原市金成＊=1.4 岩沼市桜＊=1.4 宮城加美町中新田＊=1.3 宮城加美町小野田＊=1.3 栗原市鶯沢＊=1.3 大崎市古川大崎=1.3 大崎市岩出山＊=1.3 宮城川崎町前川＊=1.3 石巻市相野谷＊=1.3 東松島市矢本＊=1.3 蔵王町円田＊=1.2 色麻町四竈＊=1.2 栗原市栗駒=1.2 栗原市花山＊=1.2 宮城美里町北浦＊=1.2 大崎市鹿島台＊=1.2 名取市増田＊=1.1 気仙沼市赤岩=1.1 大衡村大衡＊=1.0 南三陸町志津川=1.0 仙台宮城野区苫竹＊=1.0 大崎市三本木＊=0.9 気仙沼市笹が陣＊=0.9 気仙沼市唐桑町＊=0.9 山元町浅生原＊=0.9 栗原市瀬峰＊=0.8 仙台青葉区雨宮＊=0.8 仙台若林区遠見塚＊=0.8 大郷町粕川＊=0.8 宮城加美町宮崎＊=0.8 亘理町下小路＊=0.7 仙台青葉区落合＊=0.7 富谷市富谷＊=0.7 仙台太白区山田＊=0.6 大崎市鳴子＊=0.6 石巻市泉町=0.5 登米市東和町＊=0.5 2 函館市泊町＊=2.4 函館市新浜町＊=2.2 浦幌町桜町＊=2.0 十勝大樹町東本通＊=1.9 釧路市音別町中園＊=1.8 様似町栄町＊=1.8 新千歳空港=1.8 新冠町北星町＊=1.8 長沼町中央＊=1.7 厚真町鹿沼=1.7 新篠津村第4 7線＊=1.7 南幌町栄町＊=1.6 函館市大森町＊=1.6 幕別町忠類錦町＊=1.5 日高地方日高町門別＊=1.5 札幌北区篠路＊=1.5 浦河町潮見=1.5 厚真町京町＊=1.5 1 江別市緑町＊=1.4 千歳市若草＊=1.4 函館市美原=1.4 渡島北斗市中央＊=1.4 苫小牧市末広町=1.4 安平町早来北進＊=1.4 新ひだか町静内山手町=1.4 新ひだか町静内御幸町＊=1.4 浦河町築地＊=1.4 帯広市東4条=1.4 釧路市阿寒町阿寒湖温泉＊=1.4 白糠町西1条＊=1.4 札幌北区太平＊=1.3 札幌清田区平岡＊=1.3 帯広市東6条＊=1.3 札幌北区新琴似＊=1.3 札幌東区元町＊=1.3 新ひだか町静内御園=1.3 函館市日ノ浜町＊=1.3 浦河町野深=1.3 札幌手稲区前田＊=1.2 ニセコ町中央通＊=1.2 中札内村東2条＊=1.2 当別町白樺＊=1.2 白老町大町=1.2 石狩市花川=1.2 恵庭市漁平=1.1 倶知安町南1条=1.1 むかわ町穂別＊=1.1 十勝大樹町生花＊=1.1 千歳市支笏湖温泉＊=1.1 えりも町えりも岬＊=1.1 標津町北2条＊=1.1 七飯町桜町=1.0 新ひだか町三石旭町＊=1.0 十勝清水町南4条=1.0 日高地方日高町日高＊=1.0 赤井川村赤井川＊=1.0 壮瞥町滝之町＊=1.0 厚岸町真栄＊=1.0 札幌厚別区もみじ台＊=0.9 別海町常盤=0.9 安平町追分柏が丘＊=0.8 七飯町本町＊=0.8 白老町緑丘＊=0.8 広尾町並木通=0.8 登別市桜木町＊=0.8 鹿部町宮浜＊=0.7 根室市瑤瑤瑠＊=0.7 江別市高砂町=0.7 福島町福島＊=0.7 札幌中央区北2条=0.7 胆振伊達市大滝区本町＊=0.6 別海町本別海＊=0.6 根室市落石東＊=0.6 鶴居村鶴居東＊=0.6 釧路市幸町=0.5 札幌中央区南4条＊=0.5 函館市川汲町＊=0.5 2 井川町北川尻＊=2.0 三種町豊岡＊=2.0 大館市桜町＊=1.9 大仙市高梨＊=1.8 鹿角市花輪＊=1.7 横手市大雄＊=1.7 大館市比内町扇田＊=1.6 能代市常盤山谷=1.5 能代市上町＊=1.5 秋田市河辺和田＊=1.5 北秋田市花園町=1.5 北秋田市米内沢＊=1.5 北秋田市新田目＊=1.5 大仙市太田町太田＊=1.5 1 能代市緑町=1.4 能代市追分町＊=1.4 能代市二ツ井町上台＊=1.4 由利本荘市西目町沼田＊=1.4 由利本荘市前郷＊=1.4 にかほ市平沢＊=1.4 大館市早口＊=1.4 横手市中央町＊=1.4 大仙市刈和野＊=1.4 仙北市田沢湖生保内宮ノ後＊=1.4 藤里町藤琴＊=1.3 潟上市天王＊=1.3 秋田市雄和新波＊=1.3 秋田美郷町土崎＊=1.3 大仙市大曲花園町＊=1.3 潟上市昭和久保＊=1.2 三種町鶴川＊=1.2 大館市比内町味噌内=1.2 横手市平鹿町浅舞＊=1.1 秋田美郷町六郷東根=1.1 大仙市北長野＊=1.1 仙北市西木町上荒井＊=1.1 秋田市雄和女米＊=1.1 小坂町小坂砂森＊=1.0 上小阿仁村小沢田＊=1.0 横手市雄物川町今宿=1.0 横手市大森町＊=1.0 湯沢市川連町＊=1.0 羽後町西馬音内＊=1.0 八郎潟町大道＊=1.0 仙北市田沢湖生保内上清水＊=1.0 潟上市飯田川下蛇川＊=1.0 由利本荘市東由利老方＊=1.0 にかほ市金浦＊=1.0 大仙市南外＊=0.9 由利本荘市岩谷町＊=0.9 大仙市神宮寺＊=0.9 仙北市西木町上桧木内＊=0.9 仙北市角館町小勝田＊=0.9 にかほ市象潟町浜ノ田＊=0.9 五城目町西磯ノ目=0.9 横手市安田柳堤地内＊=0.9 三種町鹿渡＊=0.8 横手市十文字町＊=0.8 湯沢市沖鶴=0.8 仙北市角館町東勝楽丁=0.8 大潟村中央＊=0.8 由利本荘市岩城内道川＊=0.7 男鹿市角間崎＊=0.7 由利本荘市矢島町矢島町＊=0.7 横手市増田町増田＊=0.6 湯沢市横堀＊=0.6 2 中山町長崎＊=2.0 1 酒田市飛鳥＊=1.4 酒田市亀ヶ崎=1.2 村山市中央＊=1.2 天童市老野森＊=1.2 高島町高島＊=1.2 酒田市山田＊=1.1 遊佐町遊佐=1.1 庄内町余目＊=1.1 山辺町緑ヶ丘＊=1.1 鶴岡市藤島＊=1.0 三川町横山＊=1.0 庄内町狩川＊=1.0 河北町役場＊=1.0 河北町谷地=0.9 上山市河崎＊=0.8 福島県 1 郡山市湖南町＊=1.2 福島市松木町=1.0 浪江町幾世橋=0.5 新潟県 1 村上市岩船駅前＊=1.3				
35	12 02 52	沖縄本島近海 沖縄県	24° 55.9' N	128° 09.3' E	82km	M: 5.0
		1 那覇市樋川=0.9				
36	12 03 50	福島県沖 福島県	37° 45.6' N	141° 07.0' E	69km	M: 3.7
		2 新地町谷地小屋＊=1.6				

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度（計 測 震 度）	緯度	経度	深さ	規模
		1 福島伊達市霊山町※=1.2 福島伊達市梁川町※=1.0 相馬市中村※=1.0 田村市都路町※=0.7 檜葉町北田※=0.7 南相馬市鹿島区西町※=0.7 南相馬市原町区高見町※=0.6 福島広野町下北迫大谷地原※=0.6 福島広野町下北迫苗代替※=0.5 岩手県 宮城県 1 住田町世田米※=0.5 一関市室根町※=0.5 1 岩沼市桜※=0.9 柴田町船岡=0.8 宮城川崎町前川※=0.8 山元町浅生原※=0.8 名取市増田※=0.7 角田市角田※=0.6 大崎市田尻※=0.5				
37	12 04 34	紋別地方 北海道 1 北見市留辺蘂町栄町※=0.7	43° 50.8' N	143° 32.7' E	11km	M: 2.8
38	12 05 02	奄美大島近海 鹿児島県 1 宇検村湯湾※=0.8	28° 22.0' N	129° 17.6' E	13km	M: 2.8
39	12 05 10	奄美大島近海 鹿児島県 1 宇検村湯湾※=0.8	28° 22.6' N	129° 17.3' E	13km	M: 2.8
40	12 15 50	京都府南部 京都府 1 宇治市宇治琵琶=1.3 京都西京区大枝※=0.9 亀岡市安町=0.9 久御山町田井※=0.9 宇治田原町荒木※=0.9 京都伏見区向島※=0.8 京都伏見区醍醐※=0.8 京都中京区西ノ京=0.7 八幡市八幡※=0.7 京都下京区河原町塩小路※=0.5 大山崎町円明寺※=0.5 大阪府 1 島本町若山台※=0.5	34° 57.7' N	135° 40.6' E	11km	M: 2.9
41	12 16 30	硫黄島近海 東京都 1 小笠原村母島=0.9	25° 58.0' N	141° 24.5' E	547km	M: 5.8
42	12 20 13	宮城県沖 岩手県 宮城県 1 一関市千厩町※=1.2 1 石巻市桃生町※=0.7 南三陸町志津川=0.6	38° 32.3' N	141° 49.1' E	49km	M: 3.4
43	13 12 23	長野県南部 長野県 3 木曽町新開※=3.0 木曽町開田高原西野※=2.6 2 木曽町福島※=2.4 塩尻市檜川保育園※=2.3 木曽町日義※=2.2 木曽町三岳※=2.2 上松町駅前通り※=2.1 松本市奈川※=2.1 長野高森町下市田※=1.9 塩尻市木曽平沢※=1.7 王滝村鈴ヶ沢※=1.6 朝日村役場※=1.5 1 飯田市上郷黒田※=1.3 大桑村長野※=1.0 辰野町中央=0.9 泰阜村役場※=0.9 松本市安曇※=0.9 飯田市高羽町=0.8 箕輪町中箕輪※=0.8 山形村役場※=0.8 下諏訪町役場※=0.7 大鹿村大河原※=0.7 塩尻市広丘高出※=0.7 松本市丸の内※=0.6 南木曽町読書小学校※=0.6 飯田市南信濃※=0.6 松本市寿※=0.6 諏訪市湖岸通り=0.6 中川村大草※=0.6 売木村役場※=0.6 茅野市葛井公園※=0.6 喬木村役場※=0.5 岐阜県 2 高山市高根町※=2.0 飛騨市神岡町東町※=1.8 高山市上宝町本郷※=1.7 1 中津川市加子母※=1.3 下呂市下呂小学校※=1.2 飛騨市神岡町殿=1.2 下呂市萩原町※=0.9 中津川市付知町※=0.9 高山市奥飛騨温泉郷栃尾※=0.9 恵那市上矢作町※=0.7 八百津町八百津※=0.7 中津川市川上※=0.7 中津川市福岡※=0.6 可児市広見※=0.6 下呂市小坂町※=0.6 下呂市馬瀬※=0.5 下呂市森=0.5 山梨県 1 富士河口湖町船津=0.7 愛知県 1 名古屋西区八筋町※=1.1 清須市春日振形※=0.9 名古屋北区萩野通※=0.8 清須市清洲※=0.8 名古屋瑞穂区塩込町※=0.7 豊田市長興寺※=0.6 岩倉市川井町※=0.6 豊山町豊場※=0.5 蟹江町蟹江本町※=0.5 一宮市千秋=0.5 北名古屋市西之保※=0.5	35° 56.8' N	137° 42.1' E	9km	M: 4.1
44	13 15 12	千葉県北東部 千葉県 3 長南町長南※=2.8 2 茂原市道表※=1.8 大網白里市大網※=1.7 1 一宮町一宮=1.4 長生村本郷※=1.2 長柄町桜谷※=1.2 白子町関※=1.1 市原市姉崎※=1.1 東金市日吉台※=1.0 千葉中央区都町※=0.9 東金市東新宿=0.8 山武市埴谷※=0.7 山武市蓮沼ハ※=0.7 勝浦市新宮※=0.6 千葉中央区中央港=0.5 千葉中央区千葉市役所※=0.5 睦沢町下之郷※=0.5 芝山町小池※=0.5 勝浦市墨名=0.5 東金市東岩崎※=0.5 君津市久留里市場※=0.5 いすみ市国府台※=0.5	35° 25.0' N	140° 17.8' E	27km	M: 3.2
45	13 16 01	岩手県内陸南部 秋田県 1 湯沢市沖鶴=0.5 東成瀬村椿川※=0.5	39° 05.3' N	140° 49.3' E	7km	M: 3.1
46	13 17 59	岩手県沖 岩手県 1 宮古市田老※=0.5	39° 51.6' N	142° 37.8' E	40km	M: 3.5
47	14 01 29	奈良県 愛知県 和歌山県 1 一宮市緑※=0.7 1 新宮市新宮=0.5	34° 21.4' N	135° 46.8' E	58km	M: 3.2
48	14 04 49	紀伊水道 和歌山県 1 和歌山市一番丁※=1.2	34° 13.4' N	135° 08.6' E	8km	M: 2.3
49	14 13 56	奄美大島近海 鹿児島県 1 奄美市住用町西仲間※=0.5	28° 12.8' N	129° 24.5' E	17km	M: 3.1

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯 度	経 度	深 さ	規 模
50	14 20 28	京都府南部 京都府 大阪府	34° 58.2' N	135° 43.3' E	6km	M: 2.5 1 京都右京区太秦*=1.3 京都西京区大枝*=1.2 京都西京区榎原*=1.1 京都下京区河原町塩小路*=0.8 向日市寺戸町*=0.8 京都伏見区醍醐*=0.7 京都中京区河原町御池*=0.6 長岡京市開田*=0.6 久御山町田井*=0.5 京都山科区安朱川向町*=0.5 1 島本町若山台*=0.6
51	14 20 38	滋賀県北部 滋賀県	35° 21.2' N	135° 55.3' E	10km	M: 2.1 2 高島市朽木柏*=1.5 1 高島市勝野*=0.9 高島市朽木市場*=0.7
52	14 22 47	胆振地方中東部 北海道	42° 39.2' N	142° 00.5' E	42km	M: 3.1 1 むかわ町穂別*=1.3 安平町早来北進*=1.2 厚真町鹿沼=1.0 安平町追分柏が丘*=0.8 千歳市北栄=0.7 新千歳空港=0.7 恵庭市京町*=0.5
53	15 05 28	釧路沖 北海道	42° 29.1' N	144° 49.0' E	43km	M: 5.1 3 釧路市黒金町*=2.8 浜中町茶内*=2.6 標茶町塘路*=2.6 別海町西春別*=2.6 浦幌町桜町*=2.5 釧路町別保*=2.5 厚岸町真栄*=2.5 2 釧路市幸町=2.4 白糠町西1条*=2.4 別海町常盤=2.4 根室市厚床*=2.4 厚岸町尾幌=2.2 標津町北2条*=2.2 釧路市音別町中園*=2.1 十勝大樹町生花*=2.1 釧路市阿寒町中央*=2.1 根室市落石東*=2.1 別海町本別海*=2.0 新得町2条*=2.0 更別村更別*=2.0 標茶町川上*=1.9 十勝清水町南4条=1.9 中標津町丸山*=1.9 浜中町湯沸=1.9 十勝大樹町東本通*=1.8 十勝池田町西1条*=1.8 幕別町忠類錦町*=1.8 弟子屈町弟子屈*=1.7 新冠町北星町*=1.7 鶴居村鶴居東*=1.6 広尾町並木通=1.6 根室市瑤瑤瑠*=1.6 中札内村東2条*=1.5 幕別町本町*=1.5 豊頃町茂岩本町*=1.5 1 清里町羽衣町*=1.4 様似町栄町*=1.4 鹿追町東町*=1.4 音更町元町*=1.4 幕別町忠類明和=1.4 中標津町養老牛=1.4 安平町早来北進*=1.3 浦河町潮見=1.3 本別町向陽町*=1.3 弟子屈町美里=1.3 釧路市音別町尺別=1.3 帯広市東4条=1.3 標津町古多糠=1.3 帯広市東6条*=1.2 広尾町白樺通=1.2 足寄町南1条*=1.2 芽室町東2条*=1.2 釧路市阿寒町阿寒湖温泉*=1.2 足寄町上螺湾=1.2 本別町北2丁目=1.2 羅臼町岬町*=1.2 新ひだか町静内山手町=1.1 札幌東区元町*=1.1 小清水町小清水*=1.1 南富良野町役場*=1.1 札幌北区太平*=1.0 美幌町東3条=1.0 浦河町野深=1.0 江別市緑町*=1.0 標津町薫別*=1.0 羅臼町緑町*=1.0 浦河町築地*=1.0 根室市牧の内*=1.0 函館市新浜町*=1.0 斜里町本町*=0.9 湧別町栄町*=0.9 弟子屈町サワチサップ*=0.9 厚真町鹿沼=0.9 札幌北区篠路*=0.9 むかわ町穂別*=0.9 えりも町目黒*=0.8 土幌町土幌*=0.8 札幌手稲区前田*=0.8 札幌清田区平岡*=0.7 千歳市支笏湖温泉*=0.7 札幌北区新琴似*=0.7 斜里町ウトロ香川*=0.7 南富良野町幾寅=0.7 新ひだか町三石旭町*=0.5 根室市弥栄=0.5 北見市留辺蘂町栄町*=0.5 函館市泊町*=0.5 羅臼町春日=0.5 上士幌町清水谷*=0.5 青森県 岩手県 1 八戸市南郷*=1.1 東通村砂子又沢内*=0.8 1 盛岡市薮川*=0.6
54	15 23 30	宮城県南部 宮城県 福島県	38° 07.9' N	140° 30.2' E	110km	M: 3.8 1 亶理町下小路*=0.6 大崎市松山*=0.5 1 檜葉町北田*=0.8
55	16 16 07	石垣島近海 沖縄県	24° 11.6' N	124° 14.1' E	15km	M: 4.2 1 竹富町黒島=1.1 石垣市平久保=1.0 竹富町船浮=1.0 石垣市新栄町*=0.9 石垣市美崎町*=0.9 石垣市登野城=0.8
56	16 16 39	奄美大島近海 鹿児島県	28° 16.9' N	129° 54.6' E	47km	M: 3.3 1 喜界町滝川=0.8 喜界町湾*=0.6
57	16 18 47	茨城県沖 茨城県	36° 27.4' N	141° 01.8' E	44km	M: 3.7 2 日立市助川小学校*=2.1 水戸市栗崎町*=1.8 常陸大宮市上小瀬*=1.6 日立市役所*=1.5 1 水戸市内原町*=1.3 笠間市石井*=1.3 城里町小勝*=1.3 東海村東海*=1.1 城里町石塚*=1.0 常陸大宮市北町*=1.0 常陸太田市町屋町=0.9 水戸市金町=0.9 高萩市安良川*=0.8 笠間市笠間*=0.8 常陸大宮市山方*=0.7 常陸大宮市野口*=0.7 大子町池田*=0.7 ひたちなか市南神敷台*=0.7 土浦市常名=0.7 常陸太田市高柿町*=0.6 ひたちなか市東石川*=0.6 笠間市中央*=0.6 笠間市下郷*=0.6 小美玉市堅倉*=0.6 高萩市本町*=0.6 筑西市門井*=0.6 桜川市羽田*=0.5 常陸太田市町田町*=0.5 桜川市岩瀬*=0.5 栃木県 1 真岡市石島*=0.6 益子町益子=0.6 茂木町茂木*=0.5
58	17 02 31	宮城県沖 岩手県 宮城県	38° 19.4' N	141° 38.6' E	53km	M: 3.8 1 住田町世田米*=1.0 一関市室根町*=0.9 一関市東山町*=0.8 一関市千厩町*=0.7 1 石巻市桃生町*=1.3 石巻市大街道南*=1.1 石巻市泉町=0.8 気仙沼市唐桑町*=0.8 涌谷町新町裏=0.7 登米市東和町*=0.7 東松島市小野*=0.6 宮城川崎町前川*=0.5
59	17 11 08	岩手県沿岸北部 青森県 岩手県	39° 45.4' N	141° 51.0' E	58km	M: 3.4 1 階上町道仏*=0.8 1 遠野市青笹町*=1.0 宮古市茂市*=0.8 宮古市田老*=0.7 普代村銅屋*=0.6 宮古市川井*=0.6 田野畑村田野畑=0.5 宮古市区界*=0.5 久慈市枝成沢=0.5
60	17 14 35	広島県南東部 広島県	34° 31.4' N	132° 53.3' E	19km	M: 3.7 2 安芸高田市向原町長田*=2.0 安芸高田市美土里町*=2.0 三原市円一町=2.0 世羅町西上原*=2.0

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
		世羅町東神崎*=1.9 三原市大和町*=1.8 三原市久井町*=1.8 世羅町小国*=1.8 広島安佐北区可部南*=1.8 東広島市豊栄町*=1.8 安芸高田市向原町*=1.7 北広島町有田=1.6 神石高原町油木*=1.6 1 安芸高田市甲田町*=1.4 東広島市西条栄町*=1.4 北広島町川小田*=1.3 三原市本郷南*=1.3 神石高原町高光*=1.3 呉市広*=1.3 北広島町都志見=1.3 庄原市東城町*=1.2 呉市下蒲刈町*=1.2 安芸高田市吉田町*=1.1 広島三次市吉舎町*=1.1 庄原市総領町*=1.1 東広島市福富町*=1.1 尾道市向島町*=1.0 庄原市西城町大佐*=1.0 広島三次市三和町*=1.0 福山市内海町*=0.9 広島府中市上下町上下*=0.9 三原市館町*=0.9 広島安芸区中野*=0.9 広島三次市三良坂町*=0.8 安芸高田市高宮町*=0.8 北広島町大朝*=0.8 東広島市河内町*=0.8 東広島市安芸津町*=0.8 尾道市瀬戸田町*=0.7 東広島市黒瀬町=0.7 呉市二河町*=0.7 府中町大通り*=0.6 大崎上島町中野*=0.6 大崎上島町東野*=0.6 神石高原町小島*=0.6 安芸高田市八千代町*=0.5 福山市松永町=0.5 海田町上市*=0.5 熊野町役場*=0.5 竹原市中央*=0.5 広島空港=0.5 呉市川尻町*=0.5 北広島町豊平郵便局*=0.5 尾道市因島土生町*=0.5 島根県 1 邑南町瑞穂支所*=0.8 奥出雲町横田*=0.7 邑南町淀原*=0.6 島根美郷町都賀本郷*=0.6 浜田市三隅町三隅*=0.5 岡山県 1 新見市唐松*=1.2 新見市哲西町矢田*=0.8 新見市哲多町本郷*=0.6 真庭市下方*=0.5 香川県 1 三豊市詫間町*=0.5 愛媛県 1 今治市上浦町*=0.8 上島町魚島*=0.7 今治市大三島町*=0.6 今治市伯方町*=0.5 上島町生名*=0.5				
61	17 15 07	静岡県西部 静岡県 1 浜松天竜区佐久間町*=0.5	34° 56.5' N	137° 49.4' E	22km	M: 2.8
62	17 22 20	紀伊水道 和歌山県 1 湯浅町青木*=0.8 由良町里*=0.5	34° 01.6' N	135° 04.6' E	9km	M: 2.7
63	17 23 04	豊後水道 愛媛県 大分県 宮崎県 1 延岡市北川町川内名白石*=1.1 延岡市北浦町古江*=0.7	32° 51.2' N	132° 02.8' E	42km	M: 3.5
64	18 06 07	根室半島南東沖 北海道 1 根室市瑤瑤瑠*=1.3 根室市厚床*=1.2 根室市落石東*=1.1 別海町西春別*=1.1 標津町北2条*=0.9 別海町常盤=0.9 別海町本別海*=0.7 根室市牧の内*=0.5	42° 45.9' N	146° 16.0' E	32km	M: 4.4
65	18 10 04	島根県東部 鳥取県 島根県 1 奥出雲町三成*=0.6 雲南市大東町大東=0.5 雲南市三刀屋町三刀屋*=0.5	35° 14.4' N	132° 59.5' E	14km	M: 3.2
66	18 13 41	茨城県沖 茨城県 1 水戸市栗崎町*=1.4 水戸市金町=1.3 大洗町磯浜町*=1.0 東海村東海*=1.0 小美玉市堅倉*=1.0 茨城町小堤*=0.9 水戸市内原町*=0.9 鉾田市汲上*=0.9 常陸大宮市野口*=0.8 小美玉市小川*=0.8 笠間市石井*=0.7 ひたちなか市南神敷台*=0.7 小美玉市上玉里*=0.7 土浦市常名=0.7 茨城鹿嶋市鉢形=0.7 城里町小勝*=0.7 那珂市瓜連*=0.6 常陸大宮市北町*=0.6 常陸大宮市上小瀬*=0.5 茨城鹿嶋市宮中*=0.5 鉾田市鉾田=0.5 鉾田市造谷*=0.5 石岡市若宮*=0.5 栃木県 1 益子町益子=0.5	36° 20.8' N	140° 42.7' E	55km	M: 3.5
67	18 14 01	台湾付近 沖縄県 2 与那国町役場*=2.0 与那国町久部良=1.7 与那国町祖納=1.6 1 竹富町黒島=1.2 竹富町波照間=1.1 竹富町船浮=1.1 石垣市新栄町*=1.0	24° 00.6' N	121° 30.8' E	20km	M: 6.5
68	18 22 52	茨城県南部 栃木県 1 佐野市高砂町*=0.6 下野市田中*=0.5	36° 08.4' N	139° 49.4' E	51km	M: 3.0
69	19 08 57	宮城県沖 岩手県 1 一関市千厩町*=0.8	38° 46.1' N	142° 05.8' E	45km	M: 3.6
70	19 13 14	根室半島南東沖 北海道 2 根室市瑤瑤瑠*=1.8 1 根室市落石東*=1.1 根室市豊里=0.5	43° 15.2' N	146° 21.0' E	46km	M: 4.2
71	19 16 05	苫小牧沖 北海道 1 函館市新浜町*=0.8 安平町早来北進*=0.8 浦河町潮見=0.8 安平町追分柏が丘*=0.6 厚真町鹿沼=0.5	42° 34.6' N	141° 32.0' E	122km	M: 3.9
72	19 21 43	胆振地方中東部 北海道 1 安平町追分柏が丘*=0.6 厚真町鹿沼=0.5 安平町早来北進*=0.5 千歳市支笏湖温泉*=0.5	42° 45.7' N	141° 59.9' E	37km	M: 3.0
73	20 13 09	福島県沖 宮城県 福島県 1 宮城川崎町前川*=0.7 1 田村市船引町=1.1	37° 33.8' N	141° 23.3' E	78km	M: 3.7
74	20 22 04	日高地方中部 北海道 1 新得町2条*=1.0 平取町振内*=0.8 十勝清水町南4条=0.5 芽室町東2条*=0.5	42° 41.2' N	142° 41.2' E	19km	M: 3.8

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
75	21 03 54	沖縄本島近海 沖縄県 1 宜野湾市野嵩＊=1.0	26° 13.7' N	127° 52.6' E	17km	M: 2.1
76	21 04 09	トカラ列島近海 鹿児島県 1 屋久島町宮之浦＊=1.3 中種子町野間＊=1.1 南種子町西之＊=1.0 屋久島町小瀬田=0.8 屋久島町尾之間＊=0.8 錦江町田代支所＊=0.8 屋久島町平内=0.6 鹿児島十島村中之島徳之尾=0.6 南大隅町佐多伊座敷＊=0.6	29° 59.2' N	130° 25.0' E	48km	M: 4.2
77	21 08 13	奄美大島近海 鹿児島県 1 宇検村湯湾＊=0.6	28° 22.3' N	129° 17.7' E	12km	M: 2.7
78	21 11 48	紀伊水道 和歌山県 2 和歌山市一番丁＊=2.0 海南市下津＊=1.9 湯浅町青木＊=1.6 有田市初島町＊=1.5 1 有田川町下津野＊=1.4 和歌山広川町広＊=1.3 和歌山市男野芝丁=1.2 由良町里＊=1.1 和歌山日高町高家＊=1.0 日高川町土生＊=0.9 紀美野町下佐々＊=0.7 有田市箕島=0.6	34° 12.7' N	135° 08.1' E	7km	M: 3.4
79	22 04 27	紀伊水道 和歌山県 1 和歌山市一番丁＊=0.7	34° 12.9' N	135° 08.6' E	7km	M: 2.7
80	22 07 16	石川県能登地方 石川県 1 珠洲市正院町＊=0.5	37° 27.6' N	137° 15.2' E	11km	M: 2.3
81	22 20 18	栃木県北部 栃木県 1 日光市足尾町中才＊=1.4	36° 38.2' N	139° 29.0' E	8km	M: 2.8
82	23 02 45	三陸沖 北海道 2 函館市新浜町＊=1.5 1 函館市泊町＊=0.7 様似町栄町＊=0.6 浦河町潮見=0.5 青森県 2 五戸町古館=1.6 おいらせ町中下田＊=1.5 八戸市南郷＊=1.5 六戸町犬落瀬＊=1.5 1 七戸町森ノ上＊=1.4 東北町上北南＊=1.4 青森南部町苔米地＊=1.4 おいらせ町上明堂＊=1.4 階上町道仏＊=1.3 青森市花園=1.3 八戸市内丸＊=1.3 十和田市西十二番町＊=1.3 五所川原市敷島町＊=1.2 野辺地町野辺地＊=1.2 七戸町七戸＊=1.2 十和田市西二番町＊=1.2 つがる市木造＊=1.1 青森市中央＊=1.1 つがる市市柏＊=1.0 むつ市金曲=1.0 五戸町倉石中市＊=1.0 三沢市桜町＊=0.9 つがる市稲垣町＊=0.9 青森市浪岡＊=0.8 平川市猿賀＊=0.8 むつ市川内町＊=0.8 東通村砂子又沢内＊=0.8 三戸町在府小路町＊=0.8 平内町東田沢＊=0.7 新郷村戸来＊=0.7 蓬田村蓬田＊=0.7 藤崎町水木＊=0.7 鶴岡町鶴岡＊=0.7 田子町田子＊=0.7 藤崎町西豊田＊=0.6 東北町塔ノ沢山＊=0.6 岩手県 2 普代村銅屋＊=2.1 盛岡市薮川＊=2.1 盛岡市洪民＊=1.8 矢巾町南矢幅＊=1.5 1 紫波町紫波中央駅前＊=1.4 滝沢市鶴飼＊=1.4 野田村野田＊=1.3 八幡平市田頭＊=1.3 二戸市浄法寺町＊=1.2 久慈市川崎町=1.1 盛岡市山王町=1.1 北上市柳原町=1.0 北上市相去町＊=1.0 雫石町千刈田=1.0 宮古市田老＊=0.9 花巻市石鳥谷町＊=0.9 八幡平市大更=0.9 宮城県 2 登米市登米町＊=1.5 1 登米市迫町＊=1.0 宮城美里町木間塚＊=1.0 石巻市大街道南＊=1.0 登米市米山町＊=0.9 登米市南方町＊=0.9 丸森町鳥屋＊=0.9 石巻市桃生町＊=0.9 栗原市志波姫＊=0.8 栗原市若柳＊=0.8 大河原町新南＊=0.7 栗原市花山＊=0.5 秋田県 1 三種町豊岡＊=1.1 にかほ市平沢＊=0.9 横手市大雄＊=0.9 井川町北川尻＊=0.8 由利本荘市西目町沼田＊=0.8 大館市比内町扇田＊=0.8 大仙市高梨＊=0.8 大館市桜町＊=0.7 北秋田市米内沢＊=0.6 能代市二ツ井町上台＊=0.6	40° 32.9' N	143° 50.8' E	57km	M: 5.6
83	23 05 33	和歌山県北部 和歌山県 2 湯浅町青木＊=2.2 日高川町高津尾＊=1.6 1 有田川町下津野＊=0.9 有田川町中井原＊=0.9 和歌山広川町広＊=0.7 有田川町清水＊=0.6 日高川町川原河＊=0.5 日高川町土生＊=0.5	33° 59.2' N	135° 17.7' E	6km	M: 3.4
84	23 07 49	大隅半島東方沖 宮崎県 2 串間市都井＊=1.5 1 日南市南郷町南町＊=1.3 日南市中央通＊=1.0 日南市吾田東＊=0.8 日南市油津=0.7 鹿児島県 1 鹿屋市新栄町=1.3 鹿屋市札元＊=1.0 錦江町田代支所＊=1.0 志布志市志布志町志布志=0.8 大崎町仮宿＊=0.7	31° 04.6' N	131° 31.8' E	30km	M: 4.0
85	23 21 36	長野県南部 長野県 1 木曽町三岳＊=0.8	35° 51.9' N	137° 35.8' E	7km	M: 2.1
86	24 19 31	沖縄本島近海 沖縄県 1 座間味村座間味＊=0.8	26° 20.9' N	126° 27.1' E	89km	M: 3.7
87	24 20 07	青森県東方沖 青森県 1 八戸市湊町=1.2 階上町道仏＊=0.5	40° 58.5' N	142° 00.2' E	56km	M: 3.1
88	25 00 18	釧路地方北部 北海道 3 弟子屈町サワンチサップ＊=2.8	43° 36.0' N	144° 22.7' E	2km	M: 2.3

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯 度	経 度	深 さ	規 模
89	25 02 19	千葉県東方沖 千葉県 1 銚子市小畑新町*=1.4 銚子市若宮町*=1.4 銚子市川口町*=1.0 長南町総合グラウンド=0.6	35° 44.2' N	141° 00.2' E	13km	M: 3.7
90	25 03 22	石川県能登地方 石川県 1 珠洲市正院町*=1.1	37° 27.2' N	137° 15.5' E	11km	M: 2.5
91	25 18 32	青森県東方沖 青森県 1 八戸市湊町=0.8	41° 00.2' N	141° 58.7' E	58km	M: 3.1
92	25 21 00	宮城県沖 岩手県 3 一関市千厩町*=2.6 一関市東山町*=2.5 2 住田町世田米*=2.4 一関市室根町*=2.4 一関市藤沢町*=2.4 奥州市衣川*=2.3 一関市花泉町*=2.3 奥州市前沢*=2.3 一関市大東町=2.0 北上市相去町*=1.9 奥州市胆沢*=1.8 陸前高田市高田町*=1.7 平泉町平泉*=1.6 大船渡市猪川町=1.6 一関市竹山町*=1.5 金ヶ崎町西根*=1.5 釜石市中妻町*=1.5 大船渡市大船渡町=1.5 1 北上市柳原町=1.4 花巻市東和町*=1.3 一関市川崎町*=1.3 西和賀町沢内川舟*=1.3 奥州市江刺*=1.2 遠野市宮守町*=1.2 花巻市大迫町=1.2 遠野市青笹町*=1.2 山田町大沢*=1.1 矢巾町南矢幅*=1.1 釜石市只越町=1.0 花巻市石鳥谷町*=1.0 奥州市水沢大鐘町=1.0 奥州市水沢佐倉河*=1.0 宮古市田老*=0.9 花巻市材木町*=0.9 宮古市区界*=0.9 大船渡市盛町*=0.9 山田町八幡町=0.8 盛岡市薮川*=0.8 八幡平市田頭*=0.7 盛岡市山王町=0.7 盛岡市洪民*=0.7 宮古市鉾ヶ崎=0.6 花巻市大迫総合支所*=0.6 盛岡市馬場町*=0.5 久慈市枝成沢=0.5 宮古市五月町*=0.5 宮古市川井*=0.5 3 石巻市桃生町*=3.0 涌谷町新町裏=2.7 登米市迫町*=2.5 2 気仙沼市唐桑町*=2.4 登米市東和町*=2.4 登米市中田町=2.3 登米市豊里町*=2.3 登米市南方町*=2.3 登米市石越町*=2.3 登米市米山町*=2.1 登米市津山町*=2.1 岩沼市桜*=2.1 石巻市北上町*=2.1 南三陸町志津川=2.0 宮城川崎町前川*=2.0 仙台宮城野区苦竹*=2.0 気仙沼市赤岩=2.0 大崎市田尻*=1.9 栗原市栗駒=1.9 栗原市鶯沢*=1.9 栗原市志波姫*=1.9 東松島市矢本*=1.9 栗原市瀬峰*=1.8 南三陸町歌津*=1.8 宮城美里町北浦*=1.8 大崎市古川大崎=1.8 大崎市鳴子*=1.8 東松島市小野*=1.8 栗原市若柳*=1.7 栗原市一迫*=1.7 気仙沼市笹が陣*=1.7 大崎市松山*=1.7 気仙沼市本吉町西川内=1.7 栗原市築館*=1.6 大崎市古川三日町=1.6 栗原市金成*=1.6 石巻市前谷地*=1.6 登米市登米町*=1.6 大崎市鹿島台*=1.6 宮城美里町木間塚*=1.5 蔵王町円田*=1.5 石巻市大街道南*=1.5 大崎市古川北町*=1.5 気仙沼市本吉町津谷*=1.5 栗原市高清水*=1.5 1 角田市角田*=1.4 仙台青葉区大倉=1.4 石巻市雄勝町*=1.4 女川町女川浜*=1.4 名取市増田*=1.3 村田町村田*=1.3 栗原市花山*=1.3 柴田町船岡=1.2 石巻市泉町=1.2 石巻市相野谷*=1.2 大郷町粕川*=1.2 山元町浅生原*=1.1 塩竈市旭町*=1.1 多賀城市中央*=1.1 松島町高城=1.1 大衡村大衡*=1.1 仙台若林区遠見塚*=1.1 仙台空港=1.1 大河原町新南*=1.0 色麻町四竈*=1.0 亘理町下小路*=1.0 大崎市岩出山*=1.0 仙台青葉区作並*=1.0 仙台宮城野区五輪=1.0 仙台青葉区落合*=0.9 七ヶ浜町東宮浜*=0.9 石巻市大瓜=0.9 仙台泉区将監*=0.8 仙台青葉区雨宮*=0.8 宮城加美町小野田*=0.8 富谷市富谷*=0.7 石巻市鮎川浜*=0.7 丸森町鳥屋*=0.7 大和町吉岡*=0.7 利府町利府*=0.5 2 飯館村伊丹沢*=1.6 1 相馬市中村*=1.2 新地町谷地小屋*=1.2 川俣町五百田*=1.1 南相馬市原町区三島町=1.1 田村市都路町*=1.0 南相馬市鹿島区西町*=1.0 福島市桜木町*=0.9 福島市五老内町*=0.9 二本松市針道*=0.9 国見町藤田*=0.9 福島伊達市梁川町*=0.9 福島伊達市霊山町*=0.9 本宮市白岩*=0.9 南相馬市鹿島区栃窪=0.9 南相馬市原町区高見町*=0.9 田村市船引町=0.8 田村市大越町*=0.8 田村市滝根町*=0.7 福島伊達市保原町*=0.7 福島市松木町=0.7 本宮市本宮*=0.7 二本松市油井*=0.7 田村市常葉町*=0.6 檜葉町北田*=0.6 玉川村小高*=0.6 福島伊達市月館町*=0.5 小野町中通*=0.5 川内村下川内=0.5 浪江町幾世橋=0.5 桑折町東大隅*=0.5 1 階上町道仏*=1.0 1 東成瀬村椿川*=0.7 横手市大雄*=0.6 仙北市西木町上桧木内*=0.6 大仙市高梨*=0.5 1 天童市老野森*=0.7 河北町谷地=0.6 東根市中央*=0.5	38° 32.3' N	141° 34.2' E	63km	M: 4.3
93	26 04 04	胆振地方中東部 北海道 2 厚真町鹿沼=1.9 安平町追分柏が丘*=1.7 安平町早来北進*=1.5 1 むかわ町松風*=1.3 むかわ町穂別*=1.2 札幌東区元町*=1.1 新千歳空港=1.1 厚真町京町*=1.0 平取町本町*=0.8 千歳市支笏湖温泉*=0.7 千歳市若草*=0.6 千歳市北栄=0.6 恵庭市京町*=0.5	42° 40.1' N	141° 58.3' E	28km	M: 3.3
94	26 08 36	奄美大島近海 鹿児島県 1 宇検村湯湾*=0.5	28° 22.4' N	129° 17.3' E	12km	M: 2.6
95	26 16 55	十勝地方南部 北海道 1 十勝大樹町生花*=0.5	42° 39.6' N	143° 07.1' E	70km	M: 2.9
96	26 23 51	十勝沖 北海道 1 十勝池田町西1条*=1.1 十勝大樹町生花*=1.1 豊頃町茂岩本町*=0.8 本別町向陽町*=0.6 本別町北2丁目=0.5	42° 17.5' N	143° 48.4' E	79km	M: 3.9
97	27 06 35	釧路沖 北海道 1 浜中町茶内*=1.1 根室市落石東*=0.5	42° 46.4' N	144° 46.9' E	53km	M: 3.7
98	27 09 57	福島県沖 福島県 2 檜葉町北田*=2.4 富岡町本岡*=2.0 福島広野町下北迫大谷地原*=1.9 いわき市三和町=1.6	37° 10.3' N	141° 19.7' E	47km	M: 4.1

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度（計 測 震 度）	緯度	経度	深さ	規模
		双葉町両竹＊=1.6 1 浪江町幾世橋=1.4 南相馬市小高区＊=1.4 田村市大越町＊=1.3 いわき市小名浜=1.3 玉川村小高＊=1.2 小野町小野新町＊=1.1 相馬市中村＊=1.1 田村市滝根町＊=1.0 いわき市錦町＊=1.0 棚倉町棚倉中居野=0.9 白河市新白河＊=0.9 福島広野町下北迫苗代替＊=0.9 いわき市平四ツ波＊=0.8 川内村上川内早渡＊=0.8 田村市常葉町＊=0.7 大熊町野上＊=0.7 田村市都路町＊=0.7 矢祭町戸塚＊=0.7 小野町中通＊=0.7 浅川町浅川＊=0.6 南相馬市原町区高見町＊=0.5 天栄村下松本＊=0.5 白河市郭内=0.5 川内村上川内小山平＊=0.5 宮城県 1 岩沼市桜＊=0.8 茨城県 1 北茨城市磯原町＊=1.1 日立市助川小学校＊=0.9 日立市十王町友部＊=0.9 北茨城市中郷町＊=0.9 大子町池田＊=0.8 常陸大宮市山方＊=0.8 東海村東海＊=0.7 日立市役所＊=0.6 笠間市石井＊=0.6 城里町小勝＊=0.6 栃木県 1 宇都宮市明保野町=0.5 那須烏山市中央=0.5				
99	27 11 59	根室半島南東沖 北海道 1 根室市瑤瑤瑯＊=0.5	42° 47.6' N	146° 14.4' E	35km	M: 4.0
100	27 12 49	奄美大島近海 鹿児島県 1 宇検村湯湾＊=0.6	28° 22.3' N	129° 17.8' E	9km	M: 2.3
101	27 20 32	福島県沖 宮城県 1 岩沼市桜＊=0.6 利府町利府＊=0.5 角田市角田＊=0.5 福島県 1 双葉町両竹＊=0.9 相馬市中村＊=0.8 浪江町幾世橋=0.8 南相馬市原町区高見町＊=0.5	37° 16.4' N	142° 08.3' E	34km	M: 4.4
102	27 20 37	熊本県熊本地方 熊本県 1 熊本中央区大江＊=0.5	32° 46.0' N	130° 43.5' E	8km	M: 1.8
103	28 00 30	沖縄本島近海 沖縄県 2 座間味村座間味＊=1.8 1 渡名喜村渡名喜＊=1.4 恩納村恩納＊=1.3 久米島町謝名堂=1.3 国頭村辺土名＊=1.2 名護市豊原=1.2 本部町役場＊=1.0 読谷村座喜味=1.0 今帰仁村仲宗根＊=0.9 渡嘉敷村渡嘉敷＊=0.9 久米島町比嘉＊=0.9 久米島町山城=0.8 名護市港＊=0.7 沖縄市美里＊=0.7 久米島町仲泊＊=0.6 国頭村奥=0.6 宜野湾市野嵩＊=0.5	26° 37.7' N	127° 15.3' E	68km	M: 4.1
104	28 02 24	十勝地方南部 北海道 4 浦幌町桜町＊=4.2 安平町早来北進＊=4.1 むかわ町穂別＊=3.8 千歳市支笏湖温泉＊=3.8 平取町振内＊=3.7 厚真町鹿沼=3.7 むかわ町松風＊=3.6 美唄市西5条=3.5 安平町追分柏が丘＊=3.5 3 江別市緑町＊=3.4 三笠市幸町＊=3.4 帯広市東4条=3.4 十勝大樹町生花＊=3.4 浦河町潮見=3.3 新冠町北星町＊=3.3 帯広市東6条＊=3.3 十勝池田町西1条＊=3.3 本別町北2丁目=3.3 新ひだか町静内山手町=3.3 千歳市若草＊=3.2 美唄市西3条＊=3.2 幕別町忠類錦町＊=3.2 厚真町京町＊=3.1 新ひだか町静内御幸町＊=3.1 日高地方日高町門別＊=3.1 鹿追町東町＊=3.1 新篠津村第4 7線＊=3.1 南幌町栄町＊=3.0 中富良野町本町＊=3.0 札幌清田区平岡＊=3.0 芽室町東2条＊=3.0 新ひだか町三石旭町＊=3.0 浦河町野深=3.0 北広島市共栄＊=3.0 本別町向陽町＊=3.0 浦河町築地＊=3.0 釧路市音別町中園＊=3.0 長沼町中央＊=2.9 豊頃町茂岩本町＊=2.9 千歳市北栄=2.9 新千歳空港=2.9 十勝大樹町東本通＊=2.9 函館市新浜町＊=2.9 幕別町本町＊=2.9 江別市高砂町=2.8 恵庭市京町＊=2.8 栗山町松風＊=2.8 札幌北区太平＊=2.8 札幌東区元町＊=2.8 様似町栄町＊=2.8 小樽市勝納町=2.8 平取町本町＊=2.8 札幌白石区北郷＊=2.8 札幌厚別区もみじ台＊=2.8 新得町2条＊=2.7 札幌北区新琴似＊=2.7 札幌北区篠路＊=2.7 広尾町並木通=2.7 岩見沢市栗沢町東本町＊=2.7 白糠町西1条＊=2.7 別海町常盤=2.7 幕別町忠類明和=2.7 新ひだか町静内御園=2.6 音更町元町＊=2.6 十勝清水町南4条=2.6 岩見沢市北村赤川＊=2.6 当別町白樺＊=2.6 釧路市黒金町＊=2.6 苫小牧市旭町＊=2.6 足寄町上螺湾=2.6 足寄町南1条＊=2.6 札幌手稲区前田＊=2.6 更別村更別＊=2.5 苫小牧市末広町=2.5 由仁町新光＊=2.5 赤井川村赤井川＊=2.5 広尾町白樺通=2.5 2 石狩市花川=2.4 函館市泊町＊=2.4 岩見沢市鳩が丘＊=2.4 洞爺湖町洞爺町＊=2.4 上士幌町上士幌＊=2.4 中札内村東2条＊=2.4 釧路市音別町尺別=2.4 別海町本別海＊=2.4 月形町円山公園＊=2.3 釧路市幸町=2.3 岩見沢市5条=2.3 標茶町塘路＊=2.3 余市町浜中町＊=2.3 根室市厚床＊=2.3 士幌町士幌＊=2.3 登別市桜木町＊=2.2 釧路市阿寒町中央＊=2.2 釧路町別保＊=2.2 新ひだか町静内農屋＊=2.2 別海町西春別＊=2.2 えりも町目黒＊=2.2 上士幌町清水谷＊=2.2 石狩市花畔＊=2.2 上富良野町大町=2.2 南富良野町役場＊=2.2 札幌南区石山＊=2.2 釧路市阿寒町阿寒湖温泉＊=2.1 釧路町仲町＊=2.1 余市町朝日町=2.1 札幌豊平区月寒東＊=2.1 浦臼町ウラウスナイ＊=2.1 室蘭市寿町＊=2.1 厚岸町真栄＊=2.0 浜中町茶内＊=2.0 標茶町川上＊=2.0 喜茂別町喜茂別＊=2.0 鶴居村鶴居東＊=2.0 夕張市若菜=2.0 胆振伊達市大滝区本町＊=2.0 白老町大町=2.0 新得町トムラウシ＊=2.0 日高地方日高町日高＊=2.0 札幌南区川沿＊=1.9 陸別町陸別＊=1.9 京極町京極＊=1.9 倶知安町南1条=1.9 弟子屈町弟子屈＊=1.9 滝川市新町＊=1.9 比布町北町＊=1.9 富良野市若松町=1.9 奈井江町奈井江＊=1.9 えりも町えりも岬＊=1.9 石狩市聚富=1.9 札幌西区琴似＊=1.9 平取町仁世字=1.8 標津町北2条＊=1.8 小樽市花園町＊=1.8 占冠村中央＊=1.8 恵庭市漁平=1.8 函館市川汲町＊=1.8 新十津川町中央＊=1.8 厚岸町尾幌=1.8 倶知安町北4条＊=1.8 滝川市大町=1.8 白老町緑丘＊=1.8 南富良野町幾寅=1.8 上砂川町上砂川＊=1.7 札幌中央区北2条=1.7 留寿都村留寿都＊=1.7 砂川市西6条＊=1.7 北見市公園町=1.7 美瑛町忠別＊=1.7 壮瞥町滝之町＊=1.7 鹿部町宮浜＊=1.7 富良野市末広町＊=1.7 登別市鉾山=1.7 石狩市厚田＊=1.6 北竜町和＊=1.6 北見市留辺藁町栄町＊=1.6 訓子府町東町＊=1.6 置戸町拓殖＊=1.6 湧別町栄町＊=1.6 胆振伊達市梅本=1.6 古平町浜町＊=1.6 札幌中央区南4条＊=1.5 芦別市旭町=1.5 根室市落石東＊=1.5 赤平市泉町＊=1.5 弟子屈町美里=1.5 仁木町西町＊=1.5 函館市日ノ浜町＊=1.5 1 渡島森町砂原＊=1.4 ニセコ町中央通＊=1.4 真狩村真狩＊=1.4 北竜町竜西=1.4 当麻町3条＊=1.4	42° 33.6' N	142° 52.7' E	102km	M: 5.6

平成31年 4 月 地震・火山月報（防災編）

地震 番号	震源時 日 時 分	震央地名 各 地 の 震 度 (計 測 震 度)	緯度	経度	深さ	規模
		留萌市幸町*=1.4 北見市南仲町*=1.4 北見市常呂町常呂*=1.4 遠軽町生田原*=1.4 洞爺湖町栄町*=1.4 根室市瑤瑤瑠*=1.4 大空町東藻琴*=1.3 鷹栖町南1条*=1.3 妹背牛町妹背牛*=1.3 函館市尾札部町=1.3 津別町幸町*=1.3 えりも町本町=1.3 浜中町湯沸=1.3 雨竜町フシコウリウ*=1.2 和寒町西町*=1.2 石狩市浜益*=1.2 岩内町清住*=1.2 沼田町沼田*=1.2 東神楽町南1条*=1.1 深川市1条*=1.1 岩内町高台=1.1 増毛町見晴町*=1.1 美幌町東3条=1.1 弟子屈町サワンチサップ*=1.1 秩父別町役場*=1.1 中標津町養老牛=1.1 小清水町小清水*=1.1 渡島森町御幸町=1.1 北見市留辺蘂町上町=1.1 渡島森町上台町*=1.0 七飯町本町*=1.0 幌加内町平和*=1.0 積丹町美国町*=1.0 長万部町平里*=1.0 芦別市北2条*=1.0 上川地方上川町越路=1.0 美瑛町本町*=1.0 初山別村有明=1.0 北見市留辺蘂町富士見*=1.0 根室市牧の内*=0.9 函館市美原=0.9 七飯町桜町=0.9 興部町興部*=0.9 旭川市宮前1条=0.9 福島町福島*=0.8 標津町古多糠=0.8 上川地方上川町花園町*=0.8 札幌南区定山溪温泉*=0.8 蘭越町蘭越*=0.8 愛別町南町*=0.8 黒松内町黒松内*=0.7 室蘭市山手町=0.7 小平町達布*=0.7 遠軽町丸瀬布金湧山=0.6 羅臼町緑町*=0.6 豊浦町大岸*=0.6 留萌市大町=0.5 北見市常呂町吉野=0.5 佐呂間町永代町*=0.5 せたな町瀬棚区本町*=0.5 3 階上町道仏*=2.9 東通村砂子又沢内*=2.5 2 野辺地町野辺地*=2.4 八戸市南郷*=2.3 七戸町森ノ上*=2.3 むつ市金曲=2.3 五戸町倉石中市*=2.2 おいらせ町中下田*=2.2 八戸市湊町=2.1 八戸市内丸*=2.1 野辺地町田狭沢*=2.1 東北町上北南*=2.1 青森南部町苫米地*=2.1 むつ市大畑町中島*=2.1 東通村砂子又蒲谷地=2.1 三沢市桜町*=2.0 五戸町古館=2.0 平内町小湊=2.0 六戸町大落瀬*=1.9 おいらせ町上明堂*=1.8 むつ市金谷*=1.8 佐井村長後*=1.7 横浜町林ノ脇*=1.7 東北町塔ノ沢山*=1.7 七戸町七戸*=1.6 横浜町寺下*=1.6 むつ市川内町*=1.6 佐井村佐井*=1.6 六ヶ所村尾駈=1.6 東通村白糠*=1.5 青森市浪岡*=1.5 蓬田村蓬田*=1.5 1 青森市中央*=1.4 藤崎町水木*=1.4 十和田市西二番町*=1.4 十和田市西十二番町*=1.4 三戸町在府小路町*=1.4 青森市花園=1.3 つがる市稲垣町*=1.3 藤崎町西豊田*=1.3 大間町大間*=1.3 風間浦村易国間*=1.3 十和田市奥瀬*=1.2 青森南部町沖田面*=1.2 平川市猿賀*=1.2 外ヶ浜町平館*=1.1 中泊町中里*=1.1 黒石市市ノ町*=1.1 田舎館村田舎館*=1.1 東通村尻屋*=1.1 五所川原市敷島町*=1.1 五所川原市金木町*=1.1 平内町東田沢*=1.1 今別町今別*=1.0 板柳町板柳*=1.0 田子町田子*=1.0 つがる市木造*=1.0 むつ市大畑町奥薬研=1.0 むつ市脇野沢*=1.0 つがる市柏*=1.0 つがる市車力町*=1.0 新郷村戸来*=0.9 六ヶ所村出戸=0.9 平川市柏木町*=0.8 八戸市島守=0.8 鶴田町鶴田*=0.8 五所川原市相内*=0.6 五所川原市太田=0.6 2 久慈市枝成沢=2.0 軽米町軽米*=2.0 盛岡市薮川*=1.8 二戸市浄法寺町*=1.6 一戸町高善寺*=1.5 八幡平市田頭*=1.5 矢巾町南矢幅*=1.5 1 岩手洋野町種市=1.4 盛岡市山王町=1.3 岩手洋野町大野*=1.2 宮古市田老*=1.1 盛岡市渋民*=1.1 遠野市青笹町*=1.1 久慈市川崎町=1.0 住田町世田米*=1.0 二戸市福岡=1.0 九戸村伊保内*=1.0 一関市室根町*=1.0 宮古市区界*=0.9 二戸市石切所*=0.9 岩手町五日市*=0.9 一関市千厩町*=0.9 葛巻町葛巻元木=0.8 八幡平市大更=0.8 遠野市宮守町*=0.8 宮古市鉾ヶ崎=0.8 大船渡市大船渡町=0.7 奥州市胆沢*=0.7 久慈市長内町*=0.7 宮古市川井*=0.7 葛巻町消防分署*=0.6 花巻市大迫町=0.6 花巻市石鳥谷町*=0.6 北上市相去町*=0.6 山田町大沢*=0.6 一関市大東町=0.6 宮古市五月町*=0.6 一関市東山町*=0.6 一関市藤沢町*=0.6 盛岡市馬場町*=0.5 田野畑村役場*=0.5 宮古市茂市*=0.5 山田町八幡町=0.5 宮城県 1 登米市迫町*=1.1 気仙沼市笹が陣*=1.0 気仙沼市唐桑町*=1.0 石巻市桃生町*=1.0 登米市中田町=0.9 気仙沼市赤岩=0.8 登米市登米町*=0.8 登米市米山町*=0.8 登米市南方町*=0.8 南三陸町志津川=0.8 石巻市大街道南*=0.8 宮城美里町木間塚*=0.7 岩沼市桜*=0.7 栗原市栗駒=0.5 秋田県 1 能代市上町*=0.5				
105	28 05 40	福島県沖 福島県	37° 03.7' N	141° 24.6' E	33km	M: 3.2
		1 いわき市三和町=0.5				
106	29 03 32	富山県東部 富山県	36° 30.0' N	137° 27.8' E	8km	M: 2.7
		1 立山町吉峰=0.5				
107	29 07 26	福島県沖 福島県	37° 18.9' N	141° 35.6' E	30km	M: 4.0
		1 双葉町両竹*=1.0 浪江町幾世橋=0.6				
108	29 14 24	遠州灘 宮城県 福島県	34° 32.5' N	137° 34.5' E	319km	M: 4.8
		1 岩沼市桜*=0.7 1 浪江町幾世橋=1.3 双葉町両竹*=1.0 田村市大越町*=0.9 檜葉町北田*=0.9 玉川村小高*=0.9 いわき市三和町=0.8 白河市東*=0.8 田村市都路町*=0.7 福島広野町下北迫大谷地原*=0.7 いわき市錦町*=0.5 茨城県 1 日立市助川小学校*=1.0 笠間市石井*=0.8 水戸市内原町*=0.7 城里町小勝*=0.6 桜川市羽田*=0.5 笠間市笠間*=0.5 石岡市柿岡=0.5 栃木県 1 宇都宮市明保野町=1.0 益子町益子=0.5 千葉県 1 市原市姉崎*=0.7 東京都 1 東京千代田区大手町=0.6				
109	29 19 21	福島県会津 福島県	37° 03.2' N	139° 28.0' E	9km	M: 2.4
		1 檜枝岐村上河原*=0.8				
110	29 20 55	トカラ列島近海 鹿児島県	29° 21.6' N	129° 07.9' E	14km	M: 3.0
		1 鹿児島十島村悪石島*=0.8				
111	30 16 01	有明海 熊本県	32° 43.8' N	130° 36.8' E	12km	M: 2.4
		1 熊本西区春日=0.6				

● 付録2 過去1年間に震度1以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
 <平成30年（2018年）5月～平成31年（2019年）4月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
平成30年（2018年）											
5月	100	42	12	5	1	1				161	「平成28年（2016年）熊本地震」の地震活動 （震度4：1回、震度2：3回、震度1：10回） 12日 長野県北部（震度5弱） 地震活動（震度5弱：1回、震度3：3回、震度2：2回、 震度1：5回） 25日 長野県北部（震度5強） 地震活動（震度5強：1回、震度3：1回、震度2：6回、 震度1：10回）
6月	127	49	17	5	1		1			200	「平成28年（2016年）熊本地震」の地震活動 （震度1以上合計：12回） 千葉県東方沖から千葉県北東部及び南部付近にかけての地震 活動（震度4：2回、震度3：6回、震度2：8回、震度 1：10回） 17日 群馬県南部（震度5弱） 18日 大阪府北部（震度6弱）※1 地震活動（震度6弱：1回、震度4：1回、震度3：4回、 震度2：11回、震度1：25回）
7月	109	34	10	5	1					159	大阪府北部の地震活動（※1の周辺） （震度3：1回、震度2：3回、震度1：9回） 7日 千葉県東方沖（震度5弱） 地震活動（震度5弱：1回、震度2：3回、震度1：7回）
8月	89	29	11	2						131	
9月	229	113	46	19	1				1	409	「平成30年北海道胆振東部地震」の地震活動 （震度7：1回、震度5弱：1回、震度4：16回、震度3： 33回、震度2：75回、震度1：151回）
10月	106	51	16	10	1					184	「平成30年北海道胆振東部地震」の地震活動 （震度5弱：1回、震度4：4回、震度3：2回、震度2： 6回、震度1：22回）
11月	148	38	10	5						201	「平成30年北海道胆振東部地震」の地震活動 （震度4：1回、震度2：4回、震度1：8回） 岐阜県飛騨地方（長野・岐阜県境付近）の地震活動 （震度2：6回、震度1：43回）
12月	100	33	11	2						146	
平成31年（2019年）											
1月	100	48	4	4	1		1			158	3日 熊本県熊本地方（震度6弱） 26日 熊本県熊本地方（震度5弱）
2月	82	40	7	1			1			131	「平成30年北海道胆振東部地震」の地震活動 （震度6弱：1回、震度3：1回、震度2：3回、震度1： 6回）
3月	93	30	10	5						138	
4月	78	24	8	1						111	
平成31年計	353	142	29	11	1	0	2	0	0	538	
過去1年計	1361	531	162	64	6	1	3	0	1	2129	（平成30年5月～平成31年4月）

注）「記事」の欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上を10回以上観測した地震活動について記載した。

● 付録3 日本及びその周辺におけるマグニチュード (M) 別の月別地震回数
 <平成30年（2018年）5月～平成31年（2019年）4月>

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0 以上	計 M4.0 以上	記事
平成30年（2018年）								
5月	339	56	11			406	67	
6月	357	68	5	1		431	74	18日 大阪府北部（M6.1）
7月	328	73	14	1		416	88	7日 千葉県東方沖（M6.0）
8月	365	96	11	2		474	109	17日03時21分 硫黄島近海（M6.3） 17日03時23分 硫黄島近海（M6.6）
9月	586	120	14	3		723	137	「平成30年北海道胆振東部地震」の地震活動 6日 胆振地方中東部（M6.7） 15日 沖縄本島近海（M6.2） 16日 沖縄本島近海（M6.0）
10月	410	80	14	2		506	96	23日 与那国島近海（M6.1） 24日 与那国島近海（M6.3）
11月	362	77	9	2		450	88	2日 オホーツク海南部（M6.1） 5日 国後島付近（M6.3）
12月	308	66	13			387	79	
平成31年（2019年）								
1月	324	65	10	1		400	76	8日 種子島近海（M6.0）
2月	369	66	14			449	80	
3月	336	69	14	3		422	86	2日 根室半島南東沖（M6.2） 11日 福島県沖（M6.0） 11日 硫黄島近海（M6.1）
4月	414	79	14	2		509	95	11日 三陸沖（M6.2） 18日 台湾付近（M6.5）
平成31年計	1443	279	52	6	0	1780	337	
過去1年計	4498	915	143	17	0	5573	1075	（平成30年5月～平成31年4月）

注）日本及びその周辺：原則、北緯20～49度、東経120～154度の範囲。「記事」の欄には主にM6.0以上の地震を記載した。

● 付録 4. 長周期地震動階級 1 以上を観測した地震

平成 31 年 4 月に、長周期地震動階級 ※ 1 以上を観測した地震はなかった。

平成 25 年 3 月～平成 31 年 4 月に長周期地震動階級 1 以上を観測した地震の月別回数
（平成 25 年 3 月 28 日の長周期地震動に関する観測情報（試行）※※の提供開始以降）

年 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
平成 25 年 (2013 年)			1	4	1	0	0	1	1	1	1	1	11
平成 26 年 (2014 年)	0	1	1	0	1	1	3	0	1	1	1	0	10
平成 27 年 (2015 年)	0	3	0	1	2	0	2	0	0	0	1	0	9
平成 28 年 (2016 年)	1	0	0	13	1	1	0	2	0	2	4	1	25
平成 29 年 (2017 年)	1	2	0	0	0	1	2	0	1	1	0	1	9
平成 30 年 (2018 年)	1	0	1	1	1	2	2	0	2	2	0	0	12
平成 31 年 (2019 年)	1	1	0	0									2

長周期地震動階級関連解説表

	長周期地震動 階級	人の体感・行動	室内の状況	備考
	長周期地震動 階級 1	室内にいたほとんどの 人が揺れを感じる。驚 く人もいる。	ブラインドなど吊り下げ もの大きく揺れる。	ー
	長周期地震動 階級 2	室内で大きな揺れを感じ、 物につかまりたいと 感じる。物につかま らないと歩くことが難 しいなど、行動に支障 を感じる。	キャスター付き什器がわ ずかに動く。棚にある食 器類、書棚の本が落ち ることがある。	ー
	長周期地震動 階級 3	立っていることが困難 になる。	キャスター付き什器が大 きく動く。固定してい ない家具が移動するこ とがあり、不安定なも のは倒れることがある。	間仕切壁などにひび割れ・ 亀裂が入ることがある。
	長周期地震動 階級 4	立っていることができ ず、はわないと動くこ とができない。揺れに ほんろうされる。	キャスター付き什器が大 きく動き、転倒するも のがある。固定してい ない家具の大半が移動 し、倒れるものもある。	間仕切壁などにひび割れ・ 亀裂が多くなる。

※ 長周期地震動階級に関する詳細は、平成 30 年 12 月号「付録 10. 長周期地震動階級関連解説表」を参照。
※※ 長周期地震動に関する観測情報（試行）に関する詳細は、地震・火山月報（防災編）平成 25 年 4 月号
「特集 3. 長周期地震動に関する観測情報（試行）について」を参照。なお、平成 31 年 3 月 19 日に長
周期地震動に関する観測情報の本運用を開始した。

● 付録 5. 緊急地震速報の提供状況

平成 31 年 4 月に緊急地震速報（警報）を発表した地震はなかった。また、緊急地震速報（予報）を発表した回数は 88 回であった。

平成 19 年 10 月～平成 31 年 4 月に発表した緊急地震速報の月別回数

年 \ 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
平成19年 (2007年)										0(48)	0(33)	0(39)	0(120)
平成20年 (2008年)	0(35)	0(41)	0(48)	1(42)	1(70)	3(75)	2(63)	0(47)	1(58)	0(46)	1(40)	0(57)	9(622)
平成21年 (2009年)	0(44)	0(39)	0(34)	0(34)	0(24)	0(54)	0(36)	2(65)	0(47)	1(44)	0(39)	0(47)	3(507)
平成22年 (2010年)	0(53)	1(44)	1(50)	0(36)	0(27)	0(35)	0(47)	0(51)	1(40)	1(50)	0(40)	1(34)	5(507)
平成23年 (2011年)	0(50)	0(74)	45(1191)	26(770)	5(425)	5(304)	5(248)	3(239)	4(188)	1(163)	2(135)	1(136)	97(3923)
平成24年 (2012年)	2(149)	3(141)	3(142)	2(128)	1(129)	3(118)	0(102)	1(107)	0(70)	0(109)	0(77)	1(134)	16(1406)
平成25年 (2013年)	0(81)	2(99)	0(53)	3(103)	0(91)	0(83)	0(102)	2(97)	1(61)	0(80)	0(93)	1(67)	9(1010)
平成26年 (2014年)	0(70)	0(70)	1(68)	0(62)	0(53)	0(57)	2(97)	1(96)	1(68)	0(84)	1(87)	0(75)	6(887)
平成27年 (2015年)	0(67)	1(88)	0(90)	1(77)	3(71)	0(84)	1(74)	0(88)	0(81)	0(92)	1(86)	0(75)	7(973)
平成28年 (2016年)	1(76)	0(71)	0(65)	20(228)	1(101)	2(89)	0(95)	0(71)	1(80)	3(92)	2(124)	1(86)	31(1178)
平成29年 (2017年)	0(77)	0(72)	0(61)	0(60)	0(52)	1(55)	1(79)	1(73)	2(52)	1(53)	0(57)	1(77)	7(768)
平成30年 (2018年)	2(64)	0(61)	1(76)	2(80)	1(52)	2(70)	1(55)	0(58)	2(158)	4(97)	1(68)	0(69)	16(908)
平成31年 /令和元年 (2019年)	1(66)	1(62)	0(63)	0(88)									2(279)

※ 表中の数字は緊急地震速報（警報）の発表回数、（ ）内の数字は緊急地震速報（予報）の発表回数を示す。

緊急地震速報（警報及び予報）の提供には、気象庁の地震計の観測データに加え、国立研究開発法人防災科学技術研究所の地震観測データを利用している。